

Oracle Portal

ポータル構築ガイド

リリース 3.0.8

2001 年 4 月

部品番号 : J02978-02

ORACLE®

Oracle Portal ポータル構築ガイド, リリース 3.0.8

部品番号: J02978-02

原本名: Oracle Portal Building Portals, Release 3.0.8

原本部品番号: A87570-01

原本著者: Vanessa Wang

原本協力者: Susan Barton, Marcie Caccamo, and Frank Rovitto, Tim Harkness, Jeanne Kramer, William Lankenau, Steven Leung, Dave Mathews, Darren McBurney, Dmitry Nonkin, Nancy Teh, Todd Vender, Harry Wong, Hui Zeng

Copyright © 1996, 2000, Oracle Corporation. All rights reserved.

Printed in Japan.

制限付権利の説明

プログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）の使用、複製または開示は、オラクル社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権に関する法律により保護されています。

当プログラムのリバース・エンジニアリング等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。オラクル社は本ドキュメントの無謬性を保証しません。

* オラクル社とは、Oracle Corporation（米国オラクル）または日本オラクル株式会社（日本オラクル）を指します。

危険な用途への使用について

オラクル社製品は、原子力、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションを用途として開発されておりません。オラクル社製品を上述のようなアプリケーションに使用することについての安全確保は、顧客各位の責任と費用により行ってください。万一かかる用途での使用によりクレームや損害が発生いたしましても、日本オラクル株式会社と開発元である Oracle Corporation（米国オラクル）およびその関連会社は一切責任を負いかねます。当プログラムを米国国防総省の米国政府機関に提供する際には、『Restricted Rights』と共に提供してください。この場合次の Notice が適用されます。

Restricted Rights Notice

Programs delivered subject to the DOD FAR Supplement are "commercial computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs, including documentation, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement. Otherwise, Programs delivered subject to the Federal Acquisition Regulations are "restricted computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs shall be subject to the restrictions in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software - Restricted Rights (June, 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このドキュメントに記載されているその他の会社名および製品名は、あくまでその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

目次

はじめに	vii
対象読者	vii
前提条件	vii
シナリオの例	viii
マニュアルの構成	viii
参照マニュアル	ix
マニュアルの表記規則	x

1 Oracle Portal とは

1.1	Oracle Portal の機能概要	1-1
1.1.1	ページ	1-3
1.1.2	コンテンツ領域	1-5
1.1.3	アプリケーション	1-7
1.1.4	セキュリティ	1-7
1.1.5	データの統合	1-8
1.2	このマニュアル内の例	1-9
1.2.1	簡単なイントラネット・ポータル	1-9
1.2.2	業務部門用ポータル	1-9
1.2.3	人事ポータル	1-9
1.2.4	情報リポジトリ	1-9

2 Web コンテンツの計画

2.1	ページの計画	2-2
2.1.1	ステップ 1: 対象読者の設定	2-2

2.1.2	ステップ 2: データの取得	2-3
2.1.3	ステップ 3: 外観の作成	2-4
2.1.4	ステップ 4: ページの編成	2-5
2.1.5	ステップ 5: セキュリティの考慮	2-5
2.2	コンテンツ領域の計画	2-6
2.2.1	情報の収集	2-8
2.2.2	情報の分析	2-13
2.2.3	コンテンツ領域構造のトラブルシューティング	2-24

3 イン트라ネット・ポータル作成と簡単なポートレットの追加

3.1	ページの作成	3-2
3.2	カスタマイズした HTML コードをポートレットとして追加	3-4
3.3	「お気に入り」ポートレットの追加とカスタマイズ	3-5
3.3.1	「お気に入り」ポートレットの追加	3-5
3.3.2	新しいお気に入りリンクの追加	3-6
3.3.3	既存のお気に入りリンクの削除	3-7
3.4	イベント・カレンダーを作成し、ポートレットとして追加	3-8
3.4.1	カレンダーの作成ウィザードを使用したイベント・カレンダーの作成	3-8
3.4.2	カレンダーを更新するフォームの作成	3-10
3.4.3	フォームの外観の変更	3-12
3.4.4	フォームのデータベース順序の作成	3-14
3.4.5	フォームとカレンダー間のリンクの作成	3-16
3.4.6	フォームにアクセスするボタンをカレンダー上に作成	3-17
3.4.7	カレンダーをポートレットとして追加	3-18
3.5	ポータルを他のユーザーに表示	3-19
3.6	まとめ	3-20

4 イン트라ネット・ポータル業務部門用ページの作成

4.1	タブ付きページを作成し、ポートレットとして追加	4-3
4.2	既存のフォルダをポートレットとして追加	4-5
4.3	営業チャート・ポートレットの作成およびレポートへのリンク	4-6
4.3.1	レポートの作成	4-6
4.3.2	販売レポートのテスト	4-9
4.3.3	販売レポートへのリンクの作成	4-10
4.3.4	販売チャートの作成	4-11

4.3.5	チャートのリンク・テスト	4-12
4.3.6	チャートをポートレットとして表示	4-13
4.4	2つのチャートを含む複数のタブ付き領域を作成	4-14
4.4.1	作成済みのチャートの使用	4-14
4.4.2	複数のチャートを同一ポートレットに追加	4-15
4.5	フォーム、レポートおよびチャートを含む複数のタブ付き領域の作成	4-17
4.5.1	販売チャートの作成	4-17
4.5.2	販売手数料レポートの作成	4-19
4.5.3	手数料検索フォームに2つの LOV を作成	4-21
4.5.4	手数料検索フォームの作成	4-23
4.5.5	チャート、レポートおよびフォームを同一ポートレットに追加	4-26
4.6	顧客入力フォームの作成	4-27
4.6.1	データベース順序の作成	4-27
4.6.2	フォームの REGION LOV の作成	4-28
4.6.3	顧客入力フォームの作成	4-29
4.7	製品レポートの作成	4-32
4.8	リンクを含むメニューの作成	4-34
4.8.1	メニュー用のリンクを2つ作成	4-34
4.8.2	メニューの作成	4-35
4.8.3	メニューをポートレットとして追加	4-37
4.9	まとめ	4-39

5 セキュリティを適用した人事ポータル作成

5.1	イントラネット・ポータルの3つのタブの作成	5-4
5.2	組織図にリンクする社員検索フォームの作成	5-7
5.2.1	チーム組織図の作成	5-7
5.2.2	チーム組織図にリンクする社員検索フォームの作成	5-10
5.3	人材募集状況を表示するコンポーネントと人材を募集するためのコンポーネントの作成	5-13
5.3.1	特定の人材募集状況を検索するフォームの作成	5-13
5.3.2	人材の募集または募集を終了するためのフォームの作成	5-15
5.3.3	人材募集状況レポートを検索フォームと接続するリンクの作成	5-21
5.3.4	現在のすべての人材募集状況を表示するレポートの作成	5-21
5.4	休暇届および休暇承認システムの作成	5-23
5.4.1	休暇届フォームの作成	5-23
5.4.2	休暇承認フォームの作成	5-27

5.4.3	届出休暇日を表示するカレンダーの作成	5-28
5.4.4	休暇残余日数レポートの作成	5-31
5.5	コンポーネントの表示を制御するセキュリティの適用	5-33
5.6	人事ポータルタブの設計	5-36
5.6.1	「Human Resources」タブへのポートレットの追加	5-36
5.6.2	「Managers」タブの作成	5-37
5.6.3	「HR Representatives」タブの作成	5-39
5.7	まとめ	5-41

6 情報リポジトリの作成

6.1	コンテンツとフォルダ構造を Zip ファイルとしてアップロード	6-3
6.2	カテゴリの作成	6-6
6.2.1	アイテムへのカテゴリの割当て	6-7
6.3	パースペクティブの作成	6-8
6.3.1	パースペクティブへのアイコンの関連付け	6-9
6.3.2	アイテムへのパースペクティブの割当て	6-9
6.4	カスタム・タイプの作成	6-11
6.4.1	属性を作成する	6-11
6.4.2	カスタム・アイテム・タイプの作成	6-12
6.4.3	コース説明の追加	6-13
6.4.4	プロシージャ・コールを伴うカスタム・アイテム・タイプの作成	6-15
6.4.5	年金に関する定義の追加	6-17
6.5	フォルダのレイアウトの変更	6-18
6.5.1	領域のプロパティの変更	6-19
6.5.2	領域へのアイテムの追加	6-22
6.5.3	別の領域へのアイテムの追加	6-23
6.6	フォルダのアクセス権限の変更	6-25
6.7	オブジェクトをポートレットとして公開	6-27
6.8	まとめ	6-28

A Oracle Portal 管理者タスク

A.1	サンプルを作成できるユーザーの作成	A-1
A.1.1	ユーザーの作成	A-1
A.1.2	ケースブック・アプリケーションに対するユーザー・アクセス権限の付与	A-2
A.1.3	ユーザーがオブジェクトをポートレットとして公開できるようにする	A-3

A.2	グループの作成	A-3
A.3	デモ用のポータル、スキーマおよびコンテンツ領域のインストール	A-4
A.4	スキーマに対するアクセス権限の付与	A-4
A.5	人事ポータルに対して3つのグループを作成	A-5
A.5.1	3つのユーザーの作成	A-5
A.5.2	人事管理者グループと人事担当者グループの作成	A-5
A.6	Inside Healthy Living Repository の作成	A-7

用語集

索引

はじめに

『Oracle Portal ポータル構築ガイド』へようこそ。このマニュアルを使用して、Oracle Portal およびその高度な機能について学ぶことができます。

対象読者

このマニュアルは、Oracle Portal を使用してポータルを構築するユーザーを対象としています。上級ユーザーが必要とする情報も含まれます。Oracle Portal およびポータル技術を初めて利用する場合は、『Oracle Portal チュートリアル』を参照してください。

各章には、ポータルおよび関連アプリケーションの構築方法が、手順ごとに詳細に説明されています。各ポータルを実際に構築することにより、Oracle Portal の強力な機能の多くを体験できます。

前提条件

このマニュアルは、Oracle Portal リリース 3.0 の環境に通じている、Portal の上級ユーザーを対象にしています。Oracle Portal にまだ精通していないユーザーの場合、『Oracle Portal チュートリアル』で Oracle Portal の基本概念を学ぶことをお勧めします。

マシンに Web ブラウザがインストールされている必要があります。ブラウザの最小要件および推奨要件については、リリース・ノートを参照してください。

Web ブラウザの使用に関する知識が必要です。たとえば、Web ブラウザの起動方法や、ハイパー・テキスト・リンクなど、基本的なユーザー・インタフェース要素を理解している必要があります。

次の情報を設定するか、ポータル管理者から取得する必要があります。

- Oracle Portal にログインするためのユーザー名およびパスワード
- Oracle Portal ホーム・ページの URL
- <http://technet.oracle.com> で提供されるポータルおよびコンテンツ領域のサンプル。詳細は、ポータル管理者に問い合わせるか、[付録 A.3「デモ用のポータル、スキーマおよびコンテンツ領域のインストール」](#)を参照してください。

Oracle Portal のインストールおよび構成方法の詳細は、『Oracle Portal 構成ガイド』を参照してください。

シナリオの例

このマニュアルに含まれるサンプルのシナリオは、健康およびフィットネス製品を提供する Healthy Living Wholesalers 社という企業の従業員用のポータルを構築するというものです。

マニュアルの構成

このマニュアルには、以下の章が含まれます。

- | | |
|---|--|
| 第 1 章「 Oracle Portal とは 」 | Oracle Portal の環境および概念について簡潔に説明します。 |
| 第 2 章「 Web コンテンツの計画 」 | ポータルを構築する上での推奨事項、および開発を始める前に念頭に置く必要のある要件について説明します。 |
| 第 3 章「 イントラネット・ポータルの作成と簡単なポートレットの追加 」 | ページの構築およびポートレットの追加を行う方法を説明します。また、リンクおよびデータベース順序を使用してカレンダー・アプリケーションを構築する方法についても説明します。 |
| 第 4 章「 イントラネット・ポータルの業務部門用ページの作成 」 | Healthy Living Wholesalers 社の営業 (Sales) 部門固有のポータル構築方法を説明します。既存のポータルにページを追加する方法、およびレポート、フォーム、メニューおよびチャート・コンポーネントを作成する方法について説明します。また、複数タブ付きポートレット、動的および静的値リスト、データベース・リンクの作成方法についても説明します。 |

第5章「セキュリティを適用した人事ポータル」の作成	人事部門用のポータルを構築する方法を説明します。ここでは、3つの異なるタイプのユーザーがポータルのビューをカスタマイズします。ページやタブ、また個別のコンポーネントにセキュリティを実装する方法を説明します。また、SQL 問合せに基づいた階層やレポートの作成方法についても説明します。ポータルの既存のコンテンツ領域から取得した情報を利用する方法を示します。
第6章「情報リポジトリの作成」	企業の情報を含むコンテンツ領域（HTML ページ、テキスト・ファイル、イメージなど）を構築する方法を説明します。
付録 A「Oracle Portal 管理者タスク」	データベース内にポータルを作成可能な Oracle Portal ユーザーを作成する方法を説明します。
「用語集」	Oracle Portal に固有の用語について説明します。

参照マニュアル

詳細は、次のマニュアルを参照してください。

- 『Oracle Portal チュートリアル』
- 『Oracle9i Application Server リリース・ノート』

マニュアルの表記規則

このマニュアルで使用される表記規則は、次のとおりです。

マニュアルの表記規則	意味
太字	太字は、テキスト、用語集、またはその両方で定義された用語を示します。 また、太字は、ボタン名、ラベル、リンクおよびその他のユーザー・インタフェース要素にも使用されます。
固定幅フォント	固定幅フォントのテキストは、入力する必要のあるテキストを示します。
<>	山カッコは、ユーザーが指定する名前を示します。該当する値に置き換えてください。
[]	大カッコは、オプション句を示します。オプション句では、そのいずれかを選択するか、または何も選択しません。

Oracle Portal とは

この章では、Oracle Portal の基本情報、およびこのマニュアルに含まれる例について簡潔に説明します。以下の項が含まれます。

- 1.1 項「Oracle Portal の機能概要」
- 1.2 項「このマニュアル内の例」

1.1 Oracle Portal の機能概要

Oracle Portal を使用すると、**コンテンツ領域**（Web サイト内のアイテムを管理、分類および相互参照するための組込み構造を提供する）、**アプリケーション**（Oracle8i データベースのデータの挿入、管理、表示を可能にする）、**ページ**（コンテンツ領域やアプリケーションのデータを、たとえそのソースがイントラネット外であっても、1 つの場所からアクセス可能にする）という 3 つの明確なエンティティを作成することが可能になります。これらのエンティティを使用することにより、情報を効果的に管理、アクセスおよび対話処理できます。これらの概念を十分理解したとしても、製品の機能を最大限に活用するには、各部がどのように組み合されて全体が機能するかを明確に理解する必要があります。次の図を見てみましょう。

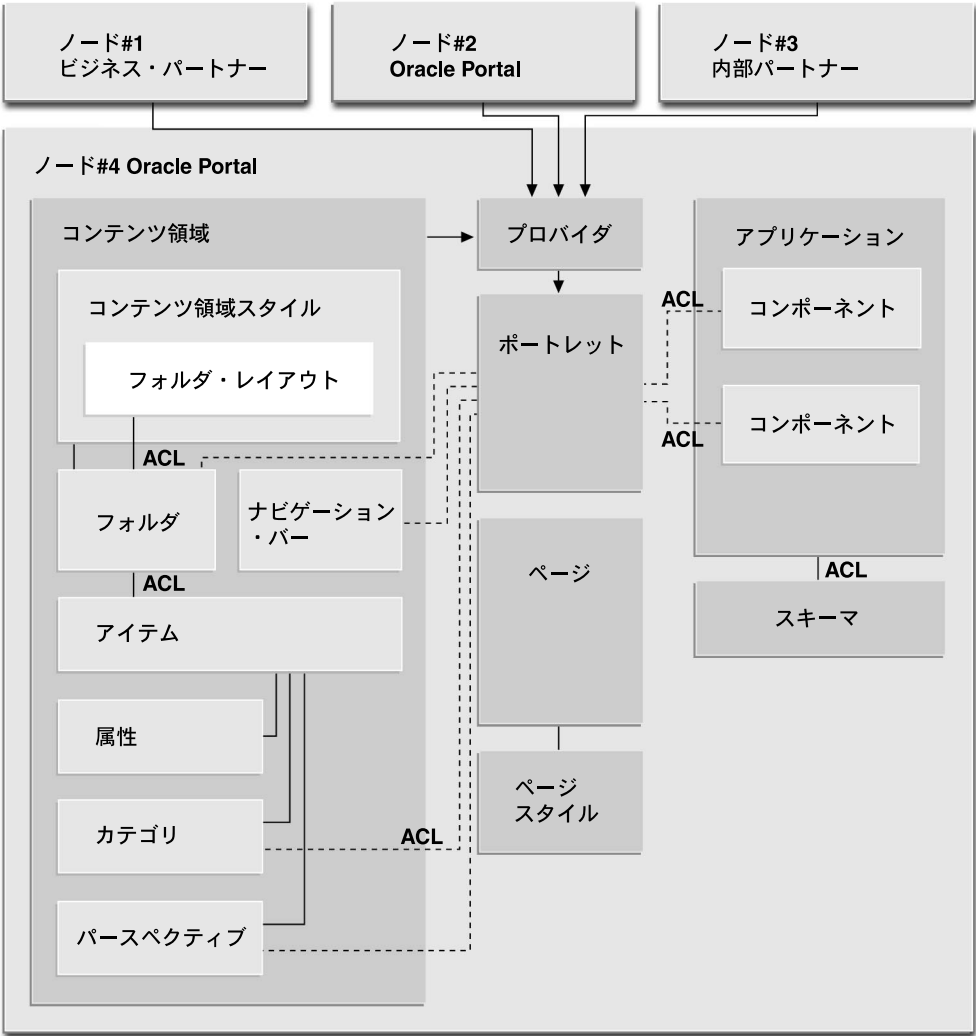


図 1-1 Oracle Portal のコンテンツ領域、ページおよびアプリケーション

ページ、ポートレットおよびポートレット・プロバイダが中央に配置されていることに注目してください。Oracle Portal を使用すると、ページを作成または使用せずにコンテンツ領域やアプリケーションを作成できますが、Oracle Portal の目的はポータル構築を可能にすることです。**ポータル**は、コンテンツ領域、外部 Web サイト、他のアプリケーション、ニュースフィードおよび他の有用な情報へのアクセスをユーザーに可能にする、Web ベースのアプリケーションです。簡単にいうと、ポータルは、大量の情報（通常は分散したデータ・ソースから取得した）に対し、単一の入口からのアクセスを可能にします。この入り口のことを、**ページ**といいます。たとえば、財務アナリストのページには、インターネット・ベースのリアルタイムの株価情報、オンライン・リポジトリからの財務レポート、および従来の財務会計や金融機関から取得した関連性のある財務情報を含めることができます。これらのデータ・ソースは、本来どれも類似しておらず、相互の関連性もありません。ただし、Oracle Portal では、これらすべてを同じページに並べて表示できます。

1.1.1 ページ

前述のとおり、ページがポータルの実際の入口になります。つまり、ポータルの内容と対話するときは、ページを表示して使用します。ページの外観（ページに描画される色やフォント）は、**ページ・スタイル**により制御されます。

各ページは、**領域**と呼ばれる四角形に分割されます。各領域内には、複数の**ポートレット**を配置できます。ポートレットは、情報ソースの要約や、情報ソースへのアクセスを提供する再利用可能な情報コンポーネントです。ポートレットは、Oracle Portal ページの基本構成要素です。

1.1.1.1 「ポートレット」とは

ポートレットのことを、他の Web サイトからの抜粋を表示したり、重要な情報のサマリーを生成する「Web コンポーネント」と見なすことができます。これらのポートレットを他のポートレットとともにまとめることで、頻繁に使用するサイトおよび情報にユーザーが容易にアクセスできるようになります。Oracle Portal では、ポートレットを使用して、構成済みのデータとそうでないデータの両方が単一のパーソナライズされたビューに統合されます。

ポートレットを使用することで、企業イントラネットで公開されるファイル、業務用アプリケーションで管理されるデータのレポート、ニュースおよび株価情報など、Web アクセス可能な情報であれば、ほとんどのタイプの情報にアクセスできます。

ポートレットの一般的な使用方法を次に示します。

- イントラネット・サイトへのアクセスの集中化。イントラネット・サイトが多数存在する大規模な組織では、業務に必要な特定の情報をどこで見つけたらよいのか、ユーザーが混乱してしまうことがよくあります。Oracle Portal を利用すると、これらすべてのサイトへのリンクを1つの場所に集め、頻繁に使用するサイトにユーザーがパーソナライズされたポータルから簡単にアクセスできるように、これらのアクセス・ポイントを整理することが容易になります。

- 情報およびドキュメントの公開。Oracle Portal では、編集やファイルのアップロードはすべて Web ブラウザを使用して行うため、コンテンツを Web に簡単に配置できます。コンテンツをフォルダごとに整理してから、各フォルダを任意のポータルにポートレットとして配置できます。このため、ページに表示する特定の情報をカスタマイズできます。
- 動的データ・サービスの統合。ポートレットを使用することで、外部データ・ソースから提供されたコンテンツを、自分のポータルに表示できます。たとえば、ニュースおよび天気予報をリアルタイムに表示できます。
- Web アプリケーションへのインタフェースの提供。組織内には、ユーザーの業務遂行に必要な多種多様なアプリケーションが存在します。ただし、わずかな動的情報を得るために、すべてのアプリケーションを頻繁に検索することは、常に効率的な方法であるとはいえません。一方、ポートレットを使用すると、特定のアプリケーション（またはそのデータ・ソース）に自動的にログインし、必要な情報のサマリーを取得してポータルの一部に表示することができます。
- 他の業務システムとの統合。組織のイントラネット内には、多種多様な、多くの場合互換性のないシステムが存在し、それぞれが異なった機能を果たしています。ポートレットを使用すると、多様なシステムに対して一貫したインタフェースを提供することができます。

ポートレットは、Oracle Portal に登録されたポートレット・プロバイダに所属します。各ポートレットが所属するプロバイダは1つのみですが、プロバイダはベースのアプリケーションまたはデータ・ソースを公開するポートレットを1つ以上保持できます。アプリケーションやコンテンツ領域（他のページでもよい）はすべて、ページ上の領域にポートレットとして配置できるため、ポートレット・プロバイダとして使用できます。コンテンツ領域、ナビゲーション・バー、フォルダ、カテゴリおよびパースペクティブは、すべてポートレットとして公開できます。アプリケーションでは、メニュー・レポートやフォーム・レポートなどをポートレットにすることができます。図 1-1 の点線は、ポートレットとして公開可能な各オブジェクトの機能を表します。

たとえば、コンテンツ領域内にナビゲーション・バーを作成し、ナビゲーション・バーをポータルに公開してから、ポートレットとしてページに含めることができます。Yahoo! がポートレット・プロバイダの場合、ローカル・テレビ局の一覧、カレンダー、Yahoo の電子メール・アカウントなどのポートレットを含めることができます。Oracle Portal は、Portal Development Kit (PDK) を使用してポートレット・プロバイダを作成する方法を提供します。このため、自分のページで利用可能な独自のアプリケーションを使用してデータを作成することもできます。

各プロバイダは、Oracle Portal の単一のインスタンス（ノード）内で定義、登録および管理されます。プロバイダが Oracle Portal ノードにいったん登録されると、そのポートレットをページに配置可能になります。**ローカル・ノード**とは、ログイン先の Oracle Portal インスタンスを指します。**リモート・ノード**とは、別のインスタンスを指します。[図 1-1](#) では、ノード 4 がローカル・ノードと見なされます。ノード 4 は詳細が表示される唯一のノードですが、ノード 3（Oracle Portal の別のインスタンスを含む）も同様の構造を保持する可能性が高いと考えられます。ノード 1 および 2 は、Oracle E-Business Portals Partner Initiative への参加者を表します。Oracle E-Business Portals Partner Initiative は、Oracle Portal 関連のコンテンツおよびソリューションを開発する外部パートナーのコミュニティを支援する機関です。各ノードから出ている矢印付きの実線は、これらのノードがリモート・ノードとしてローカル・ノードに追加されていることを表します。このようにして、ローカル・ノードは、これらのノード上で使用可能なすべてのポートレットに、ローカルに作成されたページからアクセスできます。

Oracle Portal では、2 つの方法でポートレットを作成できます。Oracle Portal のユーザー・インタフェースを使用して、外部情報ソースを利用するか、または独自のアプリケーションやコンテンツ領域を作成してポートレットとして表示することができます。

1.1.2 コンテンツ領域

注意：ここでは、サンプルとして、娯楽産業に焦点を当てたコンテンツ領域を作成します。Entertainment コンテンツ領域の詳細は、[2-7 ページの表 2-1](#) および [2-7 ページの表 2-2](#) を参照してください。

各コンテンツ領域は**フォルダ**で構成されます。フォルダには**アイテム**が格納されます。たとえば、Entertainment コンテンツ領域には、Dance 用フォルダ、Music 用フォルダなどが存在します。各フォルダ内には、ファイル、URL、イメージなどのアイテムが含まれます。フォルダ内に、これらのアイテムを含むフォルダに関連付けられたフォルダを含めることもできます。このコンテンツ領域内のアイテムとして、地元の新聞に掲載されたイベント・レポートを含めることも可能です。

ページの外観が、そのページに適用された**ページ・スタイル**によって制御されるように、フォルダの外観は、そのフォルダに適用された**コンテンツ領域スタイル**によって制御されます。**ナビゲーション・バー**（これを使用するとコンテンツ領域の主要な領域にすばやく移動できる）も、コンテンツ領域スタイルによって制御されます。ただし、コンテンツ領域スタイルおよびページ・スタイルは別個のエンティティであるため、コンテンツ領域スタイルをページに適用したり、ページ・スタイルをフォルダやナビゲーション・バーに適用することはできません。フォルダのレイアウトもコンテンツ領域スタイルによって決定されます。

ダイアグラムの次に、アイテムの特性を識別するのに役立つ分類を設定します。

- **属性**は、アイテムの識別に役立ちます。たとえば、各アイテムは、表示名、説明およびコンテンツ領域に表示されるタイミングなどの属性を保持します。

- 各アイテムを、**カテゴリ**に割り当てる必要があります。カテゴリは、アイテムのタイプを示します。Entertainment コンテンツ領域には、Artist/Performer、Poster、Review などのカテゴリが含まれます。ユーザーは、カテゴリを検索することにより、すべてのフォルダから情報を集めることができます。たとえば、Recording カテゴリを検索すると、Dance、Music、Movies および他のフォルダ内のすべてのレコーディングを取得できます。
- さらに、アイテムに割り当てられた**パースペクティブ**により、アイテムの特性を識別することもできます。パースペクティブにより、「このアイテムに関心があるのは誰か」が明確になります。Entertainment コンテンツ領域のパースペクティブには、期間（17 世紀から 1990 年代）、観客（Adult、Family、Teens）、会場（Live または Outdoors）、コンテンツ（Image、Audio など）などがあります。

コンテンツ領域の計画立案の詳細は、[2-6 ページ「コンテンツ領域の計画」](#)を参照してください。

1.1.2.1 コンテンツ領域とページの相違点

ここまで、コンテンツ領域とページの基本的な概念について説明してきました。では、これらの具体的な相違点、およびどちらを構築すべきかを判断する方法についてこれから考えてみましょう。2 つの主要な相違点を次に示します。

- 階層構造内で大量の情報を格納および管理するユーザーが多数存在する場合、コンテンツ領域を作成します。ユーザーまたはグループごとに、多様なソースから取得した異なる情報の集まり（コンテンツ領域のデータを含む場合も含まない場合もある）を提供する場合には、ページを作成します。
- コンテンツ領域は、それを管理する人々には多くの場合便利ですが、必要な情報を得ようとするコンシューマには難しい場合があります。一方ページは、「ユーザーが必要とする情報」を、それがコンテンツ領域のフォルダ構造内のどこに存在するかに関係なく公開します。

たとえば、コンテンツ領域内のフォルダ構造が、誰もが理解しやすい論理構造に従うのではなく、組織内の責任分担に従って作成されている場合を考えてみましょう。組織に長年勤務している人々は、施設フォルダを人事フォルダの下に見つけることができますが、これは施設部門と人事部門が同じ管理機構内に存在することを知っているためです。しかし、組織外またはグループのメンバーになって日が浅いユーザーは、この内部情報に通じていません。一方、施設フォルダをポートレットとして公開し、ページ上に配置すると、この情報を必要とするユーザーは、情報が Web サイト内のどこにあるかを知るまたは気にかけることなく、その情報にすばやくアクセスできます。

1.1.3 アプリケーション

メニュー、レポート、フォーム、カレンダーなどの Oracle Portal コンポーネントは、別々に使用することも、相互に接続して Web ベースの総合的なデータベース・アプリケーションとして利用することもできます。たとえば、従業員の経費チャートを、個々の経費の詳細レポートにリンクさせることができます。アプリケーションのコンポーネントをポートレットとして公開する場合、アプリケーションはポートレット・プロバイダになります。

Oracle Portal で構築する各アプリケーションは、データベースのスキーマに基づきます。また、他のデータベース・オブジェクト（スキーマ、表、ビュー、ストアド・プロシージャなど）を作成および管理して、アプリケーション・コンポーネントで使用することもできます。たとえば、表オブジェクトを作成して、フォーム・コンポーネントで挿入、更新および削除されるデータの管理に使用することができます。表の内部データは、チャートまたはレポート・コンポーネントを介してユーザーに表示されます。

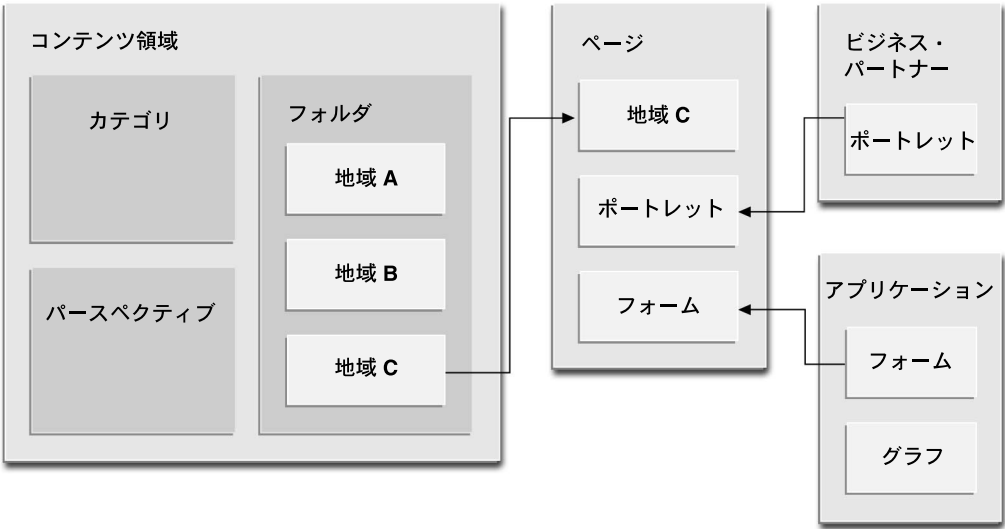
1.1.4 セキュリティ

いくつかのボックスの横に表示される文字 ACL は、**Access Control List** を表します。ACL は、オブジェクトにアクセス可能なユーザーやグループ、およびそのアクセス範囲を制御します。たとえば、あるグループ内のユーザーすべてにコンテンツ領域のフォルダ内のアイテムの表示を許可する場合、フォルダの ACL でそのグループに「表示」権限を付与します。すべてのコンテンツ領域、フォルダ、アイテムは、ページ、コンポーネント、スキーマ、アプリケーションと同様、ACL を保持します。

ACL は、Oracle Portal 内でオブジェクトへのアクセスを制御する 1 つの方法に過ぎません。グローバル権限を使用して、特定タイプのオブジェクトすべてに対するアクセスを許可することもできます。たとえば、すべてのページに対する「新規作成」権限をグループに付与すると、そのグループのメンバーはすべて、ページを作成できるようになります。（ACL とグローバル権限が競合する場合、より高度な権限レベルが優先されます。）

1.1.5 データの統合

これらの各部分がページにどのように表示されるかを見てみましょう。次の図に、3つの異なるソースから取得したデータを1つのページにまとめる方法を簡単に示します。



コンテンツ領域内のフォルダには、ページの場合と同様に、領域が含まれる点に注目してください。**フォルダ領域**にはアイテムが含まれ、ページ領域にはポートレットが含まれます。図に示すように、ページに表示されるのは、実際には1つのフォルダ領域のみです。これは、フォルダをポートレットとして公開し、カスタマイズ・リンクを使用して、表示するフォルダ領域以外のフォルダ領域をすべて除外することにより行います。

ページの別の領域には、Oracle Portal で構築したアプリケーションから取得したフォームが含まれます。最後に、3番目のページ領域に、外部のビジネス・パートナーの提供するポートレットを移入します。この簡単な例は、個々のユーザーやグループにあわせて、徹底的にカスタマイズされた情報セットを作成することがいかに容易かを示すものです。

1.2 このマニュアル内の例

このマニュアルに含まれる例は、Oracle Portal を使用して独自のイントラネット・ポータルを構築するための開始地点としての役割を果たすことを目的としています。このマニュアルでは、基本的なイントラネット・ポータルおよび業務部門用ポータルの2つのシナリオを提供します。

1.2.1 簡単なイントラネット・ポータル

このポータルの例では、イントラネットの基本ページを構築し、Oracle Portal の提供する構築済みポートレットを追加する方法を示します。独自の HTML を追加することのできる、カスタマイズ可能な HTML ポートレットを構築します。また、イベントの追加、削除、変更を行うことのできる、カレンダー・アプリケーションも構築します。この例を通じて、フォーム、カレンダーおよびリンクの作成方法を学びます。

1.2.2 業務部門用ポータル

このポータルの例では、単純なイントラネット・ポータルにページを追加する方法を説明します。チャート・コンポーネントを構築してから、作成したチャートにアクセス可能なタブ付きポートレットを構築します。また、いくつかのフォーム、レポートおよびフォルダを構築し、ポータル・ページにポートレットとして公開します。さらに、メニュー・ポートレットを構築して、既存のドキュメントやデータおよび自分の作成したドキュメントを整理する方法についても学びます。

1.2.3 人事ポータル

このポータルの例では、ポータル内のコンポーネントおよびタブの表示を制御することにより、カスタマイズされたワークスペースを作成する方法を学びます。チーム組織図および SQL 問合せに基づくレポートを構築する方法を学びます。また、複雑なアプリケーションを構築し、ユーザーのタイプに応じて、ポータル内の異なる情報を表示する方法についても学びます。さらに、ポータルの既存のコンテンツ領域内の情報を活用する方法についても学びます。

1.2.4 情報リポジトリ

このコンテンツ領域の例では、テキスト、ドキュメントおよびイメージなど、あらゆるタイプの情報を含む情報リポジトリを構築する方法について説明します。コンテンツ領域を使用して情報リポジトリを作成する方法を学びます。Healthy Living Wholesalers 社の従業員は、この情報リポジトリを使用して、社内での日々の業務に必要な情報すべてにアクセスすることができます。

Web コンテンツの計画

この章では、Oracle Portal を使用する前に実行する必要がある計画手順について説明します。特に、Web コンテンツの全体的な構造を定義する際に使用可能な一連の技術について学ぶことができます。この構造を定義することで、コンテンツ領域およびページの実際の作成処理が大幅に単純化されます。

注意：アプリケーションを計画するときに考慮する事項は、今後のリリースで追加される予定です。

この章は、次の項で構成されています。

- [2.1 項「ページの計画」](#)
- [2.2 項「コンテンツ領域の計画」](#)

2.1 ページの計画

この項では、計画の各段階で考慮する必要がある問題のいくつかを簡潔に説明します。確かに、ページの計画および作成には、経験が大きな役割を果たします。より多くのページを作成および使用するにつれ、またページを使用する他のユーザーからより多くのフィードバックを受けるにつれ、適切に機能するページとそうでないページを見分けることができるようになります。

これまで Oracle Portal ページを作成したことがないユーザーには、この項は特に便利なものとなるでしょう。

2.1.1 ステップ 1: 対象読者の設定

最初に考慮する必要があるのは、作成するページを誰が使用するかという点です。作成しようとしているのは、自分のみを対象とする単独のページでしょうか。それとも異なるグループや個人にあわせた、いくつかの個別のホーム・ページでしょうか。作成するのが自分用のページである場合、Oracle Portal を使用して実際に実験し、その結果を見て、自分の好みにあわせて自由に作業を行うことができます。一方、異なる複数のページを作成する場合には、各ユーザーまたはグループがどんな種類の情報を必要としているかを、時間を取って考える必要があります。

以下の点を考慮してください。

- 企業の掲示板のように、誰もが必要としている情報が存在しますか？
- 特定のグループが必要とし、すばやいアクセスを望むツールやアプリケーションが存在しますか？大抵の場合、作成するページを使用するユーザーやグループと会合を持ち、そのニーズを正確に理解するのは賢明な方法です。
- グループおよびユーザーは、ポータル管理者によりすでに定義されていますか？未定義の場合には、速やかに定義することが望まれます。これは、適切なセキュリティを確立するためには、ユーザーおよびグループ・アカウントが必要であるためです。
- データを含むコンテンツ領域、およびそのデータにアクセスするためのページを作成していますか？このシナリオでは、多くの点を考慮する必要があります。
 - コンテンツ領域およびページは、異なる読者に使用されることが十分に考えられます。[アイテム・ワークシートへの記入](#)で説明されているように、フォルダ構造が対象読者のニーズに対応していることを確認してください。
 - フォルダをページ上に公開することを計画しているのであれば、各フォルダを必ずポートレットとして公開してください。ページはフォルダ（またはその一部）を公開するのみなので、フォルダに対する更新はすべてページに反映されます。
 - カテゴリやパースペクティブなどのコンテンツ領域属性もポータルに公開できること、および適切な読者用のページに配置できることにも留意してください。

- 特定のアイテムのみをポータルに公開する場合は、単一のフォルダ領域にこれらのアイテムを含めてください。フォルダをポートレットとして表示する場合は、フォルダ内のどの領域を公開するかを選択できます。

ヒント：紙を一枚用意し、一番上に各グループまたはユーザーの名前を書いてから、各グループおよびユーザーに必要な情報やアプリケーションを書き出してください。

2.1.2 ステップ 2: データの取得

各ユーザーまたはグループに必要な情報を書き出すことができれば、次に、適切なページに表示する目的で、その情報をポートレットとして提供する方法を決定します。

注意：ここで何が行えるかは、企業用に構築されたコンテンツ領域およびアプリケーションにどれほど精通しているかによって異なります。コンテンツ領域の名前や、コンテンツ領域オブジェクト、アプリケーション、コンポーネントの名前を調査するには、ページを実際に利用する各ユーザーやグループ・メンバーの協力が必要です。

- 最初のグループまたはユーザーを見てください。Oracle Portal コンテンツ領域またはアプリケーションに必要なデータがありますか？該当するデータがある場合は、そのデータやアプリケーションがポートレットとしてすでに公開されているかどうか、ポートレット・リポジトリで確認します。

リポジトリをプロバイダごとに並べた一覧を作成し、必要なコンテンツ領域またはアプリケーションが一覧にプロバイダとして含まれているかどうかを確認します。ステップ 1 で特定したニーズに対応するポートレットが見つかったら、ワークシートのその横の位置にチェック・マークを付けて下さい。コンテンツ領域およびアプリケーションは、そのコンテンツ領域に属するオブジェクト（ナビゲーション・バーやフォルダなど）またはアプリケーション（フォームやメニューなど）がポートレットとして公開されている場合にのみ、プロバイダとして表示されることに留意してください。コンテンツ領域またはアプリケーションが一覧に表示されず、目的のオブジェクトが存在することがわかっている場合、ナビゲータを使用してオブジェクトを編集し、「ポートレットとして公開」チェック・ボックスを必ず選択してください。

ポートレット・リポジトリをプロバイダごとに確認できたなら、「表示方法」を「カテゴリ」に変更し、特定のユーザーまたはグループに有用な情報を見落としていないかどうかを確認することもできます。もちろん、この機能が役に立つのは、ポータル管理者がポートレットをカテゴリ別に分類している場合のみです。

- 別のノードで使用する必要のある情報が存在しますか？この質問の答えが不明な場合、Oracle Portal の他のインスタンスへのユーザー名およびパスワードを取得できるかどうかを確認してください。取得できる場合、これらのポートレット・リポジトリをチェックできます。または、これらのノードに詳しい他のユーザーに相談してください。アクセス対象のポートレットが別のノード上に存在する場合、ポータル管理者に対し、そのノードをリモート・ノードとして追加するよう依頼し、そのポートレットおよびプロバイダがポートレット・リポジトリに表示されるようにしてください。

- 必須アプリケーションで、社外に存在するものがありますか？その場合、それらのアプリケーションを外部アプリケーションとして登録するよう、ポータル管理者に依頼してください。その後、「外部アプリケーション」ポートレットをページに追加し、ユーザー / グループが必要とするアプリケーションのみを含めるようカスタマイズできます。これにより、アプリケーションにすばやくアクセスできるのみでなく、ユーザー ID およびパスワードを登録しているユーザーの場合、アプリケーションを起動するたびに、Oracle Portal によりアプリケーションへのログインがバックグラウンドで自動的に行われます。
- 企業の発表事項や特定のグループに関連した業務指示などの静的な情報がありますか？こうした静的情報が存在する場合、Oracle Portal の提供する HTML ポートレットを使用して、HTML コード、テキストおよびハイパーリンクを編集し、任意のコンテンツを作成できます。ただし、ブラウザで使用可能なテキストには、30,000 バイトの制限があることに留意してください。

必要なデータまたはアプリケーションが存在しない場合、該当する人物と連絡を取り、必要なコンテンツをコンテンツ領域に追加するか、必要なアプリケーションまたはコンポーネントを作成する必要があります。

2.1.3 ステップ 3: 外観の作成

必要なデータを入手できたら、今度はページの外観について考慮します。ページ・バナーが外観に与える影響も無視できませんが、基本的に、ページの外観はページ・スタイルにより制御されます。ページ・スタイルを作成する際、「スタイルの要素」のリスト全体をスクロールして確認し、個別に意識的な判断を行う必要があります。

「スタイルの要素」リストを確認する際および以下の問題を考慮する際には、グラフィック・デザイナーに協力を求めることもできます。

- ページに反映することのできる、組織または企業固有の色のスキーマがありますか？可能であれば、色のスキーマをページに正確に反映するために、これらの RGB 値を入手してください。
- ページ・バナーとして使用可能な .jpg または .gif ファイル（組織名などを含む）が存在しますか？存在しない場合、バナーに含めることのできる企業ロゴがありますか？
- ページの背景として、どんな色またはイメージを使用しますか？イメージおよび色を選択し、かつ選択したイメージが小さい場合は、選択したページ色の上にイメージがパターンとして繰返し表示されます。イメージが大きい場合、ページの色はイメージで完全に覆われてしまいます。
- 視覚的な一貫性がページの作成者にも組織にとってもあまり重要ではない場合、<ユーザーのデフォルト・スタイル>を選択することもできます。この場合、各ユーザーの好みの色やテキスト設定でページが表示されます。

- ページにタブを追加する場合には、デフォルト・イメージのかわりに、自分でデザインしたカスタム・イメージをタブに使用することもできます。ただし、その場合には、タブ名、色などがイメージ本体の一部になるため、Oracle Portal を使用してこれらの要素を変更することはできなくなります。アクティブなタブおよび非アクティブなタブに、イメージを使用することもできます。

2.1.4 ステップ 4: ページの編成

「ページの編成」とは、ページに含めるポートレットの配置を決定することにより、ページを視覚に訴え、使用しやすいものにすることを意味します。実際に作業を開始する前に、配置案のいくつかを紙に書き出してみるのはい良い方法です。

ページを編成するには、以下の点を知っておく必要があります。

- ページに含めるポートレットの数。
- ページにはナビゲーション・バーが必要かどうか。必要な場合、どこに配置するか。
- タブを使用するほど多くの情報があるかどうか。追加するタブの数が多くなればなるほど、ページの描画に時間がかかることに留意してください。また、タブの内部にタブをネストさせることは避けてください。これは、パフォーマンスの低下を招くのみでなく、ユーザーを閉口させることにもなります。
- すべてのタブに表示するポートレット（企業の Web ページへのリンクを含むポートレットなど）が存在しますか？存在する場合、ページを 2 つの領域（タブを含む領域と共通のポートレットを含む領域）に分割してください。各タブに固有の領域にさらに分割できるのは、タブを含む領域のみです。

2.1.5 ステップ 5: セキュリティの考慮

計画段階の最後のステップとして、このページにアクセスするユーザーおよびそのアクセスの程度を考慮します。

- ページを、すべてのユーザー（ログインしないパブリック・ユーザーを含む）からアクセス可能にする必要がありますか？その場合、「アクセス」タブの「パブリック・ユーザーにページを表示」を選択します。
- 1 つまたは複数のタブが、表示されるページに応じて異なるレベルの保護を必要としますか？それとも、ページの ACL を継承しますか？ユーザーが自由にカスタマイズ可能なタブをページに追加し、そのタブ以外のカスタマイズをユーザーに許可しないようにすることは、効果的です。

- グループへのアクセスを制限することにした場合、そのグループ内のすべてのユーザーに同じページが表示されるようにしますか？その場合、グループに「表示」権限を付与してください。これは、ユーザーには、そのページにポートレットをさらに追加することはできないこと、またページ作成者が追加したポートレットの表示 / 非表示を設定できないことを意味します。加えて、すべてのユーザーに、同じ「最近使用したオブジェクト」および「お気に入り」ポートレットが表示されます。これらのポートレットを個々のユーザーがカスタマイズすることはできません。これらの制限を課す必要がない場合は、「カスタマイズ (完全)」または「カスタマイズ (追加のみ)」権限をグループに割り当ててください。
- 「アクセス」タブではなく、ユーザーおよびグループのグローバル権限を使用しても、ページへのアクセスを制御できます。グローバル権限を使用すると、特定タイプのオブジェクトすべてに対するアクセス権限をユーザーまたはグループに付与できます。たとえば、あるグループがページに対する「管理」権限を保持している場合、グループ内のすべてのユーザーが、Oracle Portal のそのインスタンス上で作成されたすべてのページに対する完全な権限を保持します。グローバル権限を使用すると、「アクセス」タブを介してユーザーごとに権限を付与しなくても、ページへのアクセス権限を多くのユーザーに同時に付与することができますようになります。

2.2 コンテンツ領域の計画

従来の Web サイトでは、最小のコンポーネントがページです。ページ上には、リンク、イメージおよびテキストの組合せが表示されます。Oracle Portal コンテンツ領域では、最小のコンポーネントは「アイテム」で、アイテムは「フォルダ」と呼ばれるコンテナ内に表示されます。フォルダは、内部に複数のアイテムが存在するという点で、ファイル・システムのフォルダと大変よく似ています。Oracle Portal では、「ページ」という語は、その上に情報をポートレットの形式で表示するための実体を指します。「ポートレット」には、コンテンツ領域のデータが含まれる場合も、含まれない場合もあります。ページを計画する際の詳細な情報は、[2.1 項「ページの計画」](#)を参照してください。

Oracle ポータルのアイテムは、それぞれ「属性」のセットを保持します。これらの属性には、タイトル、説明および作成者などの情報が含まれます。各アイテムには、「カテゴリ」（「一般」、「Presentation」など）を割り当てする必要があります。ユーザーは、「カテゴリ」ページを表示することにより、特定のカテゴリのアイテムすべてにすばやくアクセスできます。「パースペクティブ」は、別の次元の分類方法を提供します。各アイテムは、異なる多数のパースペクティブに割り当てることが可能です。ユーザーは、「パースペクティブ」ページを表示することにより、特定のパースペクティブのアイテムすべてにすばやくアクセスできます。

便宜上、この章では、Entertainment コンテンツ領域をベースとするサンプルを使用します。コンテンツ領域のフォルダ、カテゴリおよびパースペクティブ構造を次に示します。

表 2-1 Entertainment コンテンツ領域のフォルダ構造

フォルダ	サブフォルダ
Dance	Ballet, Ballroom, Jazz, Modern, Swing, Tribal
Music	Alternative, Blues, Country, Folk, Jazz, Pop, Rock, Rhythm & Blues
Movies	Action/Adventure, Comedy, Drama, Horror, Mystery, Romance
Theater	Comedy, Drama
Visual Art	Two Dimensional, Three Dimensional

表 2-2 Entertainment コンテンツ領域のカテゴリおよびパースペクティブ

カテゴリ	Artist/Performer Exhibit, General Historical Reference Performance Poster Recording Reproduction Review Venue Web Site/Index
パースペクティブ	17th Century 18th Century 19th Century 20th Century 1950s 1960s 1970s 1980s 1990s Live Outdoors Adult Content Family Friendly Age 0-6 Age 6-12 Teens Ticket Information Image Content Audio Content Video Content Full Color Black and White

いずれか1つのカテゴリが「一般」と呼ばれることに注意してください。これは Oracle Portal により作成されるデフォルト・カテゴリなので、削除できません。コンテンツ領域には、常に1つ以上のカテゴリを含める必要があります。20th Century および Family Friendly パースペクティブには、それぞれいくつかの子パースペクティブが含まれる点にも注意してください。カテゴリおよびパースペクティブは、どちらも子カテゴリおよび子パースペクティブを保持できます。

2.2.1 情報の収集

コンテンツ領域を設計するうえで鍵となるのは、領域内に格納される情報の種類、およびユーザーがどれほどの頻度で情報を使用するのかを把握することです。この作業を容易にするため、この章で提供するワークシートを使用して、コンテンツ領域の設計に必要な事実を収集することをお勧めします。

ステップ1 準備

Oracle Portal コンテンツ領域設計の情報収集段階の準備として、次のワークシートのコピーを作成します。

図 2-1 アイテム・ワークシート

アイテムの説明：

このコンテンツの追加を許可するユーザー / グループ

このコンテンツの表示を許可するユーザー / グループ

このコンテンツの表示 / 追加を制御するユーザー / グループ

予想される分類：

このアイテムのコア・コンテンツ（マークを付けてください）

ファイル _____ テキスト・アイテム _____ URL _____ フォルダ・リンク _____

PL/SQL コール _____ アプリケーション・コンポーネント _____ イメージ・マップ _____

その他 _____

アイテムの標準属性

名前、タイトル、説明、カテゴリ、パースペクティブ（複数）、作成者、有効期限日、イメージ、反転イメージ、キーワード

その他の属性（アイテムとともに表示し、検索で使用する）：

図 2-2 ユーザー・コミュニティ・ワークシート

所有者	コンテンツ・ プロバイダ	ビューア	フォルダ	サンプル・アイテム

ステップ2 アイテム・ワークシートへの記入

コンテンツ領域に属すると考えられるアイテムごとに、アイテム・ワークシートに記入します。可能な限り多くの異なるアイテムを考え出してください。同じ種類のアイテムから複数の例を作成してもかまいません。この時点では、フォルダ、カテゴリおよびパースペクティブについて気にする必要はありません。これらについては、後のステップで考慮します。

以下に、Entertainment コンテンツ領域のアイテム・ワークシートの記入済みサンプルを示します。

アイテムの説明：

新しく公開された映画「13th Warrior」のレビュー。映像や文字によるレビューを含む。

このコンテンツの追加を許可するユーザー / グループ：

Movie チームのメンバー

このコンテンツの表示を許可するユーザー / グループ：

すべてのユーザー

このコンテンツの表示 / 追加を制御するユーザー / グループ：

Movie 部門の責任者

予想される分類：

映画、レビュー、アダルト・コンテンツ、映画のランク付け、映画の種類、アクション / アドベンチャー

このアイテムのコア・コンテンツ（マークを付けてください）：

ファイル _____ テキスト・アイテム ☒ URL _____ フォルダ・リンク _____

PL/SQL コール _____ アプリケーション・コンポーネント _____ イメージマップ _____ その他：_____

アイテムの標準属性：

名前、タイトル、説明、カテゴリ、パースペクティブ（複数）、作成者、有効期限日、イメージ、反転イメージ、キーワード

その他の属性（アイテムとともに表示し、検索で使用する）：

レビュー日付、映画公開日付、ビデオ発売日

異なる分類や属性を必要とするアイテムを思いつかないようなら、次のステップに進んでください。

ステップ3 ユーザー・コミュニティ・ワークシートへの記入

ユーザー・コミュニティ・ワークシートを使用して、アイテム・ワークシートの情報を整理します。

- 「コンテンツ・プロバイダ」列に、アイテム・ワークシートの「このコンテンツの追加を許可するユーザー / グループ」に挙げたユーザーを記入します。
- 「所有者」列には、「このコンテンツの表示 / 追加を制御するユーザー / グループ」に挙げたユーザーおよびグループを記入します。通常、この列にはフォルダ所有者を記入します。フォルダ所有者は、コンテンツの管理およびフォルダ・セキュリティの指定を行うことができます。
- 「ビューア」列には、「このコンテンツの表示を許可するユーザー / グループ」に挙げたユーザー / グループを記入します。

ユーザー・コミュニティ・ワークシートの各欄には、複数の値が記入されることがよくあります。たとえば、各フォルダ所有者ごとに、異なる2、3のグループをコンテンツ・プロバイダとして、また5～6の異なるグループをビューアとして指定することがあります。サンプル・アイテム・ワークシートでは、コンテンツ・プロバイダはMovie チーム、所有者はMovie 部門の責任者、およびビューアはすべてのユーザーになります。Movie チームをさらに分割して、「Movie」フォルダ内のサブフォルダ構造に一致させることができます。また、Movie チームの分割は行わず、サブフォルダは、フォルダを最善の方法で実装するためのより詳細な分類レベルを単に表すものにすることもできます。

ステップ4 フォルダ構造の計画

これで、フォルダ構造を計画する準備が整いました。ここでは、フォルダ、カテゴリおよびパースペクティブとして何を実装するかという重要な選択を行う必要があります。フォルダとカテゴリとの重要な相違点は、フォルダを利用するのはユーザー・コミュニティの一部のみであるのに対し、カテゴリはユーザー・コミュニティの大半に利用されるという点です。フォルダおよびカテゴリは、具体的に設定する必要があります。各アイテムがどのフォルダ分岐およびカテゴリに属するかを、明確に理解できるものでなければなりません。パースペクティブは、分割することがより困難な分類で使われます。表 2-2 「[Entertainment コンテンツ領域のカテゴリおよびパースペクティブ](#)」で、サンプルの Entertainment コンテンツ領域のパースペクティブをもう一度見てみましょう。Movie Review は、Family Friendly、Full Color および 1980s パースペクティブに含めることができますが、分類が意味をなすのは、「Review」カテゴリに含める場合のみです。

上記の点を念頭に置いて、ユーザー・コミュニティ・ワークシートをもう一度確認してください。「所有者」列内の1つのエントリが「コンテンツ・プロバイダ」列の複数のエントリに対応している場合、「所有者」列内のそのエントリは、通常フォルダ階層内の分岐を表します。アイテム・ワークシートをもう一度見て、有効な分類を確認してみましょう。ユーザー・コミュニティ・ワークシートに列挙した所有者およびコンテンツ・プロバイダに対応すると考えられる分類をすべて拾い出してください。ある分類が所有者またはコンテンツ・プロバイダに対応している場合、それはフォルダまたはサブフォルダにする有力な候補となります。

Entertainment コンテンツ領域の例では、サンプル・アイテムは、考えられる分類として Review と Movies の両方に挙げられています。ユーザー・コミュニティに注目してみると、Movie 部門の責任者が管理する情報はすべて Movies と関連があるのに対し、Review として分類されるものはその一部に過ぎません。Entertainment コンテンツ領域構造の他の部分に注目してみましょう。「Review」カテゴリは、サンプル・アイテムおよびコンテンツ領域の多くの異なる部分で、考えられる分類項目として挙げられています。一方、Movie という分類項目が使用されるのは、「Movie」フォルダおよびそのサブフォルダのみです。このため、Review をカテゴリに、Movies をフォルダにするのは道理にかなった方法です。

2.2.2 情報の分析

コンテンツ領域を構成するアイテムの種類、およびコンテンツを構築および表示するユーザーに関する情報を集めることができれば、次にコンテンツ領域の特定の属性を注意深く考慮します。

ステップ1 セキュリティの考慮

コンテンツ領域作成の第一段階は、コンテンツおよびコンテンツ領域の外観の変更権限を必要とする、ユーザー・コミュニティのメンバーを洗い出すことです。ユーザー・コミュニティ・ワークシートを使用して収集したコンテンツ領域の編成情報を、この作業で使います。

コンテンツ領域の基本構成要素は、フォルダです。Oracle Portal のフォルダは、ファイル・システムのフォルダに非常に類似しており、どちらもコンテンツ領域ページの基礎を構成します。たとえば、フォルダへのリンクをクリックすると、フォルダのコンテンツ領域一覧を含むページが表示されます。ファイル・システムのフォルダと同様、Oracle Portal のフォルダも階層構造になっています。各フォルダは、独自のセキュリティおよび可視スタイル属性（親フォルダから継承する場合も継承しない場合もある）を保持します。[2.2.1 項「情報の収集」](#)で説明したように、ユーザー・コミュニティ・ワークシートは、コンテンツ領域のフォルダ構造を設計するうえで、優れた開始地点となります。

大半のセキュリティはフォルダ・レベルで提供されるため、フォルダ構造は通常、コンテンツ領域を管理およびアクセスする人々の組織構造を反映します。Oracle Portal ではアイテム・レベルのセキュリティを実装できますが、一般に、フォルダ・レベルのセキュリティの方が、アイテム・レベルのセキュリティよりも少ない労力で管理できます。これは、フォルダ・レベルのセキュリティ管理では、ユーザーに対し、個々のアイテムではなくフォルダに対する権限を付与するためです。

Entertainment コンテンツ領域では、フォルダ構造は、コンテンツ・プロバイダのグループにあわせて設計されています。たとえば、「Dance」フォルダの所有者は、「Dance」フォルダのサブフォルダに対する完全な権限を保持します。ダンスは「Music」フォルダ所有者の専門ではないため、「Music」フォルダ所有者が「Dance」フォルダに情報を追加できないようにする必要があります。

フォルダ構造の編成が異なっていた場合のことを想像してみてください。フォルダとカテゴリが逆に、つまりすべてのカテゴリがフォルダに、すべてのフォルダがカテゴリに設定されていたとします。ダンスの専門家と音楽の専門家の両方が、「Review」フォルダに対する制御を必要とします。結果として、おそらくアイテムごとにアクセス権限を管理することが必要になるでしょう。「Review」フォルダに何百ものレビューが含まれる場合、これはすぐに煩雑な管理業務になります。このため、異なるコンテンツ・プロバイダ・グループに対応したフォルダを保持するほうが、はるかに効率的です。Entertainment コンテンツ領域の場合、娯楽のタイプ (Movie、Dance) ではなく、既知の情報の種類 (Review、Venue) に従ってコンテンツ・プロバイダが分割されている場合にのみ、フォルダとカテゴリを入れ替えた構造が有効です。

フォルダ編成に関して明記しておくべき最も重要なことは、フォルダは、アクセス権限を割り当てるための最も効果的な手段であるという点です。フォルダ構造に関係なく、Entertainment コンテンツ領域のビューアは、Music、Dance、Theater Review へのページに容易にアクセスできます。

ステップ 2 コンテンツの考慮

Oracle Portal コンテンツ領域は、アイテムおよび他の追加コンテンツを分類するのに特に適しています。アイテムを分類する主要な 2 つの機構は、カテゴリとパースペクティブです。この 2 つの機構の主な相違点は、アイテムが所属するカテゴリは必ず 1 つでなければならないのに対し、アイテムが所属するパースペクティブはゼロまたは任意の数でかまわないという点です。

カテゴリは、「このアイテムは何か」という問いに対する回答と考えると、最も良く理解できます。各アイテムが属するカテゴリは 1 つのみであるため、カテゴリは、非常に基本的な分類にする必要があります。アイテム・ワークシートに戻って、コンテンツ・プロバイダがコンテンツ領域に追加する情報の種類を考慮してください。コンテンツ・プロバイダは、どのアイテムも 1 つのカテゴリに割り当てする必要があります。このため、最良のカテゴリとは、特徴の際立ったもので、コンテンツ・プロバイダがどれを選択したらよいかを容易に識別できるものです。複数のカテゴリが重複していることに気付いた場合には、構造を再考する必要があります。

階層内にカテゴリを作成することもできます。これは、親カテゴリを作成し、その下にサブカテゴリとして、類似した複数のカテゴリをグループ化することにより行います。大量のカテゴリおよびパースペクティブを保持している場合、この階層組織は有用です。ただし、混乱を防ぐため、カテゴリやパースペクティブを作成しすぎることがないように注意が必要です。10 以上のカテゴリを保持している場合、ユーザーは選択肢の多さに圧倒されてしまい、最適なカテゴリではなく、おおよそ適していると思われるカテゴリに出会うとそれを選択してしまうことがあります。Entertainment コンテンツ領域では、「Review」カテゴリは、多くのフォルダ間で使用可能な、非常に特徴的な分類であることが理解できます。コンテンツ・プロバイダがコンテンツに適したカテゴリを選択することが困難になるにつれ、コンテンツを誤って分類する可能性が高まります。その結果、検索が困難になります。

パースペクティブは、「誰がこのアイテムに関心を持つか」または「このアイテムを最も大切にするユーザーの役割は何か」という疑問に答えるための最良の方法であると考えられます。パースペクティブは、アイテムの特殊属性を強調します。Entertainment コンテンツ領域では、Outdoors パースペクティブを使用して、屋外行事に関するアイテムを識別します。いずれかの「Music」フォルダのコンテンツを検索するユーザーは、屋外演奏または屋外会場に関するアイテムをすぐに識別できます。

アイテム・ワークシートをもう一度参照してください。今度は、以下に示すカテゴリおよびパースペクティブ・ワークシートに記入し、フォルダ以外のアイテムの分類項目を整理します。各アイテム用のフォルダに対し、ワークシートの分類部分にリストアップされた順番に作業を行うのは实际的です。多くの場合、最初はフォルダが適しているように見えても、フォルダ構造では使用されないことがわかった分類が、最良のカテゴリになります。カテゴリとパースペクティブのどちらも、コンテンツ領域内の多種多様なフォルダ間で横断的に使用可能である場合に、最も有用な働きをする点に注意してください。

図 2-3 カテゴリ構造の候補：コンテンツ領域名：_____

カテゴリ名	カテゴリの説明	子カテゴリ	アイテム例

図 2-4 パースペクティブ構造の候補：コンテンツ領域名：_____

パースペクティブ名	説明	子パースペクティブ	アイテム例

ステップ3 ユーザーの観点の考慮

コンテンツ領域を設計する際、それがどのように使用されるかに注意を払うことは重要です。コンテンツ領域内の情報を参照するユーザーは、コンテンツがフォルダ、カテゴリおよびパースペクティブで編成されていることを認識していません。カテゴリの名前（カテゴリ・リンク）をクリックするのみで、選択したカテゴリに割り当てられたアイテムのリスト（表示権限を持たないアイテムを除く）が即座に表示されます。同様に、パースペクティブの名前またはイメージ（パースペクティブ・リンク）をクリックすると、そのパースペクティブに割り当てられたコンテンツ領域内のアイテムのリストがユーザーに表示されます。

カテゴリおよびパースペクティブ・リンクをどこに配置するかを検討してください。カテゴリ・リンクは、次の場所に配置できます。

- ナビゲーション・バー上に
- ページのアイテム・リスト上部にグループ・バナーとして
- 拡張検索操作の基準として

パースペクティブ・リンクは、カテゴリ・リンクと同じ場所に表示可能です。また、「パースペクティブ・マネージャ」で「アイテムとともにアイコンを表示」プロパティを選択することにより、パースペクティブに割り当てられた各アイテムの横にパースペクティブ・リンクを公開することもできます（オプション）。

ステップ4 ナビゲーション補助の考慮

フォルダ、カテゴリおよびパースペクティブを使用すると、エンド・ユーザーがコンテンツ領域内の情報を見つけやすい方法で、アイテムを編成および相互参照できます。

フォルダ構造の上位2つのレベルを検査します。これらは、デフォルトのメイン・コンテンツ領域ページに最初に表示されるフォルダです。フォルダ名が、それぞれ他と明確に識別可能なものであるかを確認してください。フォルダ構造内の最上位レベルの分岐には、他と混同しやすい名前を付けないようにする必要があります。

次に示すフォルダ・ツリー・ワークシートに必要事項を記載することにより、フォルダの上位2レベルがユーザーにどのように表示されるかを把握できます。¹ 過度に類似したフォルダがあるかどうか注意してください。フォルダ間の差異が明確なものではない場合、ユーザーは類似したフォルダの区別に困難を覚えるため、情報をどこに配置するか、情報をどこで探せばよいのかがわからなくなります。

¹ フォルダを使用するたびに、すべてのフォルダを表示する権限を保持するわけではないことに注意してください。このことを考慮に入れたうえで、フォルダ・ツリー・ワークシートのコピーを別のユーザー・グループに渡すこともできます。

[illegible]

コンテンツ領域の構築後に、コンテンツ領域ページを全体として確認します（例：ナビゲーション・バーやフォルダー一覧）。ユーザーは、特定の情報を検索する場合もあれば、どんな情報が利用可能なのかを知るために参照する場合があります。アイテムに直接ジャンプすることを望むユーザーもいれば、複数のアイテムに順次ナビゲートすることを望むユーザーもいます。コンテンツ領域ページは、これらのシナリオすべてに対応可能である必要があります。フォルダの参照ではなく、検索の実行を望むユーザーのために、ナビゲーション・バーに検索ボックスを含める方法が一般的に行われています。参照を望むユーザーは、フォルダ構造、カテゴリおよびパースペクティブを使用できます。

ナビゲーション・バーをコンテンツ領域のインタフェースの持続領域とするかどうかを考慮する必要があります。Oracle Portal では、コンテンツ領域全体で同じナビゲーション・バーを使用することも、コンテキストに応じて様々なナビゲーション・バーを使用することも、ナビゲーション・バーをコンテンツ領域全体から削除してしまうこともできます。ナビゲーション・バーを使用することにした場合、ページのどこに配置するか（左、右、上、下など）を考慮してください。ナビゲーション・バーには、多種多様な要素（基本検索、ハイパーリンク、プルダウン・リストなど）を含めることができます。ナビゲーション・バーを使用しないことにした場合、コンテンツ領域内でのナビゲーションを簡素化するための他のメカニズムを含める必要があります。

ステップ5 アイテム・タイプの考慮

ユーザーは、コンテンツ領域への追加を実行する際、アイテムのタイプ（ファイル、URL など）を識別する必要があります。Oracle Portal コンテンツ領域には、デフォルト・アイテム・タイプのセットが付属しています。必要に応じて、これらのデフォルト・タイプに追加できます。デフォルト・アイテム・タイプは、次のとおりです。

- ファイル
- フォルダ・リンク
- イメージ
- Java アプリケーション
- PL/SQL
- テキスト
- URL
- アプリケーション・コンポーネント
- Zip ファイル

ユーザーがアイテム・タイプを識別すると、そのアイテムを定義するための属性リストがユーザーに提供されます。この表を利用して、各デフォルト・アイテム・タイプの属性を理解できます。

表 2-3 デフォルト・アイテム・タイプの属性（必須）

属性	ファイル	フォルダ・リンク	イメージ (image)	Java アプリケーション	PL/SQL	テキスト	URL	アプリケーション・コンポーネント	Zip ファイル
アプリケーション・コンポーネント								x	
アプリケーション・タイプ				x					
カテゴリ	x	x	x	x	x	x	x	x	x
説明	x	x	x	x	x	x	x	x	x
表示名	x	x	x	x	x	x	x	x	x
有効期限	x	x	x	x	x	x	x	x	x
ファイル名	x								x
イメージ			x						
イメージマップ			x						
イメージマップ名			x						
初期ページ名				x					
Jar ファイル				x					
パス		x							
PL/SQL コード					x				
公開日付	x	x	x	x	x	x	x	x	x
テキスト						x			
URL							x		

表 2-4 デフォルト・アイテム・タイプの属性（オプション）

属性	ファイル	フォルダ・リンク	イメージ	Java アプリケーション	PL/SQL	テキスト	URL	アプリケーション・コンポーネント	Zip ファイル
作成者	x	x	x	x	x	x	x	x	x
基本検索用キーワード	x	x	x	x	x	x	x	x	x
表示オプション	x				x	x	x	x	
アイテムのチェックアウトを有効にする	x	x	x	x	x	x	x	x	x
アイテム非表示	x	x	x	x	x	x	x	x	x
イメージ	x	x	必須	x	x	x	x	x	x
イメージの位置	x	x		x	x	x	x	x	x
パースベクティブ	x	x	x	x	x	x	x	x	x
スキーマ					x				

基本アイテム・タイプに対して定義されている属性を、変更または追加することはできません。デフォルト・アイテム・タイプに属性を追加することを望む場合には、カスタム・アイテム・タイプを作成できます。デフォルト・アイテム・タイプをベースとするカスタム・アイテム・タイプは、デフォルトの属性を継承することに加え、作成したカスタム属性を追加できます。このようにカスタム・アイテム・タイプを使用することにより、アイテムに関する追加の構成済み情報を、その属性を介して収集できます。

また、カスタム・アイテム・タイプを、デフォルト・タイプをベースにすることなく、ゼロから作成することもできます。この場合、アイテム・タイプは、作成時、最も基本的な属性（表示名、カテゴリ、パースベクティブなど）のみを備えています。他の属性は、必要に応じて自分でアイテム・タイプに追加する必要があります。

アイテム・ワークシートをもう一度参照し、「追加属性」列に入力した内容を確認してください。追加属性がない場合、アイテムの追跡に必要な情報をデフォルト属性がすべて提供します。追加属性を記載した場合、次に示すアイテム・タイプ・ワークシートを使用して、コンテンツ領域に追加する必要のあるアイテム・タイプの数を識別してください。作成した属性は、複数のアイテム・タイプ間で再利用できます。たとえば、Due Date 属性を追加して、2つの異なるアイテム・タイプで使用する場合、特定の期限日でアイテムを検索すると、両方のアイテム・タイプのアイテムで Due Date 属性がチェックされます。

「属性」の下「名前」列に、追加属性をすべて記載します。追加属性ごとに、データ型（数値、日付、文字、ファイル、URL など）を記載します。各「アイテム・タイプ名」ラベルの下セルに、新しい属性コレクションの名前を入力します。各「ベース」ラベルの下セルに、カスタム属性の追加対象のデフォルト・アイテム・タイプの名前を入力します。各アイテム・タイプで使用する属性には、X 印を付けます。

図 2-6 アイテム・タイプ・ワークシート

		アイテム・タイプ名	アイテム・タイプ名	アイテム・タイプ名	アイテム・タイプ名	アイテム・タイプ名
属性		ベース	ベース	ベース	ベース	ベース
名前	データ型					

図 2-6 アイテム・タイプ・ワークシート（続き）

		アイテム・ タイプ名	アイテム・ タイプ名	アイテム・ タイプ名	アイテム・ タイプ名	アイテム・ タイプ名

追加属性をアイテムではなくフォルダに関連付ける場合は、カスタム・フォルダ・タイプを作成できます。

2.2.3 コンテンツ領域構造のトラブルシューティング

どんなに綿密な計画を立てたとしても、不測の事態に直面する場合があります。このため、コンテンツ領域を作成した後で、その編成を再考せざるを得ない問題に直面することを予期しておく必要があります。以下の項では、コンテンツ領域の実装後に発生する一般的な問題を扱います。

2.2.3.1 すべてのコンテンツ領域で同じカテゴリが保持される

Oracle Portal が提供する「共有オブジェクト」コンテンツ領域には、すべてのコンテンツ領域に適用されるカテゴリ、パースペクティブ、スタイル、ナビゲーション・バー、属性、アイテムおよびフォルダ・タイプを格納できます。どのコンテンツ領域でも同じものを再作成していることがわかった場合、「共有オブジェクト」コンテンツ領域でそれを作成してください。そうすることにより、一度作成するのみで、複数のコンテンツ領域で再利用できます。共有オブジェクトを使用することで、コンテンツ領域間の統合および一貫性が向上します。

2.2.3.2 アイテム・レベルのセキュリティがどこでも必要になる

コンテンツ領域でアイテム・レベルのセキュリティ設定が必要な場合があります。しかし、これは多くの場合、コンテンツ領域を別の方法で設定可能であることを意味します。考慮しなければならないのは、セキュリティを適用する主なレベルをフォルダにする必要があるという点です。カテゴリに注目してください。カテゴリをフォルダにし、フォルダをカテゴリにした場合、サイトの機能が向上するかどうかを確認してください。

2.2.3.3 パースペクティブへのリンクが表示されない

パースペクティブへのリンクを保持するよう、設定を変更する必要があります。

- アイテムの横にパースペクティブ・リンクを表示する場合は、「パースペクティブ・マネージャ」の「アイテムとともにアイコンを表示」プロパティを設定し、スタイルを更新して標準アイテムへのパースペクティブ・リンクを含めてください（「スタイル・マネージャ」の「フォルダのレイアウト」タブを使用）。

- ナビゲーション・バーにパースペクティブ・リンクを追加する場合は、「ナビゲーション・バー・マネージャ」を使用して、リンク / イメージを個別に追加するか、ドロップ・ダウン・リストを追加して表示するパースペクティブをユーザーが選択できるようにします。
- パースペクティブの検索を簡素化するには、保存済みの検索をベースとするフォルダを追加します。保存済み検索フォルダにパースペクティブと同じ名前を付け、検索画面に強調表示するパースペクティブを選択します。これにより、検索対象を、コンテンツ領域内の選択したパースペクティブに属するすべてのアイテムに限定します。

2.2.3.4 カテゴリがコンテンツ領域マップに表示されない

保存済み検索をベースにしたフォルダの作成を考慮してください。階層にフォルダを追加し、それを特定のカテゴリに属するすべてのアイテムの検索用に定義します。そのフォルダにカテゴリと同じ名前を付けると、ユーザーには、コンテンツ領域マップ上に、その特定カテゴリ内のアイテムすべてを保持するフォルダが存在するように見えます。

このタイプのフォルダには、完全に動的であるという利点があります。新規コンテンツはカテゴリに割り当てられるため、特定の操作を行わなくても、新規アイテムが検索の対象となります。この方法は、保存し、ユーザーに利用を許可するすべてのタイプの検索で有効です。

イントラネット・ポータル作成と簡単なポートレットの追加

この章では、Oracle Portal を使用してインタフェース（ポータル）を作成し、カレンダー、独自のデータベースのレポート、外部 Web サイトへのリンクおよびカスタマイズした HTML などを配置する方法について説明します。すでにポートレットを作成したことがあり、高度なアプリケーションについて学習したい場合は、[第4章「イントラネット・ポータルの業務部門用ページの作成」](#)を参照してください。

この章では、1つの画面から複数のコンポーネントと情報にアクセスするポータルを構築します。ポータルを構築するには、まず[ページ](#)を設計する必要があります。つまり、必要なアプリケーション、表示する情報、および情報を表示する方法を明確にします。ポータルの外観や機能の計画方法については、[第2章「Web コンテンツの計画」](#)を参照してください。

次に、要件に応じてポータルのページ（アプリケーション、リンクなどを表示する画面）を設定し、ポータルに含めるアプリケーションを作成し、作成したアプリケーションをユーザーがアクセスしやすい方法でポータルに追加します。

簡単なイントラネット・ポータルを構築するには、ページの作成ウィザードを使用してページを作成し、「ページのカスタマイズ」タブ・セットを使用してポートレットを追加および編集します。また、カレンダーの作成ウィザード、フォームの作成ウィザード、順序の作成ウィザードおよびリンクの作成ウィザードを使用して、イベント・カレンダーを構築します。

この章の作業を完了するには、デモ・スキーマに対する「編集」権限以上のアクセス権限が必要です。また、この章のカレンダーを構築するには、「編集」以上のアプリケーション権限も必要です。これらの権限を持っていない場合は、ポータル管理者に問い合わせてください。

次の図は、4つの部分で構成される簡単なイントラネット・ポータルを示しています。完成済みのポータルは、デモ・スキーマを含むインストール・パッケージに収められています。詳細は、ポータル管理者に問い合わせてください。

この章は、次の項で構成されています。

内容	場所
ページを作成ウィザードを使用してページを作成する。	3.1 項「ページの作成」
カスタマイズした HTML コンテンツを含む HTML ポートレットを作成する。	3.2 項「カスタマイズした HTML コードをポートレットとして追加」
「お気に入り」ポートレットを追加および変更する。	3.3 項「「お気に入り」ポートレットの追加とカスタマイズ」
カレンダーを作成ウィザード、リンクの作成ウィザード、フォームを作成ウィザード、およびデータベース・スキーマの作成ウィザードを使用して、更新可能なカレンダー・ポートレットを構築する。	3.4 項「イベント・カレンダーを作成し、ポートレットとして追加」
ポータルをパブリックに表示する。	3.5 項「ポータルを他のユーザーに表示」

3.1 ページの作成

ここでは、ページの作成ウィザードを使用して、ページを作成し、そのレイアウトを設計します。

参照情報： Oracle Portal オンライン・ヘルプを参照してください。「カテゴリ」リストで「Page Tasks」を選択して、「実行」をクリックします。右のペイン内で、「Creating a page」をクリックします。

1. Oracle Portal にログインします。

注意： ユーザー名およびパスワードを持っていない場合は、ポータル管理者に問い合せてください。
2. ナビゲータの「ページ」タブをクリックします。
3. 「マイ・ページ」の横の「操作」の下にある「新規作成」をクリックします。

ページの作成ウィザードの「ページのプロパティ」が表示されます。
4. 「名前」フィールドに、<YourName>_Main と入力します。
5. 「表示名」フィールドに、<YourName> Main と入力します。
6. 「次へ」をクリックします。
7. 「レイアウト・テンプレート」ドロップダウン・リストで、「プレーン・レイアウト」を選択します。

レイアウトのプレビューが、リストの下に表示されます。
8. 「スタイル」ドロップダウン・リストで、「Healthy Living Page Style」を選択します。

スタイルのプレビューが、リストの下に表示されます。

9. 「次へ」をクリックします。
10. 「次へ」をクリックします。
11. 「ポートレットとして公開」チェック・ボックスを選択します。
12. 「完了」をクリックします。

ヒント: Oracle Portal セッションを終了しても、ナビゲータに移動するとこのページに戻ることができます。「ページ」タブをクリックし、「マイ・ページ」をクリックします。「メイン」ページを表示します。「メイン」ページの横に表示された操作リストから、任意の操作（「表示」、「カスタマイズ」など）をクリックします。

13. ブラウザに「メイン」ページが表示されます。



注意: 「ページのカスタマイズ」ダイアログの「ポートレット」タブに表示されるバナーの「デフォルトの編集」リンクをクリックすると、バナーのグラフィックを変更できます。「バナー・ロゴの設定」に、使用するロゴのファイル名を入力します。

次のようなページが表示されます。



3.2 カスタマイズした HTML コードをポートレットとして追加

この項では、カスタマイズした HTML をポートレットとして追加します。HTML ポートレットを作成するときは、テキスト・エディタで記述した HTML をポートレットにペーストするか、ポートレットに直接 HTML を記述します。このポートレットを使用して、既存の HTML（バナーなど）をポータルにコピーすることもできます。ここでは、会社ニュースの HTML ページを作成し、ポートレットにペーストします。

1. ナビゲータの「ページ」タブをクリックします。
2. 「<YourName> Main」ページに移動します。
3. ページの横にある「編集」をクリックします。
4. 「ポートレット」タブで、をクリックします。
5. 「ポートレットの追加」ダイアログで、「生成済みプロバイダ」をクリックします。
6. 「Oracle Portal」をクリックします。
7. 「Building Tools」で、「HTML ポートレット」を検索します。
8.  をクリックして、ポートレットを追加します。
9. 「OK」をクリックします。
10. HTML ポートレットで、「デフォルトの編集」をクリックします。
11. 「表示名」フィールドに、Healthy Living Company News と入力します。
12. 「コンテンツ」フィールドに、次の HTML をペーストします。

```
<html>
  <li>Nutritionists choose Healthy Living as their #1 wholesaler.</li>
  <li>Healthy Living allies with so-far-unnamed wholesale healthy pet food
company.</li>
  <li>New associate program now available. Become an affiliate of Healthy
Living!</li></body></html>
```



13. 「OK」をクリックします。
 14. 「閉じる」をクリックします。
- ポータルが次のように表示されます。



3.3 「お気に入り」ポートレットの追加とカスタマイズ

ここでは、新しいお気に入りのリンクを追加し、既存のリンクを削除する方法で、「お気に入り」ポートレットをカスタマイズします。「お気に入り」ポートレットを使用して、使用頻度の高いサービスを管理および編成できます。たとえば、ブラウザのブックマークを使用するかわりに、「お気に入り」ポートレットにリンクを追加して、ポータル経由で Web サイトにアクセスできます。

3.3.1 「お気に入り」ポートレットの追加

1. 「<YourName> Main」 ページで、「ページのカスタマイズ」 ダイアログの「ポートレット」タブを表示します。
2. 「ポートレット」タブで、 をクリックします。
3. 「生成済みプロバイダ」をクリックしてから、「Oracle Portal」をクリックします。
4. 「Personal Content」で、「お気に入り」を検索します。
5.  をクリックして、ポートレットを追加します。
6. 「OK」をクリックします。
7. 「閉じる」をクリックします。

3.3.2 新しいお気に入りリンクの追加

「お気に入り」ポートレットを追加すると、Oracle Portal のデフォルトのリンクが表示されます。新しいリンクを追加すると、このポートレットを有効に利用できます。ユーザーがリンクを追加したり削除することもできますが、通常は、使用頻度の高いリンクをいくつか追加しておきます。たとえば、組織のインターネット・アドレスを追加します。

1. 「<YourName> Main」ページの「お気に入り」ポートレットで、「カスタマイズ」をクリックします。

ヒント: 「<YourName> Main」ページを表示するには、ナビゲータの「ページ」タブをクリックします。「マイ・ページ」をクリックし、「<YourName> Main」を検索します。

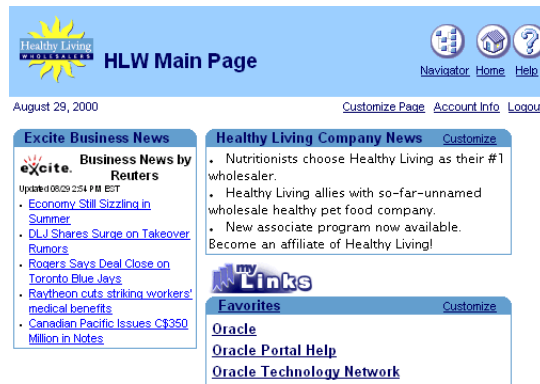
2. 「お気に入りポートレット設定の編集」ダイアログで、「お気に入りの追加または編集」をクリックします。
3. 「お気に入りを表示」ページで、「お気に入りの作成」をクリックします。
「追加 お気に入り」ページが表示されます。
4. 「名前」フィールドに、Oracle Technology Network と入力します。
5. 「URL」フィールドに、<http://technet.oracle.com> と入力します。
6. 「新規作成」をクリックします。

Oracle Portal により新しいリンクが作成され、「追加 お気に入り」ページが表示されます。このページで、別のお気に入りのリンクを追加できます。

注意: ページの一番上のリンクをクリックすると、作成したリンクを編集できます。

7. 「閉じる」をクリックします。
「Oracle Technology Network」という新しいお気に入りの「お気に入りを表示」ページが表示されます。
8. 「閉じる」をクリックします。
9. 「OK」をクリックします。

「Oracle Technology Network」リンクは、「お気に入り」ポートレットにも表示されます。



3.3.3 既存のお気に入りリンクの削除

1. 「メイン」ポータルの「お気に入り」ポートレットで、「カスタマイズ」をクリックします。
2. 「お気に入りの追加または編集」をクリックします。
3. Oracle（この例の場合）の横にある「削除」をクリックします。
4. 右上隅の「閉じる」をクリックします。
5. 「OK」をクリックします。

「お気に入り」ポートレットが次のように表示されます。



3.4 イベント・カレンダーを作成し、ポートレットとして追加

ここでは、イベント・カレンダーを作成します。さらに、そのイベント・カレンダーにイベントを追加し、それらをカレンダー形式で表示します。カレンダー・アプリケーションは、最も使用頻度の高いポータル機能です。カレンダー・アプリケーションを使用すると、特定の日のイベントを簡単に表示できます。

前述の手順で、Oracle Portal アプリケーションを作成します。このとき、以下のウィザードを使用します。


- カレンダーの作成ウィザード（カレンダーを作成する）
- 「テーブルまたはビューからのフォーム作成」ウィザード（カレンダーを更新するフォームを作成する）
- 「順序の作成」ウィザード（フォームが受け取る情報のデータベース順序を作成する）
- 「リンクの作成」ウィザード（フォームおよびカレンダーを接続する）
- 「カレンダーの作成」ウィザード（フォームにアクセスするボタンを作成する）

注意：この項のコンポーネントを作成するには、<DEMO SCHEMA>.EVENTS 表へのアクセス権限が必要です。DEMO SCHEMA は、デモ・スキーマ・オブジェクトのインストール先スキーマの名前です。また、Casebook30_Application アプリケーション内にコンポーネントを作成するには、Casebook30_Application アプリケーションへのアクセス権限も必要です。この表またはアプリケーションへのアクセス権限を持っていない場合は、ポータル管理者に問い合せてください。権限の取得方法については、このマニュアルの付録 A を参照してください。

3.4.1 カレンダーの作成ウィザードを使用したイベント・カレンダーの作成

この項（3.4.1 項）の手順を完了すると、表示専用のカレンダーを作成できます。このカレンダーでは、日付は表示できますが、イベントは追加できません。カレンダーを更新可能にするには、3.4 項「イベント・カレンダーを作成し、ポートレットとして追加」のすべての手順を完了する必要があります。

参照情報：Oracle Portal オンライン・ヘルプを参照してください。「カテゴリ」リストで「Application Tasks」を選択し、「実行」をクリックします。右のペイン内で、「Building Shared Components」をクリックします。

1. ショートカット・バーの  をクリックします。
2. 「アプリケーション」タブをクリックします。
3. パスがパス：アプリケーションのように表示されることを確認します。パスがこのとおりに表示されない場合は、「アプリケーション」をクリックしてルート・フォルダにアクセスします。

4. 「名前」で、「CASEBOOK30_APPLICATION」をクリックします。
パス: アプリケーション>CASEBOOK30_APPLICATION という形式でパスが表示されます。
5. 「新規作成」の横にある「カレンダー」をクリックします。
カレンダーの作成ウィザードが表示されます。
6. 「カレンダー名」フィールドに、<YourName>_EVENT_CAL と入力します。
7. 「表示名」フィールドに、<YourName> Event Calendar と入力します。
8. 「アプリケーション」リストで、「CASEBOOK30_APPLICATION」を選択します。
9. 「次へ」をクリックします。
10. カレンダーの作成ウィザードのステップ2で、「SQL 問合せ」フィールドに次の SQL 問合せを入力します。

```
select
    e.event_start_date    the_date,
    e.event_title         the_name,
    null                 the_name_link,
    null                 the_date_link,
    null                 the_target
from <DEMO SCHEMA>.hlw_events e
order by 1
```

注意: このテキストを直接コピーしてペーストすることはできません。スキーマ名 (DEMO SCHEMA) には、デモ・スキーマ・オブジェクトのインストール先スキーマの名前を指定してください。

11. 「完了」をクリックします。
注意: ここでは、ウィザードの残りのステップでデフォルト値を受け入れます。カレンダーの外観をカスタマイズする場合は、後でウィザードに戻ることができます。
12. 新しいカレンダーの「コンポーネントの管理」ダイアログが表示されます。
注意: 特定のコンポーネントの「コンポーネントの管理」ダイアログを表示するには、「アプリケーション」タブの該当するコンポーネント名の横にある「管理」をクリックしてください。
13. 「アクセス」タブをクリックします。
14. 「ポータルに公開」チェック・ボックスを選択します。
15. 「適用」をクリックします。
16. 「開発」タブをクリックし、「実行」をクリックします。

次のようなカレンダーが、新しいブラウザ・ウィンドウに表示されます。



注意：カレンダーにデータが存在しない場合は、「返された行はありません。」というエラーが返されます。ここでは、そのまま作業を続けてください。フォームを作成した後でデータを挿入すると、カレンダーが表示されます。

3.4.2 カレンダーを更新するフォームの作成

カレンダーを使用してイベントを管理するには、フォームを作成し、フォーム上でイベントの追加、削除および変更を行えるようにする必要があります。

注意：この項を完了するには、<DEMO SCHEMA>.HLW_EVENTS 表に対する UPDATE 権限が必要です。これらの権限を持っていない場合は、データベース管理者に問い合わせてください。

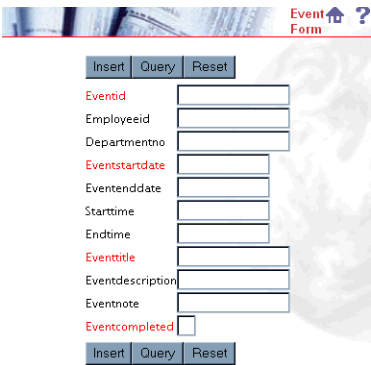
1. ナビゲータで、「アプリケーション」タブをクリックして、「CASEBOOK30_APPLICATION」に移動します。
ヒント：3.4.1 項「[カレンダーの作成ウィザードを使用したイベント・カレンダーの作成](#)」のステップ 2～5 を実行してください。
2. 「新規作成」の横にある「フォーム」をクリックします。
3. 「フォーム」ページで、「表またはビューをベースとするフォーム」をクリックします。
フォームの作成ウィザードが表示されます。
4. 「名前」フィールドに、<YourName>_EVENT_FORM と入力します。

5. 「表示名」フィールドに、<YourName> Event Form と入力します。
6. 「アプリケーション」リストで、「CASEBOOK30_APPLICATION」を選択します。
7. 「次へ」をクリックします。
8. 「表またはビュー」フィールドに、<DEMO_SCHEMA>.HLW_EVENTS と入力します。
注意：DEMO_SCHEMA は、デモ・スキーマ・オブジェクトのインストール先スキーマの名前です。表に「表またはビュー」フィールドが表示されます。
9. 「次へ」をクリックします。
10. 「フォーム・レイアウト」タブで、「表」が選択されていることを確認します。
11. 「次へ」をクリックします。
12. 左側のペインで、「FORM」が強調表示されていることを確認します。
13. 右側のペインをスクロールして、「PL/SQL」テキスト・ボックスを表示します。
14. テキスト・ボックスに、次のテキストを入力します。

```
go(' <http://<host name>/pls/<DAD>/<DEMO_SCHEMA>.<YourName>_EVENT_CAL.show>');
```



注意："<host name>" は、Oracle Portal の URL ("http://mycomputer.domain.com/pls/portal30" など) に置き換えてください。この URL は、<yourName>_EVENT_CAL の「コンポーネントの管理」ダイアログを表示し、「実行」の上にマウスを置いたときに表示されます。この URL は、ブラウザの一番下に表示されます。
15. 「完了」をクリックします。
 ここでは、ウィザードの残りのステップでデフォルト値を受け入れます。デフォルト値を確認するには、ウィザードの各ステップで「次へ」をクリックします。ただし、値は変更しないでください。確認したら、「完了」をクリックします。
16. 「完了」をクリックすると、新しいフォームの「コンポーネントの管理」ダイアログが表示されます。
17. 「アクセス」タブをクリックします。
18. 「ポータルに公開」チェック・ボックスを選択します。
注意：このチェック・ボックスを選択すると、フォームをポートレットとして表示できます。
19. 「適用」をクリックします。
20. 「開発」タブをクリックします。
21. 「実行」をクリックします。

新しいフォームが、別のブラウザ・ウィンドウに表示されます。



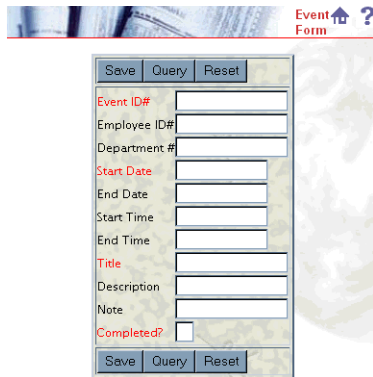
3.4.3 フォームの外観の変更

カレンダーのフォームは、カレンダー内のイベントを更新および表示するときにも使用されます。これらの作業のために、フォームの表示方法をカスタマイズすることもできます。

1. 「アプリケーション」タブで、「<YourName>_EVENT_FORM」の横にある「編集」をクリックします。
2. 「書式および妥当性チェック・オプション」ページで、「FORM」が強調表示されていることを確認します。
3. 「フォーム・レベル・オプション」の「ボックスの背景色」ドロップダウン・リストで、「小麦色 (Wheat)」を選択します。
4. 「ボックスの背景イメージ」ドロップダウン・リストで、「Dude」を選択します。
5. 「ボックスの境界線」ドロップダウン・リストで、「太い罫線」を選択します。
6. 問合せを「EVENT_START_DATE」順にソートします。
7. リストから「昇順」を選択します。
8. 左側のペインの「FORM」アイテム・リストが縮小されている場合は、  をクリックします。
9. 「INSERT_TOP」をクリックします。
10. 右側のペインの「ラベル」フィールドに、Save と入力します。
11. 左側のペインで、「INSERT_BOTTOM」をクリックします。
12. 右側のペインの「ラベル」フィールドに、Save と入力します。ステップ 9 ～ 13 が完了すると、フォームのボタンのラベルが「Save」に変更されます。

13. 左側のペインで、「EVENT_ID」をクリックします。
14. 右側のペインの「ラベル」フィールドに、Event ID# と入力します。
15. 左側のペインで、「EMPLOYEE_ID」をクリックします。
16. 右側のペインの「ラベル」フィールドに、Employee ID# と入力します。
17. 左側のペインで、「DEPARTMENT_NO」をクリックします。
18. 右側のペインの「ラベル」フィールドに、Department# と入力します。
19. 左側のペインで、「EVENT_START_DATE」をクリックします。
20. 右側のペインの「ラベル」フィールドに、Start Date (DD-MON-YY) と入力します。
21. 左側のペインで、「EVENT_END_DATE」をクリックします。
22. 右側のペインの「ラベル」フィールドに、End Date (DD-MON-YY) と入力します。
23. 左側のペインで、「EVENT_START_TIME」をクリックします。
24. 右側のペインの「ラベル」フィールドに、Start Time と入力します。
25. 左側のペインで、「EVENT_END_TIME」をクリックします。
26. 右側のペインの「ラベル」フィールドに、End Time と入力します。
27. 左側のペインで、「EVENT_TITLE」をクリックします。
28. 右側のペインの「ラベル」フィールドに、Title と入力します。
29. 左側のペインで、「EVENT_DESCRIPTION」をクリックします。
30. 右側のペインの「ラベル」フィールドに、Description と入力します。
31. 左側のペインで、「EVENT_NOTE」をクリックします。
32. 右側のペインの「ラベル」フィールドに、Note と入力します。
33. 左側のペインで、「EVENT_COMPLETED」をクリックします。
34. 右側のペインの「ラベル」フィールドに、Completed? と入力します。
35. 「OK」をクリックします。
36. 「コンポーネントの管理」ダイアログで、「実行」をクリックします。

新しい色とラベル名が設定されたフォームが、新しいブラウザ・ウィンドウに表示されます。





3.4.4 フォームのデータベース順序の作成

ユーザーが新しいフォームを使用してイベントの追加、更新および削除を行うには、各レコードに順序番号を割り当てる必要があります。順序の作成ウィザードを使用すると、データベース内の各レコードに対して順序番号を自動生成できます。ユーザーと Oracle Portal は、イベントを編集または削除するときに順序番号を参照して、該当するレコードを取得できます。

注意：データベース・オブジェクトを作成するには、MANAGE ALL SCHEMAS グローバル権限、または <DEMO_SCHEMA> スキーマに対する管理権限を持っている必要があります。

参照情報：Oracle Portal オンライン・ヘルプを参照してください。「カテゴリ」リストで「Administration Tasks」を選択し、「実行」をクリックします。右のペイン内で、「Building Database Objects」をクリックします。

1. ショートカット・バーの  をクリックします。
2. ナビゲータの「データベース・オブジェクト」タブをクリックします。
3. 「パス」の横に、「パス:データベース・スキーマ,<DEMO_SCHEMA>」と表示されていることを確認します。表示されない場合、「データベース・スキーマ」をクリックして、ディレクトリのルートに移動します。次に、リスト内で <DEMO_SCHEMA> を検索します。「<DEMO_SCHEMA>」をクリックして、スキーマにアクセスします。
4. 「新規作成」の横にある「順序」をクリックします。
5. 順序の作成ウィザードのステップ 1 では、**スキーマ名**として <DEMO_SCHEMA> をそのまま使用します。
6. 「順序名」に、<YourName>_EVENT_SEQ と入力します。
7. 「次へ」をクリックします。
8. ステップ 2 で、「増分」フィールドに 10 と入力します。

9. 「開始」フィールドに、1000 と入力します。
10. 「次へ」をクリックします。
11. ステップ3で、「完了」をクリックします。
 <YourName>_EVENT_SEQ がデータベース・ナビゲータに表示されます。
注意：リストに順序が表示されない場合は、「次へ」をクリックしてください。または、「検索」フィールドを使用することもできます。
12. データベース・オブジェクト・ナビゲータで、<YourName>_EVENT_SEQ の横にある「アクセス権限の付与」をクリックします。
13. 「ユーザー / ロール」フィールドに、PUBLIC と入力します。
ヒント：「PUBLIC」にアクセス権限を付与すると、作成したフォームでこの順序を使用できます。また、フォームを使用できるすべてのユーザーが、データベースにレコードを挿入できるようになります。ユーザーまたはグループごとに、アクセス権限を付与することもできます。
14. リストから「SELECT」を選択します。
15. 「権限付与オプション」チェック・ボックスが選択されていないことを確認します。
注意：「権限付与オプション」チェック・ボックスを選択すると、データベース順序に他のユーザー権限を付与する権限が PUBLIC に対して付与されます。
16. 「リストに追加」をクリックします。
17. 「閉じる」をクリックします。
18. 「アプリケーション」タブをクリックします。
19. 「CASEBOOK30_APPLICATION」で、「<YourName>_EVENT_FORM」を検索します。
 「パス:アプリケーション,CASEBOOK30_APPLICATION」というパスが表示されます。
20. 「<YourName>_EVENT_FORM」の横にある「編集」をクリックします。
21. 「書式および妥当性チェック・オプション」ページの左側のペインで、「EVENT_ID」列を検索します。すべての列を表示する場合は、「FORM」の横にある  をクリックします。
22. 「EVENT_ID」をクリックします。
23. 右側のペインで、「妥当性チェック・オプション」セクションを検索します。
24. 「デフォルト値」フィールドに、次のように入力します。
 #<DEMO_SCHEMA>.<YourName>_EVENT_SEQ.nextval

25. 「OK」をクリックします。

ユーザーが EVENT_FORM を使用してイベントを追加したときに、新規レコードおよび ID 番号が自動的に割り当てられるようになりました。この番号はレコードごとに一意であるため、レコードの取得、更新および削除が簡単になります。

3.4.5 フォームとカレンダー間のリンクの作成

ユーザーがイベント・カレンダーを更新できるようにするには、フォームとカレンダー間にリンクを作成する必要があります。

参照情報：Oracle Portal オンライン・ヘルプを参照してください。「カテゴリ」リストで「Application Tasks」を選択し、「実行」をクリックします。右側のペインで「Building Shared Components」をクリックします。

1. 「アプリケーション」タブで、「新規作成」の横にある「リンク」をクリックします。
2. 「リンクの作成ウィザード」のステップ 1 で、「リンク名」フィールドに <YourName>_EVENT_LINK と入力します。
3. 「アプリケーション」リストで、「CASEBOOK30_APPLICATION」を選択します。
4. 「次へ」をクリックします。
5. リンクの作成ウィザードのステップ 2 で、「Oracle Portal コンポーネント」を選択します。
6. 「ターゲット・コンポーネントまたは URL」フィールドに、Casebook30_Application.<YourName>_EVENT_FORM と入力します。
7. 「完了」をクリックします。

これで、「コンポーネントの管理」ダイアログにリンクが表示されます。

注意：次のステップを実行する前に、<YourName>_EVENT_FORM のモジュール ID をメモしておいてください。この値は、<YourName>_EVENT_FORM の「コンポーネントの管理」ダイアログを表示すれば確認できます。詳細は、ポータル管理者に問い合わせてください。

8. ナビゲータの「アプリケーション」タブをクリックして、「<Your Name> EVENT CAL」に移動します。
9. 「編集」をクリックします。

イベント・カレンダーの SQL 問合せが表示されます。

10. SQL 問合せの「the_name_link」列にリンクを追加します。リンクを追加するには、以下のように SQL 問合せを編集します。

```
select
    e.event_start_date the_date,
    e.event_title      the_name,
    <PORTAL_SCHEMA>.wwv_app_module.link?p_arg_names=moduleid&p_arg_
values=<EventFormID>&p_arg_names=_event_id_cond&p_arg_values=%3D&p_arg_names=_
show_header&p_arg_values=YES'||E.EVENT_ID||'
    the_date_link,
    null          the_target
from <DEMO_SCHEMA>.hlw_events e
order by 1
```


注意：このテキストのコードを直接コピーしてペーストすることはできません。このテキストの PORTAL_SCHEMA を Oracle Portal のインストール先スキーマの名前に変更し、DEMO_SCHEMA をデモ・オブジェクトのインストール先スキーマの名前に変更する必要があります。さらに、EventFormID を、さきほどメモしておいた <YourName>_EVENT_FORM のモジュール ID に置き換えてください。

11. 「OK」をクリックします。「コンポーネントの管理」ダイアログにカレンダーが表示されます。

カレンダーのリンクが作成されました。

3.4.6 フォームにアクセスするボタンをカレンダー上に作成

フォームに簡単にアクセスできるようにするには、カレンダー上にボタンを作成する必要があります。

1. ナビゲータの「アプリケーション」タブで、「<YourName>_EVENT_CAL」の横にある「編集」をクリックします。
2.  をクリックして、「追加 PL/SQL コード」タブを表示します。
3. 「カレンダー」列で、「ヘッダー表示後」フィールドを編集します。
4. 「New Appointment」という名前のボタンを作成するための Javascript を入力します。このボタンをクリックすると、3.4.3 項「フォームの外観の変更」で作成したフォームが実行されます。

「ヘッダー表示前」フィールドに、次のコードを入力します。




```
http.formOpen(owa_util.get_owa_service_path||'<PORTAL_SCHEMA>.wwa_app_
module.link?p_arg_names=_moduleid&p_arg_values=<EventFormID>&p_arg_names=_
sessionid&p_arg_values=&p_arg_names=EVENT_START_DATE&p_arg_values=%23sysdate&p_
arg_names=_event_start_date_cond&p_arg_values=%3D&p_arg_names=_show_header&p_
arg_values=YES');
http.formSubmit(null, 'New Appointment');
http.formClose;
```

注意: EventFormID を、前述の例でメモしておいた <YourName>_EVENT_FORM のモジュール ID に置き換えてください。コンポーネントのモジュール ID は、その「コンポーネントの管理」ダイアログで検索できます。「ヘッダー表示後」ボックスに、カレンダー内のコードをコピーします。


5. 「OK」をクリックします。
6. 「コンポーネントの管理」ダイアログで、「実行」をクリックします。
7. 「New Appointment」をクリックします。
8. フォームにサンプルの情報を入力し、必須フィールド（赤で表示）に情報が入力されることを確認します。
9. 「保存」をクリックします。
10. ブラウザの「戻る」ボタンをクリックして、カレンダーに戻ります。
11. ブラウザの「再読み込み」または「更新」ボタンをクリックします。
イベントがカレンダーに表示されます。

3.4.7 カレンダーをポートレットとして追加

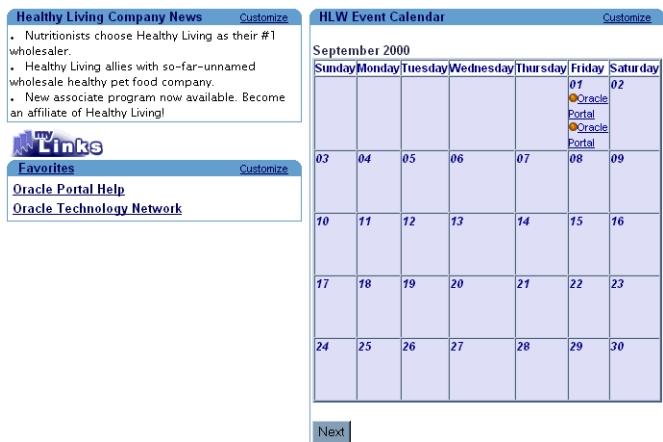
ユーザーが更新できるカレンダーを作成できました。このカレンダーは、イントラネット・ポータルに直接追加できます。

1. ショートカット・バーの  をクリックします。
2. 「マイ・ページ」リストで、「<YourName> Main」の横にある「編集」をクリックします。
3.  をクリックして、列を追加します。
4. 新しい領域で  をクリックして、ポートレットを追加します。
5. 「CASEBOOK30_APPLICATION」をクリックします。
6. 「<YourName>_EVENT_CAL」を検索します。

ヒント: カレンダーにドロップダウン・リストが表示されない場合は、ナビゲータに戻り、イベント・カレンダーを表示してください。カレンダーの横にある「管理」をクリックします。「アクセス」タブで、「ポータルに公開」チェック・ボックスが選択されていることを確認し、「適用」をクリックします。


7.  をクリックして、カレンダーをポートレットとして追加します。
8. 「OK」をクリックします。
9. 「閉じる」をクリックします。

カレンダーが、ページの右側の領域にポートレットとして表示されます。



3.5 ポータルを他のユーザーに表示

この時点では、ポータルを表示できるユーザーは、DBA および作成したユーザーのみです。他のユーザーもポータルを利用できるようにするには、他のユーザーにポータルへのアクセス権限を付与する必要があります。

1. ナビゲータの「アプリケーション」タブをクリックします。
ヒント: ナビゲータにアクセスするには、ショートカット・バーの  をクリックします。
2. パス : アプリケーションに移動します。
3. リスト内で、「CASEBOOK30_APPLICATION」の横にある「アクセス権限の付与」をクリックします。
4. 「ユーザー / ロール」フィールドに、Public を選択します。
5. リストから「実行」を選択します。
6. 「追加」をクリックします。「アクセス権限の変更」リストに「パブリック」が表示されます。
7. 「OK」をクリックします。
8. ユーザーの権限をテストするために、Oracle Portal を終了し、ユーザーとしてログインします。ナビゲータの「ページ」タブをクリックし、作成した「メイン」ページを表示して、「メイン」ポータルを表示します。第 1 章で作成したすべてのアプリケーションが表示されます。

3.6 まとめ

おめでとうございます。イントラネット・ポータルを作成し、そのポータルに様々なタイプのポートレットを追加しました。これで、次の方法を習得できました。

- ページを作成する
- カスタマイズした HTML ポートレットを作成する
- 「お気に入り」ポートレットをカスタマイズする
 - 新しい「お気に入り」のリンクを作成する
 - 既存の「お気に入り」のリンクを削除する
- イベント・カレンダーを作成する
- 表を基にしてフォームを作成し、カレンダーを更新する
- データベース順序を作成し、データベース内のイベント・レコードを更新する
- フォームとカレンダー間のリンクを作成する
- カレンダー・アプリケーションをポートレット・プロバイダとして追加する

ポータルの作成方法およびポートレットの使用方法の詳細は、Oracle Portal オンライン・ヘルプを参照してください。

イントラネット・ポータル¹の業務部門用 ページの作成

この章では、Oracle Portal を使用して、Healthy Living Wholesalers 社のイントラネット内に営業部門用のポータルを作成する方法について説明します。Healthy Living Wholesalers 社の営業担当向けのコンポーネントとページを作成し、顧客データベースへのアクセス、製品情報の検索、および担当販売情報の更新を簡単に行えるようにします。また、社内の営業担当別の月別販売ノルマおよび手数料リストも表示できます。

まず「Healthy Living」イントラネット・ポータル用のタブ付きページを作成し、次に第3章「イントラネット・ポータル¹の作成と簡単なポートレットの追加」で作成したページを追加します。第3章を完了していない場合でも、この章で新しいポータルを作成できます。ここでは、第3章で学習したアプリケーションよりも高度なアプリケーションを作成します。レポートの作成ウィザード、チャートの作成ウィザードおよびフォームの作成ウィザードを使用して、データを表示するビューをそれぞれ作成し、これらのビューを同一ポートレット内に表示します。また、特定のビジネス・ライン向けにアプリケーションを調整します。

この章の作業を完了するには、デモ・スキーマに対する「編集」権限以上のアクセス権限が必要です。また、この章のコンポーネントを作成するには、「編集」権限以上のアプリケーション権限が必要です。これらの権限を持っていない場合は、ポータル管理者に問い合せてください。

営業部門ポータルは、次の図に示す要素で構成されています。完成済みのポータルは、デモ・スキーマを含むインストール・パッケージに収められています。詳細は、ポータル管理者に問い合せてください。

この章は、次の項で構成されています。

内容	場所
ページの作成ウィザードを使用してタブ付きのページを作成し、既存のページをポートレットとして追加する。	4.1 項「タブ付きページを作成し、ポートレットとして追加」
フォルダ・ポートレットを作成する。	4.2 項「既存のフォルダをポートレットとして追加」
「SQL 問合せからのレポートを作成」ウィザードを使用して、販売レポート・ポートレットを作成する。次に、リンクの作成ウィザードと「問合せからのチャートを作成」ウィザードを使用して、販売レポートにリンクされたチャートを作成する。	4.3 項「営業チャート・ポートレットの作成およびレポートへのリンク」
2 つのチャートを作成し、同一ポートレットにそれらを追加する。	4.4 項「2 つのチャートを含む複数のタブ付き領域を作成」
チャート（「SQL 問合せからのチャートを作成」ウィザードを使用）、レポート（「問合せからのレポートを作成」ウィザードを使用）および検索フォームを作成し、それらを単一ポートレットに追加する。	4.5 項「フォーム、レポートおよびチャートを含む複数のタブ付き領域の作成」
静的 LOV に依存する動的 LOV を作成し、両方の LOV を既存のフォームに追加する。次に、チュートリアルで作成したアプリケーションを単一ポートレットに割り当て、同じデータを 2 つのビューで表示する。	4.5.3 項「手数料検索フォームに 2 つの LOV を作成」
表ウィザードの「フォームを作成」を使用して、顧客入力フォームを作成する。	4.6 項「顧客入力フォームの作成」
「問合せからのレポートを作成」ウィザードを使用して、製品レポートを作成する。	4.7 項「製品レポートの作成」
リンクの作成ウィザードとメニューの作成ウィザードを使用して、顧客入力フォームおよび製品レポートにリンクされたメニューを作成する。	4.8 項「リンクを含むメニューの作成」

4.1 タブ付きページを作成し、ポートレットとして追加

ここでは、「Inside Healthy Living」ポータルの「Sales」ページのレイアウトを作成します。ページ上にタブを作成し、第3章で作成した「メイン」ページをポートレットとして追加します。

注意：「メイン」ページをポートレットとして追加するには、「ページのカスタマイズ」ダイアログの「アクセス」タブで、「ポートレットとして公開」チェック・ボックスを選択する必要があります。





参照情報：Oracle Portal オンライン・ヘルプを参照してください。「カテゴリ」リストで「ページの作業」を選択して、「実行」をクリックします。右のペインで、「ページの作成」をクリックします。

1. Oracle Portal にログインします。

注意：ユーザー ID およびパスワードを持っていない場合は、ポータル管理者に問い合わせてください。


2. ナビゲータの「ページ」タブをクリックします。

注意：「パス」の横に「パス：ページ」と表示されていることを確認します。

3. 「マイ・ページ」の横で、「新規作成」をクリックします。
4. 「名前」フィールドに、<YourName>InsideHLW と入力します。
5. 「表示名」フィールドに、<Your Name> Inside Healthy Living と入力します。
6. 「次へ」をクリックします。
7. 「レイアウト・テンプレート」リストで、「プレーン・レイアウト」を選択します。
8. 「スタイル」リストで、「Healthy Living Page Style」を選択します。
9. 「次へ」をクリックします。
10.  をクリックして、タブをページに追加します。
11. 「New Tab」タブの横にある  をクリックして、さらにタブを追加します。
12. 最初の新しいタブの名前を編集するために、 をクリックします。
13. 「表示名」フィールドに、Main と入力します。
14. 「適用」をクリックします。
15. 「閉じる」をクリックします。
16. もう一方の「New Tab」タブの名前を編集するために、 をクリックします。
17. 「表示名」フィールドに、Sales と入力します。
18. 「適用」をクリックします。


19. 「閉じる」をクリックします。

20. 「Main」タブがアクティブであることを確認します。

21.  をクリックして、ポートレットを追加します。

22. 「Other Providers」をクリックします。

23. 「Oracle Portal」ページをクリックします。

24. 「一般」で、「<YourName> Main」の横にある  をクリックして、ページをポートレットとして追加します。

注意：第3章を完了していない場合は、「HLW Main」ページをポートレットとして追加します。このページは、すでに作成されています。

25. 「OK」をクリックします。

ポータルの「メイン」タブ上に、「メイン」ページのレイアウトが表示されます。

26. 「完了」をクリックします。

注意：バナーのグラフィックを変更するときは、「ページのカスタマイズ」ダイアログの「ポートレット」タブで、そのバナーの「デフォルトの編集」リンクをクリックします。「バナー・ロゴの設定」に、使用するロゴのファイル名を入力します。

タブを含むページが作成され、そのページがポートレットして追加されました。ポータルは、次のように表示されます。





4.2 既存のフォルダをポートレットとして追加

この項では、**既存のフォルダ**をポートレットとして追加します。アイテムをコンテンツ領域に追加するには、それらのアイテムをフォルダに編成して、他のユーザーがポータル経由でアイテムにアクセスできるようにする必要があります。作成したフォルダは、ポートレットとして公開できます。**アイテム**は、ポートレットとして公開できません。

参照情報：Oracle Portal オンライン・ヘルプを参照してください。「カテゴリ」リストで「Content Area Tasks」を選択し、「実行」をクリックします。右のペインで、「Working with Folders」をクリックします。

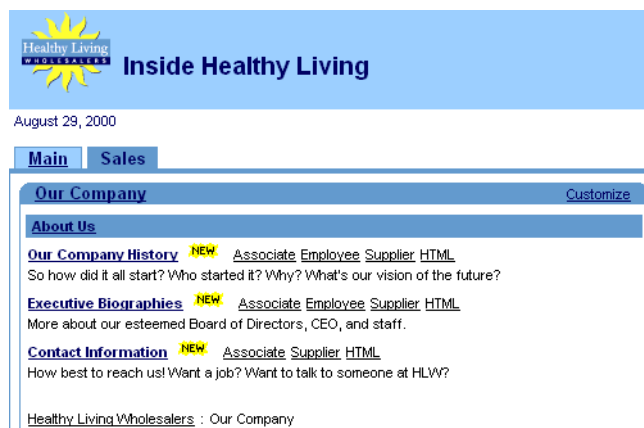
これらの手順は、コンテンツ領域をポートレットとして追加するときにも利用できます。その場合、フォルダのかわりに、コンテンツ領域を選択します。ただし、ルート・フォルダおよびサブフォルダの情報のみが、ポートレット内に表示されます。

1. ナビゲータの「ページ」タブをクリックします。
2. 「<YourName> Inside Healthy Living」ページに移動します。
3. 「編集」をクリックします。
4. 「ポートレット」タブをクリックします。
5. 「Sales」タブをクリックします。
6.  をクリックします。
7. 「他のプロバイダ」をクリックします。
8. 下方向にスクロールして、「Healthy Living Tutorial」を表示します。
9. 「Our Company」の横にある  をクリックして、フォルダをポートレットとして追加します。

注意：フォルダがプロバイダ・リストに表示されない場合は、ポータル管理者に問い合わせてください。

10. 「OK」をクリックします。
11. 「閉じる」をクリックします。

ポータルとフォルダは、次のように表示されます。



4.3 営業チャート・ポートレットの作成およびレポートへのリンク

ここでは、問合せウィザードを使用してレポートを作成します。チャートをレポートにリンクし、そのチャートをポートレットとして表示します。この結果、チャートを表示したときに、その詳細をレポートで確認できます。

アプリケーションを作成していない場合は、[3.4.1 項「カレンダーの作成ウィザードを使用したイベント・カレンダーの作成」](#)の手順に従って、ユーザー名の付いたアプリケーションを作成します。アプリケーションの作成時に、アプリケーションの「アクセス」タブで、「プロバイダとして公開」チェック・ボックスを選択してください。



参照情報：Oracle Portal オンライン・ヘルプを参照してください。「カテゴリ」リストで「Application Tasks」を選択し、「実行」をクリックします。右のペイン内で、「Building Shared Components」をクリックします。

4.3.1 レポートの作成

レポートにリンクしたチャートを作成するには、レポートを作成するときにチャートの情報に関連付ける必要があります。チャートは、[4.3.4 項「販売チャートの作成」](#)で作成します。

1. ナビゲータの「アプリケーション」タブをクリックします。
2. 「CASEBOOK30_APPLICATION」をクリックします。

注意：このアプリケーションが表示されない場合は、ポータル管理者に問い合わせてください。<DEMO SCHEMA>を選択します。DEMO SCHEMA は、デモ・スキーマ・オブジェクトのインストール先のスキーマです。このスキーマへのアクセス権を持っていない場合は、データベース管理者に問い合わせるか、付録 A を参照してください。

3. 「新規作成」の横にある「レポート」をクリックします。
4. 「問合せウィザードからのレポート」をクリックします。
5. 「名前」フィールドに、<YourName>_REGIONAL_SALES_REPORT と入力します。
6. 「表示名」フィールドに、<YourName> Regional Sales Report と入力します。
7. 「アプリケーション」リストで「CASEBOOK30_APPLICATION」が選択されていることを確認します。
8. 「次へ」をクリックします。
9. 「表またはビュー」フィールドの横にある  をクリックします。
10. 検索フィールドに <DEMO SCHEMA>.HLW_SALES_VIEW と入力し、「検索」をクリックします。
注意：ビューの名前の先頭には、ポータル管理者がインストールしたスキーマ名を付けます。ビューが表示されない場合またはスキーマ名が不明な場合は、ポータル管理者に問い合わせてください。
11. 表示されたビューをクリックします。
「検索」ウィンドウが閉じて、「表またはビュー」フィールドにビュー名が表示されます。
12. 「追加」をクリックします。
「選択した表 / ビュー」にビュー名が表示されます。
13. 「次へ」をクリックします。
14. 「表またはビュー列」タブで  をクリックして、すべての列を「選択列」リストに移動します。
15. ▲および▼ を使用して、列を次のように並べ替えます。
SALES_VIEW.REGION
SALES_VIEW.ID
SALES_VIEW.CUSTOMER
SALES_VIEW.AMOUNT
16. 「次へ」をクリックします。
17. 「列条件」タブで、「次へ」をクリックします。
18. 「レポートのレイアウト」タブで、「表」が選択されていることを確認します。
19. 「次へ」をクリックします。
20. 「列の表示書式」タブで、HLW_SALES_VIEW.ID の横にある「列ヘッダー」を Order# に変更します。

21. SALES_VIEW.ID の横にある「文字位置」で、「左揃え」を選択します。
22. 「次へ」をクリックします。
23. 「書式条件」タブの最初の行で、次の変更を行います。
 - a. 「列」リストで、「<NO CONDITION>」を選択します。
 - b. 「行 / 列」リストで、「<DEMO_SCHEMA>_SALES_VIEW.AMOUNT」を選択します。
 - c. 「背景色」リストで、「Green, Pale」を選択します。
24. 「次へ」をクリックします。
25. 「表示」オプション・タブの「フル・ページ・オプション」の「境界線」リストで、「細い罫線」を選択します。
26. 「ヘッダーの背景色」リストで、「Green, Pale」を選択します。
27. 「表の行の色」リストで、「Gray, Light」を選択します。
28. 「ポートレット・オプション」で、「境界線」、「ヘッダーの背景色」および「表の行の色」に対して実行した変更と同じ変更を行います。
29. 「ブレイク・オプション」の「ブレイク・スタイル」リストで、「左ブレイク」を選択します。
30. 「列の第 1 ブレイク」リストで、「HLW_SALES_VIEW.REGION」を選択します。
31. 「行順序オプション」の「順序基準」で、「HLW_SALES_VIEW.REGION」を選択します。「昇順」が選択されていることを確認します。
32. 最初の「次の順序基準」リストで「HLW_SALES_VIEW.CUSTOMER」を選択し、「昇順」が選択されていることを確認します。
33. 2 番目の「次の順序基準」リストで「HLW_SALES_VIEW.ID」を選択し、「昇順」が選択されていることを確認します。
34. 「次へ」をクリックします。
35. 「カスタマイズ・フォームの表示オプション」の最初の行を、次のように変更します。
 - 「必須の値」チェック・ボックスを選択します。
 - 「列名」リストで、「HLW_SALES_VIEW.REGION」を選択します。
 - 「プロンプト」フィールドに、Region と入力します。

36. 「書式オプション」で、次のチェック・ボックスのチェックを外します。
 - 出力形式
 - 最大行数
 - 列のブレーク
 - フォント・サイズ
 - 順序基準
 - レイアウト書式
 - 表示名
37. 「完了」をクリックします。
38. 「アクセス」タブをクリックします。
39. 「ポータルに公開」チェック・ボックスを選択します。
40. 「適用」をクリックします。これでレポート作成が完了しました。

4.3.2 販売レポートのテスト

チャートを作成する前に、販売レポートをテストして適切に動作することを確認します。

1. <YourName>_REGIONAL_SALES_REPORT の「コンポーネントの管理」ダイアログで、「開発」タブを表示します。4.3.1 項「レポートの作成」から引き続き作業している場合は、このダイアログはすでに表示されています。
2. 「実行」をクリックします。コンポーネントが、Web ブラウザの新規ウィンドウに表示されます。

注意：「必須フィールドが未設定です」というエラー・メッセージが表示されます。レポートのカスタマイズ・フォームに必須フィールドを設定したため、このエラーが発生します。
3. ブラウザ・ウィンドウを閉じて、Web ブラウザ・ウィンドウに戻ります。REGIONAL_SALES_REPORT の「コンポーネントの管理」ダイアログが表示されています。
4. 「コンポーネントの管理」ダイアログで、「カスタマイズ」をクリックします。
5. 「REGION」ドロップダウン・リストで、「=」を選択します。
6. フィールドに、Southeast と入力します。

注意：このフィールドでは、大文字・小文字が区別されます。
7. 「レポートの実行」をクリックします。

レポートは、次のように表示されます。

ORACLE Regional Sales Report ?			
Region	Order#	Customer	Amount
Southeast	\$1,972.	Dan Masse	590
	\$1,974.	Dan Masse	739
	\$1,964.	Deborah Price	789
	\$1,968.	Peter Gilbert	634
	\$1,976.	Peter Gilbert	837
	\$2,021.	Peter Gilbert	111

4.3.3 販売レポートへのリンクの作成

ここでは、チャートをレポートに接続するリンクを作成します。リンクを作成しておくと、チャート内の戻り値をクリックしたときに、4.3.1 項「レポートの作成」で作成した「Regional Sales Report」に基づいて、その値の詳細情報を表示できます。

参照情報：Oracle Portal オンライン・ヘルプを参照してください。「カテゴリ」リストで「Application Tasks」を選択し、「実行」をクリックします。右側のペインで「Building Shared Components」をクリックします。


1. ナビゲータの「アプリケーション」タブをクリックします。
2. 「CASEBOOK30_APPLICATION」をクリックします。
3. 「新規作成」の横にある「リンク」をクリックします。
4. 「リンク名」フィールドに、<YourName>_REGIONAL_SALES_REPORT_LINK と入力します。
5. 「アプリケーション」フィールドで、「CASEBOOK30_APPLICATION」が選択されていることを確認します。
6. 「次へ」をクリックします。
7. 「Oracle Portal コンポーネント」ラジオ・ボタンが選択されていることを確認します。
8. 「ターゲット・コンポーネントまたは URL」フィールドに、CASEBOOK30_APPLICATION.<YourName>_REGIONAL_SALES_REPORT と入力します。
9. 「完了」をクリックします。

4.3.4 販売チャートの作成

ここでは、チャートを作成し、[4.3.1 項「レポートの作成」](#)で作成したレポートにリンクします。

1. ナビゲータの「アプリケーション」タブをクリックします。
2. 「CASEBOOK30_APPLICATION」をクリックします。
3. 「新規作成」の横にある「チャート」をクリックします。
4. 「問合せウィザードからのチャート」をクリックします。
5. 「名前」フィールドに、<YourName>_TOTAL_SALES_CHART と入力します。
6. 「表示名」フィールドに、<YourName> Total Sales Chart と入力します。
7. 「アプリケーション」リストで、「CASEBOOK30_APPLICATION」が選択されていることを確認します。
8. 「次へ」をクリックします。
9. 「表 / ビュー」フィールドに、<DEMO_SCHEMA>.HLW_SALES_VIEW と入力します。

ヒント: このビューの使用時にエラーが表示される場合は、「検索」ウィンドウを使用してください。<DEMO_SCHEMA> スキーマが表示されない場合は、ポータル管理者に問い合わせてください。

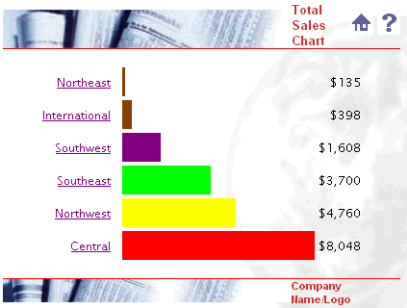
10. 「次へ」をクリックします。
11. 「表またはビュー列」タブの「ラベル」リストで、「REGION」を選択します。
12. 「リンク」リストで、「<YourName>_REGIONAL_SALES_REPORT_LINK」([4.3.3 項「販売レポートへのリンクの作成」](#)で作成したリンク)を選択します。
13. 「リンク」リストの横にある  をクリックします。
14. 表示されたウィンドウの「条件」リストで、「=」を選択します。
15. 最初の「列名」リストで、「REGION」を選択します。
16. 「OK」をクリックします。
17. 「値」リストで、「AMOUNT」を選択します。
18. 「集計関数」リストで、「SUM」を選択します。
19. 「次へ」をクリックします。
20. 「列条件」タブで、「次へ」をクリックします。
21. 「表示オプション」タブの「共通オプション」の「順序基準」リストで、「ORDER BY VALUE」を選択します。
22. 「フル・ページ・オプション」の「値の書式マスク」フィールドで、数値 999,999,999,999,999 の前に \$ を入力します。

- 23. 「完了」をクリックします。
- 24. 「コンポーネントの管理」ダイアログで、「アクセス」タブをクリックします。
- 25. 「ポータルに公開」チェック・ボックスを選択します。
- 26. 「適用」をクリックし、「閉じる」をクリックします。チャートが作成されました。

4.3.5 チャートのリンク・テスト

レポート、リンクおよびチャートの作成が完了しました。次に、チャートのリンクをテストして、レポート内の対応するデータが表示されることを確認します。

- 1. 「開発」タブの「コンポーネントの管理」ダイアログで、「実行」をクリックします。次のように表示されます。




- 2. 「Northeast」をクリックします。次のように表示されます。



ORACLE Regional Sales Report			
Region	Order#	Customer	Amount
Northeast	\$1,966	Hilary Walters	80
	\$1,980	Hilary Walters	55

4.3.6 チャートをポートレットとして表示

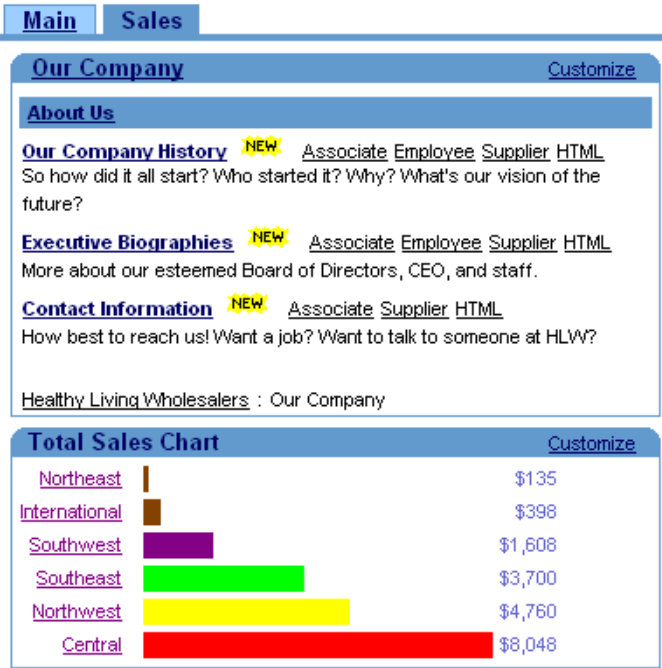
作成したリンク付きチャートは、ポートレットとして表示できます。チャート内のリンクをクリックすると、対応するレポート内のフィールドが表示されます。

1. ナビゲータの「ページ」タブをクリックします。
2. 「マイ・ページ」に移動します。
3. 「マイ・ページ」の「編集」をクリックします。
4. 「ポートレット」タブで、「Sales」タブが選択されていることを確認します。
5. をクリックして、新しい領域を追加します。

「Sales」ページが2つの領域に分割されます。左の領域には、[4.2 項「既存のフォルダをポートレットとして追加」](#)で追加したフォルダ・ポートレットが表示されます。

6. 「ポートレット」タブの左側のペインで、をクリックします。
7. 「ポートレットの追加」ダイアログで、「他のプロバイダ」をクリックします。
8. 「HLW_Casebook」をクリックします。
9. 「一般」で、「<YourName> Total Sales Chart」というチャートを探します。
10. チャートの横にあるをクリックします。
11. 「OK」をクリックします。
12. 「閉じる」をクリックします。

ポータルにチャートが表示されます。



4.4 2つのチャートを含む複数のタブ付き領域を作成

ここでは、2つの異なるチャート（その年度の販売予算を表示するチャートと、各製品の最高収益を表示するチャート）を作成します。次に、[4.3 項「営業チャート・ポートレットの作成およびレポートへのリンク」](#)で作成したチャートと共に、これら2つのチャートを単一ポートレットに表示します。営業担当は、このポートレットを使用して、各チャートの参照および営業情報の編成を簡単に行うことができます。また、領域内で複数のタブを使用し、同一領域内で同じデータを様々なビューで表示できます。



4.4.1 作成済みのチャートの使用

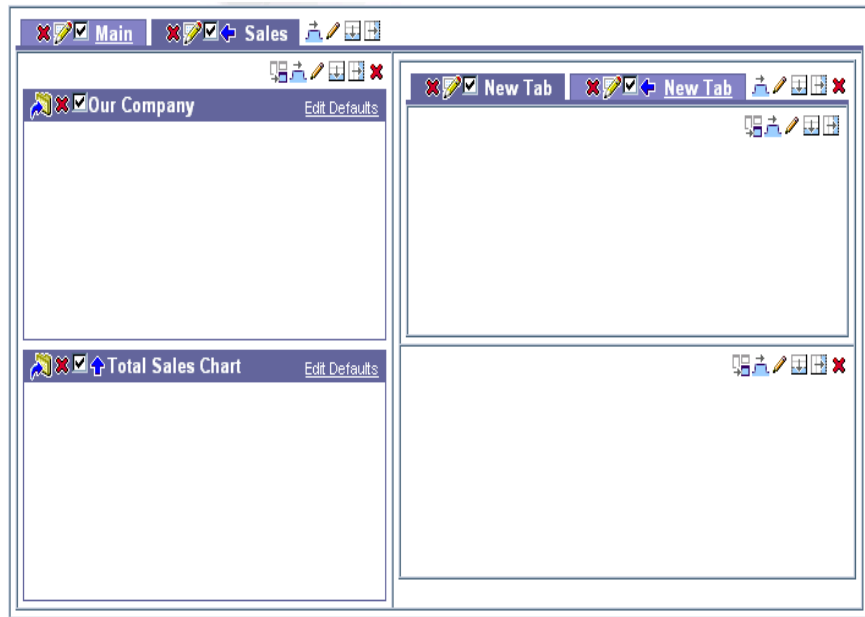
単一ポートレットに追加する2つのチャートは、すでに作成されています。これらのチャートにアクセスするには、「編集」以上のアクセス権限が必要です。これらの権限を持っていないか、これらの権限に習熟していない場合は、ポータル管理者に問い合わせてください。


注意：この例では、アクセス権のある任意のチャートを使用できます。





4.4.2 複数のチャートを同一ポートレットに追加

ここでは、複数タブ・ポートレットを作成し、各タブにチャートを追加します。

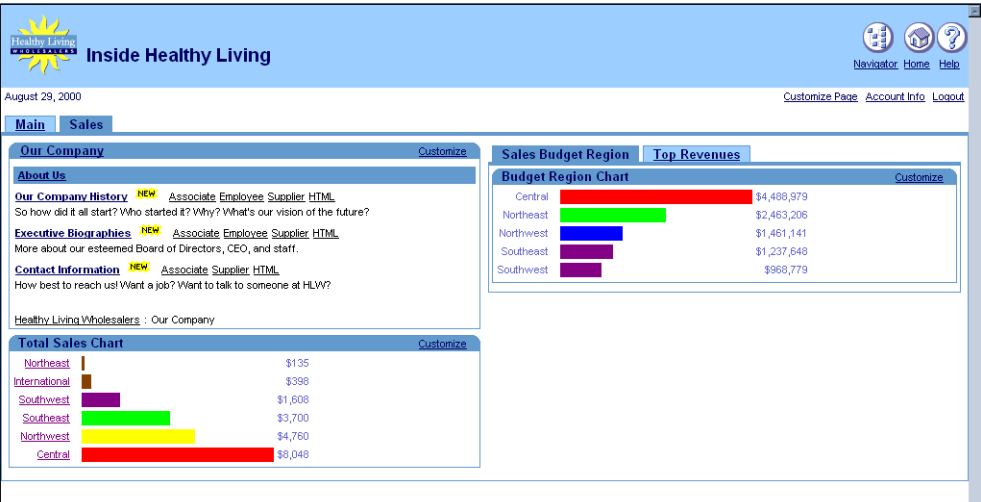
1. ナビゲータの「ページ」タブをクリックします。
 2. 「マイ・ページ」をクリックします。
 3. 「Inside Healthy Living」ページの横にある「編集」をクリックします。
 4. 「ポートレット」タブで、「Sales」タブが選択されていることを確認します。
 5. 右側の列で  をクリックして、新しい列に行を追加します。
 6. 右側の列の一番上の領域で  をクリックし、領域にタブを追加します。
 7. ステップ7の手順を繰り返して、同じ領域に2つのタブを表示します。
- 次のようなレイアウトになります。



8. 最初の新規タブの横にある  をクリックします。
9. 「表示名」フィールドに、Sales Budget by Region と入力します。
10. 「適用」をクリックします。
11. 「閉じる」をクリックします。

- 12. 2 番目のタブでステップ 10 ～ 12 を行い、Top Revenues という名前を付けます。
- 13. 「Sales Budget by Region」タブをクリックします。
- 14.  をクリックします。
- 15. 「ポートレットの追加」ダイアログで、「他のプロバイダ」をクリックします。
- 16. 「HLW_Casebook」をクリックします。
- 17. 「Budget Region Chart」チャートの横にある  をクリックします。
- 18. 「OK」をクリックします。
- 19. 「Top Revenues」タブをクリックします。
- 20.  をクリックします。
- 21. 「ポートレットの追加」ダイアログで、「他のプロバイダ」をクリックします。
- 22. 「HLW_Casebook」をクリックします。
- 23. 「Top Revenue Chart」チャートの横にある  をクリックします。
- 24. 「OK」をクリックします。
- 25. 「閉じる」をクリックします。

タブ付きのポートレットが、ポータル「Sales」タブに表示されます。ページは、次のように表示されます。



4.5 フォーム、レポートおよびチャートを含む複数のタブ付き領域の作成

ここでは、すべての販売手数料情報をアクセスするためのチャート、レポートおよび検索フォームを作成します。次に、これら 3 つのコンポーネントを単一領域に表示します。営業担当は、この領域を利用して、部門の歩合給情報を 3 つの方法で表示できます。

4.5.1 販売チャートの作成

ここでは、「SQL 問合せからのチャートを作成」ウィザードを使用します。SQL 問合せに基づいてチャートを作成すると、独自の SQL 文を作成できるため、強力な機能を提供できます。このチャートにリンクを追加する場合、リンクの SQL 文をチャートの SQL 文に追加することもできます。

1. ナビゲータの「アプリケーション」タブをクリックします。
2. 「CASEBOOK30_APPLICATION」をクリックします。
3. 「新規作成」の横にある「チャート」をクリックします。
4. 「SQL 問合せからのチャート」をクリックします。
5. 「名前」フィールドに、<YourName>_COMM_REG_CHART と入力します。
6. 「表示名」フィールドに、<YourName> Sales Commission Chart と入力します。
7. 「アプリケーション」リストで「CASEBOOK30_APPLICATION」が選択されていることを確認します。
8. 「次へ」をクリックします。
9. 「SQL 問合せ」フィールドに、次のように入力します。

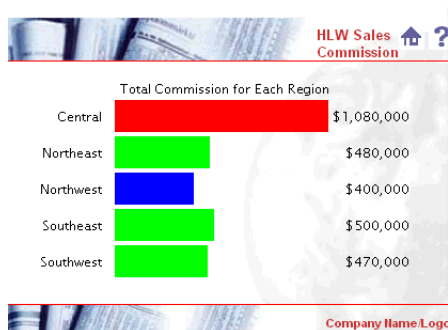
```
select
    null      the_link,
    r.region_name Region,
    sum(e.commission) Commission
from <DEMO_SCHEMA>.hlw_staff e, <DEMO_SCHEMA>.hlw_regions r
where r.region_id = e.region_id
group by region_name
order by 1
```

注意: このテキストのコードを直接コピーしてペーストすることはできません。デモ・スキーマ・オブジェクトのインストール先スキーマの名前に従って表の名前を変更する必要があります。

10. 「次へ」をクリックします。

注意：この時点でエラーが表示された場合は、SQL 問合せを不正に入力した可能性があります。SQL 文が正確であることを確認してください。それでもエラーが表示される場合は、<DEMO_SCHEMA> スキーマへのアクセス権が付与されているかどうかをポータル管理者に確認してください。

11. 「値の書式マスク」フィールドで、数値 999,999,999,999 の前に \$ を入力します。
12. 「次へ」をクリックします。
13. 「カスタマイズ・フォームの表示オプション」タブで、「次へ」をクリックします。
14. 「ヘッダー・テキスト」フィールドに、Total Commission for Each Region と入力します。
15. 「完了」をクリックします。
16. 「アクセス」タブをクリックします。
17. 「ポータルに公開」チェック・ボックスを選択します。
18. 「適用」をクリックします。
19. 「開発」をクリックします。
20. 「実行」をクリックして、新規チャートをテストします。チャートは、次のように表示されます。



4.5.2 販売手数料レポートの作成

ここでは、「問合せからのレポートを作成」ウィザードを使用して、複数のタブ付きレポートのタブに表示されるレポートを作成します。

1. ナビゲータの「アプリケーション」タブをクリックします。
2. 「CASEBOOK30_APPLICATION」をクリックします。
3. 「新規作成」の横にある「レポート」をクリックします。
4. 「問合せウィザードからのレポート」をクリックします。
5. 「名前」フィールドに、<YourName>_COMMISSION_REPORT を入力します。
6. 「表示名」フィールドに、<YourName> Sales Commission Report と入力します。
7. 「アプリケーション」リストで「CASEBOOK30_APPLICATION」が選択されていることを確認します。
8. 「次へ」をクリックします。
9. 次の2つの表を追加します。

<DEMO_SCHEMA>.HLW_STAFF

<DEMO_SCHEMA>.HLW_REGIONS

注意：DEMO_SCHEMA は、デモ・スキーマ・オブジェクトのインストール先スキーマの名前です。表を追加するには、各表の名前をフィールドに入力し、「追加」をクリックします。表を追加すると、フィールドの下に表の名前が表示されます。

10. 「次へ」をクリックします。
11. 「結合条件」タブに、「列」リストで以下の列をクリックして選択します。

HLW_REGIONS.REGION_ID = HLW_STAFF.REGION_ID

このデフォルト条件が表示された場合は、次のステップに進みます。このデフォルト条件が表示されない場合は、リストから適切な列を選択し、結合を作成します。

12. 「次へ」をクリックします。
13. 「列」リストで以下の列をクリックして選択します。次に、➤ をクリックして、「選択列」リストに列を移動します。

HLW_REGIONS.REGION_NAME

HLW_STAFF.EMPLOYEE_ID

HLW_STAFF.NAME

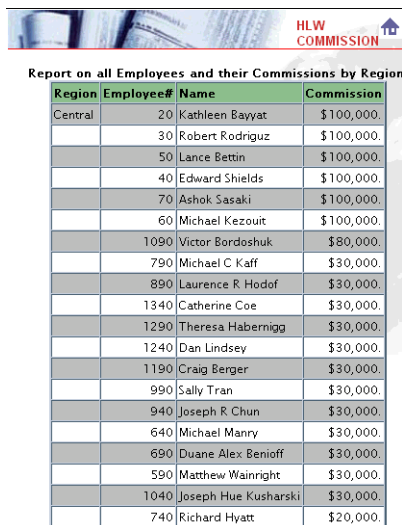
HLW_STAFF.COMMISSION

14. 「次へ」をクリックします。

15. 「列名」リストの最初の行で、「HLW_STAFF.COMMISSION」を選択します。
16. 「条件」リストで、「not null」を選択します。
17. 「次へ」をクリックします。
18. 「表」が選択されていることを確認します。
19. 「次へ」をクリックします。
20. 「列ヘッダー」の「Region Name」を Region に変更します。
21. 「Employee Id」を Employee# に変更します。
22. 「HLW_STAFF.COMMISSION」の横にある「書式マスク」に、\$999,999 と入力します。
23. 「次へ」をクリックします。
24. 「書式条件」タブで、「次へ」をクリックします。
25. 「フル・ページ・オプション」の「境界線」リストで、「太い罫線」を選択します。
26. 「ヘッダーの背景色」リストで、「Green, Pale」を選択します。
27. 「ポートレット・オプション」で、「境界線」を「太い罫線」に、「ヘッダーの背景色」を「Green, Pale」に変更します。
28. 「ブレイク・オプション」で、「左ブレイク」が選択されていることを確認します。
29. 「列の第 1 ブレイク」リストで、「HLW_REGIONS.REGION_NAME」を選択します。
30. 「行順序オプション」の「順序基準」リストで「HLW_REGIONS.REGION_NAME」を選択してから、「昇順」を選択します。
31. 次の行で、「順序基準」リストの「HLW_STAFF.COMMISSION」を選択してから、「降順」を選択します。
32. 「次へ」をクリックします。
33. 「カスタマイズ・フォームの表示オプション」タブで、「次へ」をクリックします。
34. 「レポートとカスタマイズ・フォームのテキスト」タブの「ヘッダー・テキスト」フィールドで、次のように入力します。

 <H4>Report on all Employees and their Commissions by Region</H4>.
35. 「完了」をクリックします。
36. 「アクセス」タブをクリックします。
37. 「ポータルに公開」チェック・ボックスを選択します。
38. 「適用」をクリックします。
39. 「開発」をクリックします。

40. 「実行」をクリックして、レポートをテストします。レポートは、次のように表示されます。



Report on all Employees and their Commissions by Region

Region	Employee#	Name	Commission
Central	20	Kathleen Bayyat	\$100,000.
	30	Robert Rodriguez	\$100,000.
	50	Lance Bettin	\$100,000.
	40	Edward Shields	\$100,000.
	70	Ashok Sasaki	\$100,000.
	60	Michael Kezouit	\$100,000.
	1090	Victor Bordoshuk	\$80,000.
	790	Michael C Kaff	\$30,000.
	890	Laurence R Hodof	\$30,000.
	1340	Catherine Coe	\$30,000.
	1290	Theresa Habernigg	\$30,000.
	1240	Dan Lindsey	\$30,000.
	1190	Craig Berger	\$30,000.
	990	Sally Tran	\$30,000.
	940	Joseph R. Chun	\$30,000.
	640	Michael Manry	\$30,000.
	690	Duane Alex Benioff	\$30,000.
	590	Matthew Wainright	\$30,000.
	1040	Joseph Hue Kusharski	\$30,000.
	740	Richard Hyatt	\$20,000.

4.5.3 手数料検索フォームに2つのLOVを作成

ここでは、[4.5.4 項「手数料検索フォームの作成」](#)で使用する2つの値リスト（LOV）を作成します。各LOVで選択した項目は、他のLOVに影響します。

参照情報：Oracle Portal オンライン・ヘルプを参照してください。「カテゴリ」リストで「アプリケーションの作業」を選択し、「実行」をクリックします。右側のペインの「コンポーネントの構築」をクリックし、「値リストの作成」をクリックします。

4.5.3.1 静的値リスト DEPARTMENT_LOV の作成

このLOVは、[4.5.3.2 項「バインド変数を使用した動的値リスト EMP_LOV を作成」](#)で作成するLOVに表示されるアイテムを制御します。このLOVの部門番号を選択すると、その部門の従業員が「Employee LOV」に表示されます。

1. ナビゲータの「アプリケーション」タブをクリックします。
2. 「CASEBOOK30_APPLICATION」をクリックします。
3. 「新規作成」の横にある「値リスト」をクリックします。
4. 「静的値リスト」をクリックします。

- 5. 「所有者」ドロップダウン・リストで「CASEBOOK30_APPLICATION」が選択されていることを確認します。
- 6. 「名前」フィールドに、<YourName>_DEPARTMENT_LOV と入力します。
- 7. 「デフォルト書式」リストで、「コンボ・ボックス」を選択します。
- 8. 「Null 値の表示」リストで、「はい」を選択します。
- 9. 「表示値」フィールドの最初の行に、Head Office と入力します。
- 10. 「戻り値」フィールドに、10 と入力します。
- 11. 「表示順序」フィールドに、1 と入力します。
- 12. 次の値を追加します。

表 4-1 部門の静的値リスト

製造	20	2
開発	30	3
営業	40	4
発送	50	5
運用	60	6
人事	70	7

注意：行を追加するときは、「追加」をクリックします。

- 13. 「OK」をクリックします。

4.5.3.2 バインド変数を使用した動的値リスト EMP_LOV を作成

この LOV は、「Department List of Values」で選択したアイテムに依存しています。DEPARTMENT_LOV の部門番号を選択すると、その部門の従業員がこの LOV に表示されます。他の LOV に依存する LOV を作成するには、SQL 問合せ内でバインド変数を使用する必要があります。

- 1. [4.5.3.1 項「静的値リスト DEPARTMENT_LOV の作成」](#) のステップ 1 ～ 3 を実行します。
- 2. 「動的値リスト」をクリックします。
- 3. 「名前」フィールドに、<YourName>_EMP_LOV と入力します。
- 4. 「デフォルト書式」リストで、「コンボ・ボックス」を選択します。
- 5. 「Null 値の表示」リストで、「はい」を選択します。

6. 「SQL 問合せ」フィールドに、次のように入力します。

```
select NAME, employee_id
from <DEMO_SCHEMA>.hlw_staff
where department_no = :deptno
order by name
```

注意：このテキストの SQL を直接コピーしてペーストすることはできません。スキーマ名には、デモ・スキーマ・オブジェクトのインストール先スキーマの名前を指定してください。

7. 「OK」をクリックします。


4.5.4 手数料検索フォームの作成

この項を完了するには、値リストを作成する必要があります（[4.5.3 項「手数料検索フォームに2つの LOV を作成」](#)を参照）。値リストを最初に作成しない場合、このフォームは後で編集することもできます。

1. ナビゲータの「アプリケーション」タブをクリックします。
2. 「CASEBOOK30_APPLICATION」をクリックします。
3. 「新規作成」の横にある「フォーム」をクリックします。
4. 「表またはビューをベースとするフォーム」をクリックします。
5. 「名前」フィールドに、<YourName>_COMM_SEARCH_FORM と入力します。
6. 「表示名」フィールドに、<YourName> Sales Commission Lookup と入力します。
7. 「アプリケーション」リストで「CASEBOOK30_APPLICATION」が選択されていることを確認します。
8. 「次へ」をクリックします。
9. <DEMO_SCHEMA>.HLW_STAFF 表を追加します。

注意：DEMO_SCHEMA は、デモ・スキーマ・オブジェクトのインストール先スキーマの名前です。表を追加するときは、「表またはビュー」フィールドに表の名前を入力します。

10. 「次へ」をクリックします。
11. 「表」が選択されていることを確認します。
12. 「次へ」をクリックします。
13. 左側のペインの「FORM」の下に、アイテムが表示されます。

注意：左側のペインの「FORM」の下にアイテムが表示されていない場合は、「FORM」の横にある  をクリックしてください。

14. ここでは、このフォームに必要なフィールドやボタンを削除します。学習目的でこのフォームを作成している場合は、このステップを省略してもかまいません。


次の各アイテムの横にある ✖ をクリックして、アイテムをフォームから削除します。次に、「OK」をクリックして、ダイアログを確定します。

- INSERT_TOP
- UPDATE_TOP
- DELETE_TOP
- EMPLOYEE_GENDER
- MARITAL_STATUS
- USER_ID
- EMAIL_ID
- HIRE_DATE
- ANNUAL_SALARY
- MANAGER_ID
- BUDGET
- VACATION_DAYS
- EMPLOYEE_ADDRESS
- EMPLOYEE_CITY
- EMPLOYEE_ZIP
- EMPLOYEE_STATE
- EMPLOYEE_PHONE
- INSERT_BOTTOM
- UPDATE_BOTTOM
- DELETE_BOTTOM
- QUERY_BOTTOM
- RESET_BOTTOM

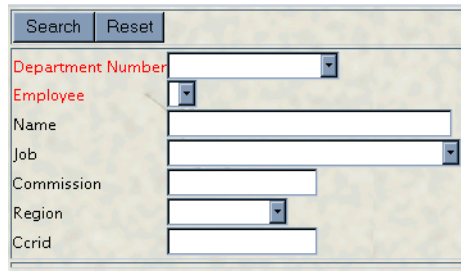
15. 左側のペインの「FORM」をクリックします。フォームのプロパティが、右側のペインに表示されます。

16. 「ボックスの背景イメージ」リストで、「Dude」を選択します。

17. 「ボックスの境界線」リストで、「太い罫線」を選択します。

18. 「実行時間を表示」チェック・ボックスのチェックを外します。
19. 「順序基準」の横にあるリストから「EMPLOYEE_ID」を選択し、「昇順」が選択されていることを確認します。
20. 左側のペインの「DEPARTMENT_NO」の横で  をクリックして、「DEPARTMENT_NO」が「EMPLOYEE_ID」の上に表示されるようにします。
21. 左側のペインの「QUERY_TOP」をクリックします。
22. 「ラベル」フィールドに、Search と入力します。
23. 左側のペインの「DEPARTMENT_NO」をクリックします。
24. 「アイテム・タイプ」リストで、「コンボ・ボックス」を選択します。
25. 「ラベル」フィールドに、Department と入力します。
26. 「値リスト」で、「<YourName>_DEPARTMENT_LOV」を選択します。
ヒント: 4.5.3.1 項「静的値リスト DEPARTMENT_LOV の作成」で作成した LOV を選択します。
27. 左側のペインの「EMPLOYEE_ID」をクリックします。
28. 「アイテム・タイプ」リストで、「コンボ・ボックス」を選択します。
29. 「ラベル」フィールドに、Employee と入力します。
30. 「フォント色」リストで、「黒 (Black)」を選択します。
31. 「値リスト」で、「<YourName>_EMP_LOV」を選択します。
ヒント: 4.5.3.2 項「バインド変数を使用した動的値リスト EMP_LOV を作成」で作成した LOV を選択します。
32. 「LOV に定義されたバインド変数のバインディングを設定してください。」リストで、「DEPARTMENT_NO」を選択します。
33. 「次へ」をクリックします。
34. 「ヘッダー・テキスト」フィールドに、Search for Employee Commission と入力します。
35. 「完了」をクリックします。
36. 「アクセス」タブをクリックします。
37. 「ポータルに公開」チェック・ボックスを選択します。
38. 「適用」をクリックします。
39. 「開発」をクリックします。

40. 「実行」をクリックして、フォームをテストします。フォームは、次のように表示されます。

A screenshot of a web form. At the top are two buttons: 'Search' and 'Reset'. Below them are several input fields. The first is 'Department Number' with a dropdown arrow. The second is 'Employee' with a dropdown arrow. The third is 'Name' with a text input field. The fourth is 'Job' with a dropdown arrow. The fifth is 'Commission' with a text input field. The sixth is 'Region' with a dropdown arrow. The seventh is 'Ccrid' with a text input field.

注意：2つのドロップダウン・リストのそれぞれから部門名と従業員名を選択できます。これらのドロップ・ダウン・リストは、[4.5.3 項「手数料検索フォームに2つのLOVを作成」](#)で作成した2つのLOVを基にしています。

4.5.5 チャート、レポートおよびフォームを同一ポートレットに追加

ここでは、作成したすべてのコンポーネントを同一ポートレットに追加します。

1. ナビゲータの「ページ」タブをクリックします。
2. 「マイ・ページ」をクリックします。
3. 「<YourName> Inside Healthy Living」の横にある「編集」をクリックします。
4. [4.4.2 項「複数のチャートを同一ポートレットに追加」](#)の手順に従って、次の名前のタブを右下の領域に作成します。
 - Commission Chart
 - Commission Report
 - Commission Lookup

注意：タブの名前を変更したときは、「適用」をクリックしてください。

5. 「<YourName>Commission Chart」チャートを「Commission Chart」タブに追加します。
6. 「<YourName>Commission Report」レポートを「Commission Report」タブに追加します。
7. 「<YourName>Commission Lookup」フォームを「Commission Lookup」タブに追加します。

8. 「ページのカスタマイズ」ダイアログを閉じます。ポートレットは、次のように表示されます（手数料フォームを含むタブがアクティブな状態）。

The screenshot shows a web application interface with three tabs: 'Commission Chart', 'Commission Report' (selected), and 'Commission Lookup'. Below the tabs is a header 'Search for Commission' with links 'Customize' and 'Help'. The main content area is titled 'Search for Employee Commission' and contains a search form. The form has a 'Search' button and a 'Reset' button. Below these are input fields for 'Employee ID', 'Name', 'Position' (a dropdown menu), 'Commission', 'Department' (a dropdown menu), 'Region' (a dropdown menu), and 'Ccrid'.

4.6 顧客入力フォームの作成

ここでは、営業担当がデータベースに対して顧客情報を追加、更新および削除するための入力フォームを作成します。ポートレットとして表示されるフォームを Oracle Portal に作成すれば、営業担当がデータベース内の情報を簡単に更新およびアクセスできるようになります。

4.6.1 データベース順序の作成

ここでは、各顧客レコードに一意の ID を割り当てるために、フォームで使用するデータベース順序を作成します。

参照情報：Oracle Portal オンライン・ヘルプを参照してください。「カテゴリ」リストで「管理作業」を選択し、「実行」をクリックします。右のペイン内で、「データベース・オブジェクトの構築」をクリックします。

1. ナビゲータで、「データベース・オブジェクト」をクリックします。

注意：データベース・オブジェクトを作成するには、MANAGE ALL SCHEMAS グローバル権限、または <DEMO_SCHEMA> スキーマに対する管理権限を持っている必要があります。

2. 「名前」の「<DEMO_SCHEMA>」をクリックします。
3. 「新規作成」の横にある「順序」をクリックします。
4. 「順序名」フィールドに、<YourName>_NEW_CUSTOMER と入力します。

ヒント: データベース・オブジェクトまたはコンポーネントには、わかりやすい名前を付けることをお勧めします。特に、他のユーザーとアプリケーションを共有するときには、有効です。

5. 「スキーマ」リストで、「<DEMO_SCHEMA>」が選択されていることを確認します。
6. 「次へ」をクリックします。
7. 「増分」フィールドに、1 と入力します。
8. 「開始」フィールドに、1000 と入力します。

注意: これらの値を2つのフィールドに設定すると、データベース内の顧客エントリは1000番から始まります。後続のレコードの増分値は1なので、2番目の顧客レコードのIDは1001になります。

9. 「完了」をクリックします。
10. ナビゲータの「データベース・オブジェクト」タブで、新しいデータベース順序(<YourName>_NEW_CUSTOMER)を検索します。

注意: 「検索」フィールドを使用すると、特定のデータベース・オブジェクトを検索できます。

11. 順序の横にある「アクセス権限の付与」をクリックします。
12. 「ユーザー / ロール」フィールドに、PUBLIC と入力します。
13. リストの「SELECT」をクリックします。
14. 「リストに追加」をクリックします。
15. 「閉じる」をクリックします。

データベース順序番号が作成されました。次の項では、このデータベース順序番号を使用するフォームを作成します。

4.6.2 フォームの REGION LOV の作成

1. ナビゲータの「アプリケーション」タブをクリックします。
2. 「CASEBOOK30_APPLICATION」をクリックします。
3. 「新規作成」の横にある「値リスト」をクリックします。
4. 「動的値リスト」をクリックします。
5. 「名前」フィールドに、<YourName>_REGION_LOV と入力します。
6. 「デフォルト書式」リストで、「コンボ・ボックス」を選択します。
7. 「Null 値の表示」リストで、「はい」を選択します。

8. 「SQL 問合せ」フィールドに、次のように入力します。

```
select region_name, region_id  
from <DEMO_SCHEMA>.HLW_REGIONS
```

注意: このテキストの SQL を直接コピーしてペーストすることはできません。スキーマ名は、デモ・スキーマ・オブジェクトのインストール先スキーマの名前に置き換える必要があります。

9. 「OK」をクリックします。

4.6.3 顧客入力フォームの作成


ここでは、Healthy Living Wholesalers 社の営業担当が新しい顧客の入力や既存の顧客情報の更新に使用するフォームを作成します。


1. ナビゲータの「アプリケーション」タブをクリックします。CASEBOOK30_APPLICATION のオブジェクトが表示されます。

注意: CASEBOOK30_APPLICATION が表示されない場合は、ページの一番上にあるリンクを使用して、そこに移動します。

2. 「新規作成」の横にある「フォーム」をクリックします。
3. 「表またはビューをベースとするフォーム」をクリックします。
4. 「名前」フィールドに、<YourName>_CUSTOMER_ENTRY_FORM と入力します。
5. 「表示名」フィールドに、<YourName>Customer Entry Form と入力します。
6. 「アプリケーション」フィールドで、「CASEBOOK30_APPLICATION」が選択されていることを確認します。
7. 「次へ」をクリックします。
8. 「表またはビュー」フィールドで、<DEMO_SCHEMA>.HLW_CUSTOMERS を選択します。
9. 「次へ」をクリックします。
10. 「表」ラジオ・ボタンを選択します。
11. 「次へ」をクリックします。

注意: DEMO_SCHEMA は、デモ・スキーマ・オブジェクトのインストール先スキーマの名前です。

12. 左側のペインの「FORM」に、表の列の一覧が表示されます。「FORM」に表の列が表示されない場合は、「FORM」の横にある  をクリックします。

13. 次の各アイテムの横にある  をクリックして、アイテムをフォームから削除します。次に、「OK」をクリックして、ダイアログを確定します。
 - PASSWORD
 - GENDER
 - AGE
 - INCOME
 - CURRENCY
 - CREDIT_CARD_OWNER_NAME
 - CREDIT_CARD_TYPE
 - CREDIT_CARD_NUMBER
 - CREDIT_CARD EXPIRATION_DATE
 - ADDRESS_LINE2
 - INSERT_BOTTOM
 - UPDATE_BOTTOM
 - DELETE_BOTTOM
 - QUERY_BOTTOM
 - RESET_BOTTOM
14. 左側のペインの一番上の「FORM」をクリックして、フォームのフォーム・レベルのプロパティを表示します。
15. 右側のペインの「フォーム・レベル・オプション」の「ボックスの背景イメージ」で、「World」を選択します。
16. 「ボックスの境界線」リストで、「太い罫線」を選択します。
17. 「実行時間を表示」チェック・ボックスのチェックを外します。
18. 「順序基準」リストで「ID」を選択し、「昇順」が選択されていることを確認します。
19. 左側のペインの「ID」をクリックして、IDの「アイテム・レベル・オプション」を表示します。
20. 右側のペインの「ラベル」フィールドに、Customer ID と入力します。
21. 「妥当性チェック・オプション」の「デフォルト値」フィールドに、`#<DEMO_SCHEMA>.<YourName>_NEW_CUSTOMER.nextval` と入力します。

注意：DEMO_SCHEMA は、スキーマ・オブジェクトのインストール先スキーマの名前です。デフォルト値を入力すると、このアイテムの顧客 ID 番号は、[4.6.1 項「データベース順序の作成」](#)で作成したデータベース順序に基づいて作成されます。

22. 左側のペインの「PHONE_NUMBER」をクリックして、プロパティを表示します。
23. 右側のペインの「ラベル」フィールドに、Phone Number と入力します。
24. 左側のペインの「EMAIL_ADDRESS」をクリックして、プロパティを表示します。
25. 右側のペインの「ラベル」フィールドに、E-mail Address と入力します。
26. 「入力の幅」フィールドに、25 と入力します。
27. 左側のペインの「ADDRESS_LINE1」をクリックして、プロパティを表示します。
28. 右側のペインの「ラベル」フィールドに、Address と入力します。
29. 「入力の幅」フィールドに、40 と入力します。
30. 左側のペインの「CITY」をクリックします。
31. 右側のペインの「入力の幅」フィールドに、25 と入力します。
32. 左側のペインの「POSTAL_CODE」をクリックします。
33. 右側のペインの「ラベル」フィールドに、Postal Code と入力します。
34. 左側のペインの「REGION_ID」をクリックします。
35. 右側のペインの「アイテム・タイプ」リストで、「コンボ・ボックス」を選択します。
36. 「ラベル」フィールドに、Region と入力します。
37. 「値リスト」フィールドで、「<YourName>_REGION_LOV」を選択します。
38. 「完了」をクリックします。[4.8 項「リンクを含むメニューの作成」](#)で作成したメニューを介してこのフォームにアクセスできるため、このフォームをポータルに公開する必要はありません。

注意：各フィールドの「入力の幅」は、使用するデータに合わせて常時変更できます。

Customer Entry

Insert Query Reset

Customer ID: 1415

Name:

Phone Number:

E-mail Address:

Address:

City:

State:

Postal Code:

Country:

Region:

4.7 製品レポートの作成


この項では、データベースに格納されているすべての製品を出力するレポートを作成します。4.8 項「[リンクを含むメニューの作成](#)」では、メニュー・ポートレットを作成し、リンクを介してこのレポートにアクセスできるようにします。すでにレポートを作成している場合は、この項をスキップできます。

カスタマイズ・フォームを使用して、ユーザーがレポートをカスタマイズできるようにすることもできます。ポートレットの「カスタマイズ」リンクをクリックすると、このフォームで指定した詳細が表示されます。この方法を利用して、ポータル・ページに表示されるデフォルト・データを制御することができます。一方、ユーザーは、作成したフォームを使用してレポート結果を抽出できます。

1. ナビゲータの「アプリケーション」タブをクリックします。
2. 「CASEBOOK30_APPLICATION」をクリックします。
3. 「新規作成」の横にある「レポート」をクリックします。
4. 「問合せウィザードからのレポート」をクリックします。
5. 「名前」フィールドに、<YourName>_PRODUCT_LISTINGS と入力します。
6. 「表示名」フィールドに、<YourName> Product Listings と入力します。
7. 「アプリケーション」フィールドで、「CASEBOOK30_APPLICATION」が選択されていることを確認します。
8. 「次へ」をクリックします。
9. 「表またはビュー」フィールドに、<DEMO_SCHEMA>.HLW_PRODUCTS と入力します。
注意: DEMO_SCHEMA は、デモ・スキーマ・オブジェクトのインストール先スキーマの名前です。
10. 「追加」をクリックします。「選択した表 / ビュー」リストに表が表示されます。
11. 「次へ」をクリックします。
12. 「列」リストで、以下の列を選択します（Windows の場合、[Ctrl] を押しながらかlickすると複数列を選択できる）。
 - HLW_PRODUCTS.ID
 - HLW_PRODUCTS.NAME
 - HLW_PRODUCTS.PRICE
 - HLW_PRODUCTS.DESCRPTION
13. ➤ をクリックして、選択した列を「選択列」リストに移動します。
14. 「選択列」リストで、「HLW_PRODUCTS.PRICE」をクリックします。
15. ▼ をクリックして、この列をリストの最後に移動します。

16. 「次へ」をクリックします。
17. 「列条件」タブで、「次へ」をクリックします。
18. 「レポートのレイアウト」タブで、「表」ラジオ・ボタンが選択されていることを確認してから、「次へ」をクリックします。
19. 「HLW_PRODUCTS.ID」の横にある「列ヘッダー」のIDをProduct #に変更します。
20. 「HLW_PRODUCTS.ID」の横にある「文字位置」リストで、「左揃え」を選択します。
21. 「HLW_PRODUCTS.DESCRPTION」の横にある「幅のタイプ」リストで、「文字数」を選択します。
22. 「HLW_PRODUCTS.DESCRPTION」の横にある「幅」フィールドに、90と入力します。
23. 「HLW_PRODUCTS.PRICE」の横にある「書式マスク」フィールドに、\$999,999.99と入力します。
24. 「次へ」をクリックします。
25. 「書式条件」タブで、「次へ」をクリックします。
26. 「フル・ページ・オプション」の「境界線」ドロップダウン・リストで、「細い罫線」を選択します。
27. 「ヘッダーの背景色」リストで、「Green, Pale」を選択します。
28. 「ポートレット・オプション」で、境界線を「細い罫線」に、「ヘッダーの背景色」を「Green, Pale」に変更します。
29. 「行順序オプション」の「順序基準」リストで「HLW_PRODUCTS.ID」を選択してから、「昇順」を選択します。
30. 「次へ」をクリックします。
31. 「カスタマイズ・フォームの表示オプション」タブで、「次へ」をクリックします。
32. 「ヘッダー・テキスト」フィールドに、<CENTER>と入力します。
33. 「フッター・テキスト」フィールドに、</CENTER>と入力します。
34. 「完了」をクリックします。
35. 「アクセス」タブをクリックします。
36. 「ポータルに公開」チェック・ボックスを選択します。
37. 「適用」をクリックします。
38. 「開発」をクリックします。

39. 「実行」をクリックします。レポートは、次のように表示されます。



The screenshot shows the top part of a web application. At the top, there is a header bar with a blue background. On the left, there is a small image of a document. In the center, the text "HLW Product Listings" is displayed in red. On the right, there are two icons: a house icon and a question mark icon.

Product #	Name	Description	Price
323	Knoggin Ski Helmet	Looking for the best protection for your cranial region? Look no further! This is the ultimate. Cheap copies have been made for others, but their heads have been cracked like eggshells on the side of many mountains.	\$59.00
326	Killa Snowboard	This snowboard is da bomb. Only available in goofy.	\$103.00
370	Jansen Baby Powder	For the softest smoothest skin imaginable, Jansen's Baby Powder is gentle enough for daily use for you and baby.	\$5.00
410	Krazo Vitamin D	Exclusively offered by Krazo. Available nowhere else but here!	\$43.00
411	"Super" Vitamin K	Helps cells grow normally, stabilizes bone tissue.	\$21.95
414	TriChem Vitamin B3	Following upon their success with Vitamin B2, comes their successor - Vitamin B3! Now nearly twice as effective as B2 in most clinical trials.	\$5.99
423	Beyodi Skin Cleanser	Gently and thoroughly dissolves dirt, oil, makeup, even mascara, while rinsing clean to give you the freshest complexion ever.	\$8.99

4.8 リンクを含むメニューの作成

ここでは、これまで作成した様々なコンポーネント（顧客入力フォームなど）にアクセスするためのメニューを作成します。メニューを作成すると、ユーザーがポータルから簡単にアクセスできるように、Oracle Portal 内のコンポーネント、フォルダおよび HTML ページを編成できます。

4.8.1 メニュー用のリンクを 2 つ作成



メニューを作成する前に、メニューに配置するリンクを作成する必要があります。ユーザーがこれらのリンクをクリックすると、対応するコンポーネント、ページまたはアイテムが表示されます。


1. ナビゲータの「アプリケーション」タブをクリックします。
2. 「CASEBOOK30_APPLICATION」をクリックします。
3. 「新規作成」の横にある「リンク」をクリックします。
4. 「リンク名」フィールドに、<YourName>_PRODUCT_REPORT と入力します。
5. 「次へ」をクリックします。
6. 「Oracle Portal コンポーネント」ラジオ・ボタンを選択します。



7. 「ターゲット・コンポーネントまたは URL」フィールドで、CASEBOOK30_APPLICATION.PRODUCT_LISTINGS を選択します。
注意: このフィールドでは、大文字・小文字が区別されます。
8. 「完了」をクリックします。
9. 「アクセス」タブをクリックします。
10. 「アプリケーションから権限を継承」チェック・ボックスが選択されていることを確認します。
11. 「閉じる」をクリックします。
12. ステップ 3～11 を実行して、以下の情報で構成される 2 番目のリンクを作成します。
 - 「名前」= <YOURNAME>_ADD_NEW_CUSTOMER
 - 「ターゲット・コンポーネントまたは URL」= CASEBOOK30_APPLICATION.CUSTOMER_ENTRY_FORM作業が完了すると、作成したリンクがナビゲータに表示されます。

4.8.2 メニューの作成

ここでは、2つのメニュー・アイテムを作成し、この章で作成した製品レポートおよび顧客入力フォームにリンクさせます。これらのアイテムは、[4.8.1 項「メニュー用のリンクを2つ作成」](#)で作成したリンクに依存しています。

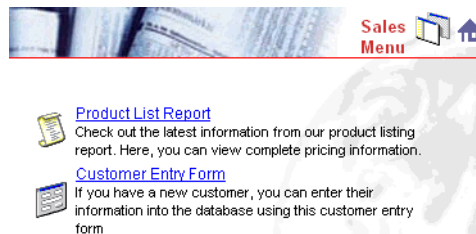
1. ナビゲータの「アプリケーション」タブをクリックします。
2. 「CASEBOOK30_APPLICATION」をクリックします。
3. 「新規作成」の横にある「メニュー」をクリックします。
4. 「メニュー名」フィールドに、<YourName>_SALES_MENU と入力します。
5. 「表示名」フィールドに、<YourName> Sales Menu と入力します。
6. 「アプリケーション」フィールドで、「CASEBOOK30_APPLICATION」が選択されていることを確認します。
7. 「次へ」をクリックします。
8. 「メニュー・アイテムとサブメニュー」タブの左側のペインで、「My Menu」が選択されていることを確認します。
9. 「名前」フィールドに、<YourName> Sales Menu と入力します。
10. 左側のペインの「My Menu」の横にある  をクリックします。
注意:  をクリックすると、メニュー名が更新されます。
11. 左側のペインで、「MENU_ITEM_1」が選択されていることを確認します。

12. 「名前」フィールドに、Product List Report と入力します。
13. 「ショートカット・アイコン」フィールドで、sql.gif を選択します。
14. 「リンク」フィールドの横にあるをクリックします。
15. 「検索」ウィンドウで、「<YourName>_PRODUCT_LISTINGS (SHOW)」(4.8.1 項「メニュー用のリンクを2つ作成」で作成した1番目のリンク)を検索します。
16. 「説明」フィールドに、次のように入力します。

製品リストのレポートの最新の情報を確認します。ここでは完全な価格情報を参照できません。
17. 「フォント」リストで、「Arial」を選択します。
18. 左側のペインの「Sales Menu」の横にあるをクリックします。
19. 「名前」フィールドに、Customer Entry Form と入力します。
20. 「ショートカット・アイコン」フィールドで、sql.gif を選択します。
21. 「リンク」フィールドで、をクリックします。
22. 「検索」ウィンドウで、「<YourName>_CUSTOMER_ENTRY_FORM (SHOW)」(4.8.1 項「メニュー用のリンクを2つ作成」で作成した2番目のリンク)をクリックします。リンクが、「リンク」フィールドに表示されます。
23. 「説明」フィールドに、次のように入力します。



新規顧客がいる場合、顧客入力フォームを使用して顧客情報をデータベースに入力します。
24. 「フォント」リストで、「Arial」を選択します。
25. 「完了」をクリックします。
26. 「アクセス」タブをクリックします。
27. 「ポータルに公開」チェック・ボックスを選択します。
28. 「アプリケーションから権限を継承」チェック・ボックスのチェックを外します。
29. 「適用」をクリックします。
30. 「開発」をクリックします。
31. 「編集」をクリックします。
32. 左側のペインで、「Sales Menu」が選択されていることを確認します。

33. 「共通オプション」で、次のチェック・ボックスのチェックを外します。このヘッダーに位置付けるために、必要に応じて下方向にスクロールしてください。
 - 「実行時間を表示」
 - 「検索」オプション・ボタンの表示
 - 「ログを記録」
34. 左側のペインで、「Product List Report」をクリックします。
35. 「OK」をクリックします。
36. 「実行」をクリックします。メニューは、次のように表示されます。

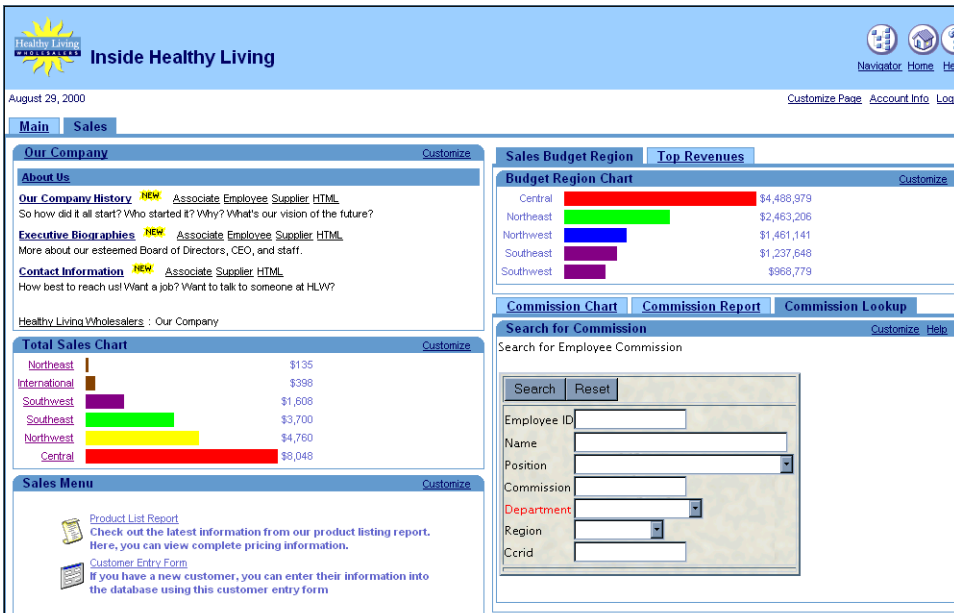


リンクをクリックして、Product Report および Customer Entry Form の両方が表示されることを確認します。

4.8.3 メニューをポートレットとして追加

1. ナビゲータの「ページ」タブをクリックします。
2. 「<YourName> Inside Healthy Living」に移動します。
3. 「編集」をクリックします。
4. 「Sales」タブが選択されていることを確認します。
5. 左側の領域のをクリックします。
6. 「ポートレット・リポジトリ」リストで「Sales Menu」を検索し、をクリックして追加します。
7. 「OK」をクリックします。
8. 「閉じる」をクリックします。

9. ブラウザにページが表示されます。ポータルは、最終的に次のように表示されます。



4.9 まとめ

おめでとうございます。特定の業務部門のイントラネット・ポータルを作成し、そのポータルに様々なタイプのポートレットを追加しました。これで、次の方法を習得できました。

- ページを作成する
- フォルダをポートレットとして追加する
- 「SQL 問合せからのレポート」を使用してレポートを作成する
- レポートにリンクしたチャートを作成する
- 3つのチャートを含む複数タブ・ポートレットを作成する
- 複数のタブで構成されるポートレットを作成し、同一データを3つのビュー（レポート、チャートおよびフォーム）で表示する
- 以下の LOV を含む顧客入力フォームを作成する
 - 静的値リスト
 - 動的値リスト
 - 静的値リストに依存する動的値リスト
- 「問合せからのレポートを作成」ウィザードを使用してレポートを作成する
- リンクを含むメニューを作成する
- バインド変数の値リストを作成する

ポータルの作成方法およびポートレットの使用の詳細は、Oracle Portal オンライン・ヘルプを参照してください。

セキュリティを適用した人事ポータル作成

この章では、Oracle Portal を使用して Healthy Living Wholesalers 社の人事部門のポータルを作成する方法、およびユーザーのタイプ別にポータルのページをカスタマイズする方法について説明します。ここでは、ページとコンポーネントを作成し、それらのオブジェクトに様々なレベルのセキュリティおよびアクセス権限を適用します。基本的なページおよびコンポーネントの作成に習熟していない場合は、[第3章「イントラネット・ポータルの作成と簡単なポートレットの追加」](#) および [第4章「イントラネット・ポータルの業務部門用ページの作成」](#) でサンプルを作成することをお勧めします。

この章では、人事ポータルの3つのページを作成します。具体的には、全社員向けのページ (Human Resources)、Healthy Living Wholesalers 社の管理者向けのページ (Managers)、および人事担当者専用のページ (HR Reps) です。組込みのセキュリティ機能を使用して、パブリック (全社員)、管理者 (会社の管理者全員) および人事担当者 (Healthy Living Wholesalers 社の人事担当者全員) の3タイプのユーザーにそれぞれ異なるページを表示します。ページ設計の詳細は、[第2章「Web コンテンツの計画」](#) を参照してください。ユーザー・タイプの作成については、ポータル管理者に問い合わせてください。

既存のコンテンツ領域の情報を使用して、ユーザーがポータルから既存の部門情報にアクセスできるようにします。「Inside Healthy Living Repository」と呼ばれる付属のコンテンツ領域を使用するか、[第6章「情報リポジトリの作成」](#) の手順に従って新しい情報リポジトリを作成します。

単純なコンポーネントを組み合わせて複雑なアプリケーションを作成し、ユーザーのタイプ別にカスタマイズしたポータルを提供します。たとえば、関連情報を表示するフォーム、レポートおよびカレンダーを作成します。「Human Resources」タブでは、社員がパブリック・フォームを使用して休暇届を提出し、その社員に残っている休暇日数を「Managers」タブのレポートに表示し、届出休暇期間を管理者のページのカレンダーに表示します。管理者は、カレンダーのリンクから休暇承認フォームに移動し、そのフォームを使用して休暇届を承認または却下できます。

次の図は、「Human Resources」ポータル の 3 つのタブで構成される「Inside Healthy Living」ポータルを示しています。

- 「Human Resources」ページは、次に示すように、「Human Resources」コンテンツ領域（第 6 章「情報リポジトリの作成」を参照）のパブリック・フォルダ、社内全体の人材募集状況レポート、休暇届フォームおよび社員検索フォームで構成されます。「Managers」ページは、次に示すように、「Human Resources」コンテンツ領域の管理者用フォルダ、給与チャート、および届出休暇期間を示すカレンダーと休暇届の承認用フォームを表示するタブ・ポートレットで構成されます。

「HR Representatives」ページは、次に示すように、「Human Resources」コンテンツ領域の人事担当者用フォルダ、社員の休暇残余日数レポート、および人材募集状況レポートと、人材を募集または募集を終了するためのフォームを表示するタブ・ポートレットで構成されます。「Inside Healthy Living Human Resources」ポータルを作成するには、まずページのカスタマイズ・ウィザードを使用して、既存のページにタブを追加します。第 3 章または第 4 章の作業を完了していない場合は、ページの作成ウィザードを使用してページを作成します。また、階層の作成ウィザードを使用して、会社の組織図を作成します。次に、フォームの作成ウィザードおよびレポートの作成ウィザードを使用して、互いに関連するフォームおよびレポートを作成します。さらに、「コンポーネントの管理」ダイアログの「アクセス権限の付与」タブを使用して、コンポーネント・レベルのセキュリティを適用します。

この章の作業を完了するには、デモ・スキーマに対する「編集」権限以上のアクセス権限が必要です。また、この章のコンポーネントを作成するには、「編集」権限以上のアプリケーション権限が必要です。これらの権限を持っていない場合は、ポータル管理者に問い合わせてください。

完成済みのポータルは、デモ・スキーマを含むインストール・パッケージに収められています。詳細は、ポータル管理者に問い合わせてください。

この章は、次の項で構成されています。

内容	場所
ポータルにタブを作成し、各タブにセキュリティを適用する。	5.1 項「イントラネット・ポータルの 3 つのタブの作成」
「階層の作成」ウィザードを使用してチームの組織図を作成し、社員検索フォームをその組織図にリンクさせる。	5.2 項「組織図にリンクする社員検索フォームの作成」
「表またはビューを基にしたフォームの作成」ウィザードを使用して人材募集状況の検索フォームおよび人材募集フォームを作成し、動的値リストおよび静的値リストを作成し、SQL 問合せからの「レポートの作成」ウィザードを使用して人材募集状況レポートを作成する。	5.3 項「人材募集状況を表示するコンポーネントと人材を募集するためのコンポーネントの作成」
データベース順序を作成し、休暇届用と休暇承認用の 2 つのフォームを作成する。さらに、「カレンダーを作成」ウィザードを使用して、届出休暇期間を表示するカレンダーおよび各社員の休暇残余日数を表示するレポートを作成する。	5.4 項「休暇届および休暇承認システムの作成」
「コンポーネントの管理」ダイアログの「アクセス権限の付与」タブを使用して、コンポーネント・レベルのセキュリティを適用する。	5.5 項「コンポーネントの表示を制御するセキュリティの適用」
「ページのカスタマイズ」ウィザードを使用して、ポータルの 3 つのタブを設計し、既存のコンテンツ領域の情報をポータルで活用する。	5.6 項「人事ポータルのタブの設計」

5.1 イン트라ネット・ポータル の 3 つの タブ の 作成

この項では、人事部門専用の「Inside Healthy Living Human Resources」ポータルに 3 つのタブを追加します。つまり、パブリック・ユーザー用、社内の管理者用および人事担当者用の各タブを作成します。第 4 章「イントラネット・ポータルの業務部門用ページの作成」の手順を完了しなかった場合は、「<YourName> Inside Healthy Living」ページを作成し、そのページに 3 つのタブを追加する必要があります。ページ作成の詳細は、3.1 項「ページの作成」を参照してください。



タブの作成後、各タブのアクセス権限を指定します。「Human Resources」タブはすべてのユーザーが表示でき、「Managers」タブは社内の管理者のみが表示でき、「HR Representatives」は人事担当者のみが表示できるようにします。つまり、Oracle Portal にログインすると、ユーザーのタイプによって、1 つまたは 2 つのタブのみが表示されます。これらのアクセス権限を適用するには、定義済みの HR_MANAGERS と HR_REPRESENTATIVES の 2 つのグループへのアクセス権限が必要です。これらのグループへのアクセス権限を持っていない場合は、ポータル管理者に問い合せてください。

注意：ポータル管理者のタスクについては、付録 A「Oracle Portal 管理者タスク」を参照してください。

参照情報：Oracle Portal オンライン・ヘルプを参照してください。「カテゴリ」リストで「ページの作業」を選択して、「実行」をクリックします。右のペインで、「ページの作成」をクリックします。

1. Oracle Portal で、「ページ」タブに移動します。
2. 「マイ・ページ」をクリックし、「<YourName> Inside Healthy Living」というページを探します。

注意：第 4 章「イントラネット・ポータルの業務部門用ページの作成」の手順を完了している場合にのみ、このページが表示されます。第 4 章の作業を完了していない場合は、「<YourName> Inside Healthy Living」ページを作成してから、この項の作業を行ってください。完了していない場合は、この章の図と異なり、ポータルに「メイン」ページと「Sales」ページが表示されません。

3. 「<YourName> Inside Healthy Living」の横にある「編集」をクリックします。
4. 「ポートレット」タブで、「Sales」タブの横にある  をクリックします。
5. 新しいタブの横にある  をもう一度クリックします。
6. ステップ 5 を繰り返します。
7. 最初に作成したタブに、Human Resources という名前を付けます。

注意：タブの編集方法が不明な場合は、4.1 項「タブ付きページを作成し、ポートレットとして追加」を参照してください。

8. 「拡張オプション」タブをクリックします。
9. 「アクセス設定を指定」ラジオ・ボタンを選択します。

10. 「パブリック・ユーザーにタブを表示」チェック・ボックスがチェックされていることを確認します。
11. 「適用」をクリックします。
12. 「閉じる」をクリックします。
13. 2 番目のタブに Managers という名前を付けます。
14. 「拡張オプション」タブをクリックします。
15. 「アクセス設定を指定」ラジオ・ボタンを選択します。
16. 「パブリック・ユーザーにタブを表示」チェック・ボックスのチェックが外れていることを確認します。
17. 「ユーザー / ロール」フィールドで、HR_MANAGERS を選択します。

注意：ここで入力した名前は、Healthy Living Wholesalers 社の管理者用のグループ名です。HR_MANAGERS グループが表示されない場合は、ポータル管理者に問い合わせてください。ポータル管理者に対して、この章で必要なグループのインポートまたは新規作成を依頼します。詳細は、付録 A の [A.5 項「人事ポータルに対して 3 つのグループを作成」](#)を参照してください。

18. 「権限」リストから「管理」を選択します。

「管理」権限を HR_MANAGERS グループに付与すると、そのすべてのメンバーがこのページを変更または削除でき、このページの権限を他のグループに付与できるようになります。

参照情報：Oracle Portal オンライン・ヘルプを参照してください。「カテゴリ」リストから「Concepts」を選択し、「実行」をクリックします。右のペインで、「Who can access a page」をクリックします。

19. 「追加」をクリックします。

注意：特定のユーザー・グループにアクセス権限を付与した場合は、そのグループのメンバーのみがページを表示できます。

20. 「適用」をクリックします。
21. 「閉じる」をクリックします。
22. 3 番目のタブに HR Representatives という名前を付けます。
23. 「拡張オプション」タブをクリックします。
24. 「アクセス設定を指定」ラジオ・ボタンを選択します。
25. 「パブリック・ユーザーにタブを表示」チェック・ボックスのチェックが外れていることを確認します。
26. 「ユーザー / ロール」フィールドで、HR_REPRESENTATIVES を選択します。

27. 「権限」リストから「管理」を選択します。

28. 「追加」をクリックします。

29. 「適用」をクリックします。

30. 「閉じる」をクリックします。

31. 「閉じる」をクリックします。

第4章「イントラネット・ポータルの業務部門用ページの作成」で作成した「Inside Healthy Living」ポータルに、3つのタブが追加されました。「Human Resources」タブは、Oracle Portal にログインするすべてのユーザーに表示されます。「Managers」タブは、管理者（HR_MANAGERS）グループに追加したユーザーのみに表示されます。「HR Representatives」タブは、人事担当者（HR_REPRESENTATIVES）グループに追加したユーザーのみに表示されます。

注意：ポータル管理者は、各グループのユーザーを作成できます。各ユーザー・タイプのページが正しく表示されるかどうかをテストする場合は、ポータル管理者に問い合せてください。

ポータルの各タブは、次の図のように表示されます。



5.2 組織図にリンクする社員検索フォームの作成

この項では、階層の作成ウィザードを使用して会社の組織図を作成します。また、社員番号、社員名、役職または部門を基にして社内データベース内の特定の社員を検索するフォームを作成します。さらに、そのフォームからチームの組織図へのリンクを作成します。

5.2.1 チーム組織図の作成

この項では、Healthy Living Wholesalers 社の部門構造を表示するための階層を作成します。[5.2.2 項「チーム組織図にリンクする社員検索フォームの作成」](#)で作成するフォームは、この階層にリンクされます。つまり、ポータルの社員検索フォームにアクセスしたときに、そのリンクをクリックすると、この階層が表示されます。

参照情報：Oracle Portal オンライン・ヘルプを参照してください。「カテゴリ」リストから「Concepts」を選択し、「実行」をクリックします。右のペインで、「Component Types」の「What are hierarchies?」をクリックします。

1. ナビゲータで、「CASEBOOK30_APPLICATION」に移動します。

注意：このアプリケーションが存在しない場合は、ポータル管理者に問い合わせてください。ナビゲータの使用方法が不明な場合は、[第3章「イントラネット・ポータルの作成と簡単なポートレットの追加」](#)の手順を参照してください。

2. 「アプリケーション」タブで、「新規作成」の横にある「階層」をクリックします。
3. 階層に <YourName>_GROUPLIST という名前を付け、「アプリケーション」リストの「CASEBOOK30_APPLICATION」が選択されていることを確認します。
4. <DEMO_SCHEMA>.HLW_STAFF 表を基にして、階層を作成します。

注意：DEMO_SCHEMA は、デモ・スキーマ・オブジェクトのインストール先スキーマの名前です。

5. 「表またはビュー列」タブで、「主キー列」リストから「HLW_STAFF.EMPLOYEE_ID」を選択します。
6. 「親キー列」リストから、「HLW_STAFF.MANAGER_ID」を選択します。
7. 「開始列」リストから、「HLW_STAFF.MANAGER_ID」を選択します。
8. 「列の表示式」フィールドから、HLW_STAFF.NAME を選択します。
9. 「開始値」フィールドに、1140 と入力します。
10. 「ドリルアップ / ドリルダウン・オプション」で、「ドリルアップ」の横にある「タイプ」リストから「テキスト」を選択します。
11. 「値タイプ」リストから、「列」を選択します。
12. 「値」フィールドに、nvl(job, '(No Title)') と入力します。

注意：この値を入力すると、HLW_STAFF テーブルの役職名が社員名にリンクされます。その社員に役職名がない場合は、階層内の社員名の下に「肩書なし」と表示されます。

13. 「フル・ページ・オプション」の「フォント」を探します。
14. 「フォント・サイズ」の横にある「親」リストから、「10pt」を選択します。
15. 「子」リストから、「10pt」を選択します。
16. 「GrandChild」リストから、「8pt」を選択します。
17. 「階層とカスタマイズ・フォームのテキスト」タブで、「表示名」フィールドに、Team Structure と入力します。
18. 「ヘッダー・テキスト」フィールドに、次のように入力します。

```
<b><font face="Arial"><font color="#002299"><font size="+2"> The HLW Group  
</font></font></font></b>
```

19. 「フッター・テキスト」フィールドに、次のように入力します。

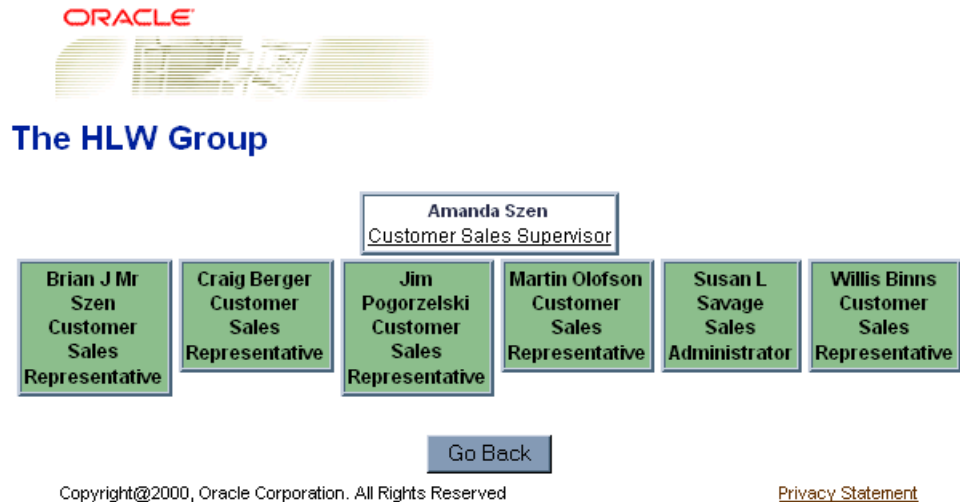
```
<div align=center>  
<form>  
<font size="+0">  
<input type=button value="Go Back" onClick="javascript:history.go(-1);">
```

注意：このフッター・テキストを入力すると、「戻る」ボタンが階層に追加されます。階層上でこのボタンをクリックすると、ポータルに戻ることができます。

20. この階層をポータルに公開します。

ヒント：コンポーネントをポータルに公開するには、「管理」をクリックし、「アクセス」タブをクリックします。「ポータルに公開」チェック・ボックスをチェックし、「適用」をクリックします。

この階層を起動すると、新しいブラウザに部門の組織が次のように表示されます。



5.2.1.1 会社全体の組織図の作成

会社全体の組織図を作成する場合は、次の手順で行います。「Inside Healthy Living」ポータルには、この階層を作成しません。

1. 「Casebook30_Application」に階層を作成します。
2. 階層に <YourName>_ALLGROUPLIST という名前を付け、「アプリケーション」リストの「CASEBOOK30_APPLICATION」が選択されていることを確認します。
3. 5.2.1 項「チーム組織図の作成」のステップ 4～8 を行います。
4. 「開始値」フィールドに、30 と入力します。
5. 5.2.1 項「チーム組織図の作成」のステップ 10～16 を行います。
6. 「表示名」フィールドに、Company Structure と入力します。
7. 5.2.1 項「チーム組織図の作成」のステップ 18～20 を行い、「完了」をクリックします。

会社の組織を表示する階層コンポーネントが作成されました。

5.2.2 チーム組織図にリンクする社員検索フォームの作成

この項では、Healthy Living Wholesalers 社内の特定の社員を検索するフォームを作成します。また、[5.2.1 項「チーム組織図の作成」](#)で作成した階層が表示するためのリンクを作成します。

5.2.2.1 動的値リスト JOB_LIST の作成

1. ナビゲータの「アプリケーション」タブをクリックします。
2. 「CASEBOOK30_APPLICATION」をクリックします。
3. 「新規作成」の横にある「値リスト」をクリックします。
4. 「動的値リスト」をクリックします。
5. 「所有者」ドロップダウン・リストで「CASEBOOK30_APPLICATION」が選択されていることを確認します。
6. 「名前」フィールドに、<YourName>_JOB_LIST を入力します。
7. 「デフォルト書式」リストで、「コンボ・ボックス」を選択します。
8. 「Null 値の表示」リストで、「はい」を選択します。
9. 「SQL 問合せ」フィールドに、次のように入力します。

```
select distinct job  
from <DEMO_SCHEMA>.hlw_staff  
order by job
```

注意：このテキストの SQL を直接コピーしてペーストすることはできません。スキーマ名には、デモ・スキーマ・オブジェクトのインストール先スキーマの名前を指定してください。

10. 「OK」をクリックします。

5.2.2.2 社員検索フォームの作成

1. 「CASEBOOK30_APPLICATION」で、表またはビューを基にしてフォームを作成します。

注意：このアプリケーションが存在しない場合は、ポータル管理者に問い合わせてください。このアプリケーションの入手方法については、[付録 A「Oracle Portal 管理者タスク」](#)の手順を参照してください。表またはビューを基にしてフォームを作成する方法については、[4.6.3 項「顧客入力フォームの作成」](#)を参照してください。

2. フォームに <YourName>_EMPSEARCH という名前を付け、「アプリケーション」リストの「CASEBOOK30_APPLICATION」が選択されていることを確認します。
3. <DEMO_SCHEMA>.HLW_STAFF 表を基にしてフォームを作成します。

注意: DEMO_SCHEMA は、デモ・スキーマ・オブジェクトのインストール先スキーマの名前です。

4. 「表」フォーム・レイアウトを選択します。
5. 「書式および妥当性チェック・オプション」タブの左のペインで、次のボタンを除くすべてのボタンを削除します。
 - 「QUERY_TOP」
 - 「RESET_TOP」
6. 左のペインの「TOP_SECTION」表で、次の列を除くすべての列を削除します。
 - 「EMPLOYEE_ID」
 - 「NAME」
 - 「JOB」
 - 「DEPARTMENT_NO」
7. 「フォーム・レベル・オプション」の設定を次のように変更します。
 - 「ボックスの背景色」= Wheat
 - 「ボックスの背景イメージ」= Dude
 - 「ボックスの境界線」= 太い罫線
 - 「順序基準」= NAME, 昇順
8. すべてのフィールドのフォント、フォント色およびフォント・サイズを次のように変更します。
 - 「フォント」= Arial
 - 「フォント色」= Black
 - 「フォント・サイズ」= 10pt
9. 「QUERY_TOP」のラベルを Search に変更します。
10. 「EMPLOYEE_ID」のラベルを Employee# に変更します。
11. 左側のペインの「JOB」をクリックします。
12. 「アイテム・タイプ」リストから、「コンボボックス」を選択します。
13. 「ラベル」フィールドに、Position と入力します。
14. 「値リスト」リストから、「<YourName>_JOB_LIST」を選択します。
15. 「デフォルト値」フィールドが空で、「デフォルト値タイプ」が「選択がありません」になっていることを確認します。
16. 左側のペインの「DEPARTMENT_NO」をクリックします。

17. 「アイテム・タイプ」リストから、「コンボボックス」を選択します。


18. 「ラベル」フィールドに、Department と入力します。

19. 「値リスト」で、「<YourName>_DEPARTMENT_LOV」を選択します。

注意：この値リストは、[4.5.3.1 項「静的値リスト DEPARTMENT_LOV の作成」](#)で作成した LOV です。この LOV を作成していない場合は、ここで作成するか、定義済みの「HLW_DEPT_LOV」を使用してください。HLW_DEPT_LOV が存在しない場合は、ポータル管理者に問い合わせてください。

20. 「デフォルト値」フィールドが空で、「デフォルト値タイプ」が「選択がありません」になっていることを確認します。

注意：社員検索フォームをチーム組織図にリンクしない場合は、ステップ 25 に進みます。

21. 「FORM」の横にある  をクリックします。

ダイアログが表示されます。

22. 「名前」フィールドに、Contact Employee と入力します。

23. 「OK」をクリックします。

24. 「Contact Employee」の「アイテム・レベル・オプション」の設定を次のように変更します。

- 「アイテム・タイプ」= ラベルのみ
- 「ラベル」= The HLW Group Organization
- 「リンク」= <DEMO_SCHEMA>.<YourName>_GROUPLIST.show.

注意：この URL は、[5.2.1 項「チーム組織図の作成」](#)で作成した階層の URL です。DEMO_SCHEMA は、デモ・スキーマ・オブジェクトのインストール先スキーマの名前です。詳細は、ポータル管理者に問い合わせてください。

- 「フォント」= Arial
- 「フォント色」= Red
- 「フォント・サイズ」= 12pt

25. フォームを終了し、フォームをポータルに公開します。

階層へのリンクから社員検索フォームを実行すると、次のように表示されます。

5.3 人材募集状況を表示するコンポーネントと人材を募集するためのコンポーネントの作成

この項では、1つのレポートと2つのフォームを作成します。一方のフォームでは、パブリック・ユーザーがデータベース内の特定の人材募集状況を検索し、欠員が満たされているかどうかを確認できるようにします。もう一方のフォームでは、人事担当者が人材を募集する、または募集を終了できるようにします。レポートには、現在のすべての人材募集状況を表示します。

5.3.1 特定の人材募集状況を検索するフォームの作成

この項では、人材募集状況レポートに接続するフォームを作成します。フォームの作成後、レポートを作成し、このフォームをそのレポートにリンクします。

1. 「CASEBOOK30_APPLICATION」で、表またはビューを基にしたフォームを作成します。

注意：表またはビューを基にしてフォームを作成する方法については、[5.2.2 項「チーム組織図にリンクする社員検索フォームの作成」](#)を参照してください。Casebook30_Application へのアクセス権限を持っていない場合は、ポータル管理者に問い合わせてください。

2. フォームに <YourName>_VACANCYLOOKUP という名前を付け、「アプリケーション」リストの「CASEBOOK30_APPLICATION」が選択されていることを確認します。
3. フォームを基にして <DEMO_SCHEMA>.HLW_VACANCIES を作成します。

注意：DEMO_SCHEMA は、デモ・スキーマ・オブジェクトのインストール先スキーマの名前です。

4. 「書式および妥当性チェック・オプション」タブで、フォームから次の列を削除します。
 - 「DEPARTMENT_NO」
 - 「REGION_ID」
 - 「HIRING_MANAGER」
 - 「HR_CONTACT」
 - 「VACANCY_STATUS」
5. 「NEXT」と「PREVIOUS」のボタンを除くすべてのボタンを削除します。
6. 「フォーム・レベル・オプション」の設定を次のように変更します。
 - 「ボックスの背景色」= Wheat
 - 「ボックスの背景イメージ」= Dude
 - 「ボックスの境界線」= 太い罫線
 - 「順序基準」= VACANCY_ID および VACANCY_TITLE
7. 左のペインで「VACANCY_ID」を選択し、その「ラベル」を Vacancy# に変更します。
8. 左のペインで「VACANCY_TITLE」を選択し、その「ラベル」を Position に変更します。
9. 次の各フィールドのフォントを「Arial」に、フォント色を「Black」に変更します。
 - 「VACANCY_ID」
 - 「VACANCY_TITLE」
 - 「RESPONSIBILITIES」
 - 「QUALIFICATIONS」
10. 「フォーム・テキスト」タブで、「ヘッダー・テキスト」フィールドに、次のように入力します。

```
<b><font face="Arial"><font color="#002299"><font size=+0> Look Up a Vacancy
</font></font></font></b>
```
11. 「フッター・テキスト」フィールドに、次のように入力します。

```
<div align=center><form><font size=+0><input type=button value="Go Back" onClick
= "javascript:history.go(-1);">
```

注意: このフッター・テキストは、フォームに「戻る」ボタンを追加します。フォームに情報を入力した後、ポータルに戻ることができます。
12. フォームを終了し、フォームをポータルに公開します。

人材募集状況の検索フォームを実行すると、次のように表示されます。

Look up a vacancy

Position Details

Vacancy# 1900

Position

Responsibilities

Qualifications

Go Back

5.3.2 人材の募集または募集を終了するためのフォームの作成

この項では、人事担当者が人材を募集する、または募集を終了するための LOV およびフォームを作成します。

5.3.2.1 フォームのデータベース順序の作成

この項では、データベースにレコードを登録するときに人材募集フォームで使用される、データベース順序を作成します。このデータベース順序に基づいて、各レコードに ID 番号が付けられます。

1. デモ・スキーマに、このフォーム用のデータベース順序を作成します。

注意：データベース順序の作成については、[3.4.4 項「フォームのデータベース順序の作成」](#)を参照してください。

2. データベース順序に <YourName>_Vacancy_Seq という名前を付け、デモ・スキーマがそのデータベース順序を所有していることを確認します。
3. 「開始値と増分値」タブで、「増分」フィールドに、1 と入力します。
4. 「開始」フィールドに、10 と入力します。

5. ウィザードを終了し、そのデータベース順序に対してパブリックな「変更」アクセス権限を付与します。

ヒント: ウィザードを完了すると、作成したデータベース順序がナビゲータに表示されます。データベース順序名の横にある「アクセス権限の付与」をクリックします。「ALTER」アクセス権限を持つユーザーとしてパブリックを追加します。

5.3.2.2 3つのLOVの作成

5.3.2.2.1 管理者の動的値リストの作成

この値リストには、Healthy Living Wholesalers 社で "Manager" または "Administrator" の役職名を持つすべての社員が表示されるようにします。

1. 「CASEBOOK30_APPLICATION」で、動的値リストを作成します。

注意: 詳細については、[5.2.2.1 項「動的値リスト JOB_LIST の作成」](#)のステップに従ってください。

2. 値リストに <YourName>_MGRLOV という名前を付けます。
3. 「デフォルト書式」リストで、「コンボ・ボックス」を選択します。
4. 「Null 値の表示」リストで、「はい」を選択します。
5. 「SQL 問合せ」フィールドに、次のように入力します。

```
select NAME, employee_id
from   <DEMO_SCHEMA>.hlw_staff
where  job like '%Manager%'
or     job like '%Administrator%'
and    department_no = :depno
```

注意: DEMO_SCHEMA は、デモ・スキーマ・オブジェクトのインストール先スキーマの名前です。

6. 「OK」をクリックします。

5.3.2.2.2 HR_CONTACTLOV の動的値リストの作成

この値リストには、Healthy Living Wholesalers 社の人事部に所属するすべての社員が表示されるようにします。表示される社員は、すべて人事担当者です。

1. 「CASEBOOK30_APPLICATION」で、「<YourName>_HRCONTACTLOV」という動的値リストを作成します。
2. 「デフォルト書式」リストで、「コンボ・ボックス」を選択します。
3. 「Null 値の表示」リストで、「はい」を選択します。
4. 「SQL 問合せ」フィールドに、次のように入力します。

```
select name, employee_id from <DEMO_SCHEMA>.hlw_staff where department_no = 70
```

注意: DEMO_SCHEMA は、デモ・スキーマ・オブジェクトのインストール先スキーマの名前です。

5. 「OK」をクリックします。

5.3.2.2.3 Vacancy_Status の静的値リストの作成

この静的リストには、人材募集が募集中か終了しているかをユーザーが選択できるようにします。

1. 「CASEBOOK30_APPLICATION」で、「<YourName>_VACANCYSTATUS」という静的値リストを作成します。
2. 「デフォルト書式」リストで、「コンボ・ボックス」を選択します。
3. 「Null 値の表示」リストから、「いいえ」を選択します。
4. 最初の行に、「表示値」に Open と入力します。
5. 「戻り値」に o と入力します。
6. 「表示順序」に 1 と入力します。
7. 2 行目に、「表示値」に Closed と入力します。
8. 「戻り値」に c と入力します。
9. 「表示順序」に 2 と入力します。
10. 「OK」をクリックします。

5.3.2.3 人材の募集または募集を終了するためのフォームの作成

この項では、新しい人材を募集したり、既存の人材募集を更新または終了するためのフォームを作成します。さらに、作成したフォームに対して、人事担当者のみが使用できるようにセキュリティを適用します。

1. 「CASEBOOK30_APPLICATION」で、表またはビューをベースとするフォームを作成します。

注意: 表またはビューをベースとするフォームの作成については、[5.3.1 項「特定の人材募集状況を検索するフォームの作成」](#)を参照してください。Casebook30_Application へのアクセス権限を持っていない場合は、ポータル管理者に問い合わせてください。

2. フォームに <YourName>_VACANCYFORM という名前を付け、「アプリケーション」リストの「CASEBOOK30_APPLICATION」が選択されていることを確認します。
3. フォームを基にして <DEMO_SCHEMA>.HLW_VACANCIES 表を作成します。

注意: DEMO_SCHEMA は、デモ・スキーマ・オブジェクトのインストール先スキーマの名前です。

4. 「書式および妥当性チェック・オプション」タブで、「REGION_ID」フィールドを削除します
5. 「フォーム・レベル・オプション」の設定を次のように変更します。
 - 「ボックスの背景色」= 小麦色
 - 「ボックスの背景イメージ」= Dude
 - 「ボックスの境界線」= 太い罫線
6. 左のペインで「VACANCY_ID」をクリックし、ラベルを Vacancy# に変更します。
7. 「デフォルト値」フィールドに、#<DEMO_SCHEMA>.<YourName>_vacancy_seq.nextval と入力します。

注意：DEMO_SCHEMA は、[5.3.2.1 項「フォームのデータベース順序の作成」](#)で作成したデータベース順序を所有するスキーマの名前です。
8. 「フォーム・レベルの妥当性チェック」リストから、「isNumber」を選択します。
9. 「VACANCY_TITLE」のラベルを Position に変更します。
10. 左側のペインの「DEPARTMENT_NO」をクリックします。
11. 「アイテム・タイプ」リストから、「コンボボックス」を選択します。
12. 「ラベル」フィールドに、Department と入力します。
13. 「値リスト」で、「<YourName>_DEPARTMENT_LOV」を選択します。

注意：この値リストは、[4.5.3.1 項「静的値リスト DEPARTMENT_LOV の作成」](#)で作成した LOV です。この LOV を作成していない場合は、ここで作成するか、定義済みの「HLW_DEPT_LOV」を使用してください。HLW_DEPT_LOV が存在しない場合は、ポータル管理者に問い合わせてください。
14. 「デフォルト値」フィールドが空で、「デフォルト値タイプ」が「選択がありません」になっていることを確認します。
15. 左のペインで、「HIRING_MANAGER」をクリックします。
16. 「アイテム・タイプ」リストから、「コンボボックス」を選択します。
17. 「ラベル」フィールドに、Hiring Manager と入力します。
18. 「値リスト」リストから、「<YourName>_MGRLOV」を選択します。

注意：この値リストは、[5.3.2.1 項「管理者の動的値リストの作成」](#)で作成した LOV です。
19. 「LOV に定義されたバインド変数のバインディングを設定してください。」リストから、「DEPARTMENT_NO」を選択します。

注意：バインド変数 LOV の使用方法については、[4.5.3 項「手数料検索フォームに 2 つの LOV を作成」](#)を参照してください。

20. 「デフォルト値」フィールドが空で、「デフォルト値タイプ」が「選択がありません」になっていることを確認します。
21. 左のペインで、「HR_CONTACT」をクリックします。
22. 「アイテム・タイプ」リストから、「コンボボックス」を選択します。
23. 「ラベル」フィールドに、HR Contact と入力します。
24. 「値リスト」リストから、「<YourName>_HRCONTACTLOV」を選択します。
注意：この値リストは、[5.3.2.2.2 項「HR_CONTACTLOV の動的値リストの作成」](#)で作成した LOV です。
25. 「デフォルト値」フィールドが空で、「デフォルト値タイプ」が「選択がありません」になっていることを確認します。
26. 左のペインで、「VACANCY_STATUS」をクリックします。
27. 「アイテム・タイプ」リストから、「コンボボックス」を選択します。
28. 「ラベル」フィールドに、Status と入力します。
29. 「値リスト」リストから、「<YourName>_VACANCYSTATUS」を選択します。
注意：この値リストは、[5.3.2.2.3 項「Vacancy_Status の静的値リストの作成」](#)で作成した LOV です。
30. 「デフォルト値」フィールドが空で、「デフォルト値タイプ」が「選択がありません」になっていることを確認します。
31. 左のペインで、次のボタンを除くすべてのボタンを削除します。
 - 「CREATE_TOP」
 - 「QUERY_TOP」
 - 「RESET_TOP」
 - 「NEXT」
 - 「PREVIOUS」
32. すべてのフィールドのフォント、フォント色およびフォント・サイズを次のように変更します。
 - 「フォント」= Arial
 - 「フォント色」= Black
 - 「フォント・サイズ」= 10pt
33. 「フォーム・テキスト」タブで、「表示名」フィールドに、Advertise or Close a Vacancy と入力します。
34. 「ヘッダー・テキスト」フィールドに、次のように入力します。

```
<b><font face="Arial"><font color="#002299"><font size=+0> Advertise a Vacancy
</font></font></font></b>
```

35. 「フッター・テキスト」フィールドに、次のように入力します。

```
<div align=center>
<form>
<font size=+0>
<input type=button value="Go Back" onClick="javascript:history.go(-1);">
```

注意：このフッター・テキストを入力すると、「戻る」ボタンがフォームに追加されます。フォームに情報を入力した後でこのボタンをクリックすると、ポータルに戻ることができます。

36. フォームを終了し、フォームをポータルに公開します。

人材を募集または募集を終了するフォームを実行すると、次のように表示されます。

Advertise a Vacancy

Position Details

CreateQueryReset

Vacancy#1901

Position

Department

Hiring Manager

HR Contact

Responsibilities

Qualifications

StatusOpen

Go Back

5.3.3 人材募集状況レポートを検索フォームと接続するリンクの作成

1. 「CASEBOOK30_APPLICATION」で、リンクを作成します。

注意: リンクの作成については、3.4.5 項「フォームとカレンダー間のリンクの作成」を参照してください。

2. リンクに <YourName>_VacancyLink という名前を付け、「アプリケーション」リストの「CASEBOOK30_APPLICATION」が選択されていることを確認します。
3. 「リンク・ターゲット・タイプおよび名前」タブで、「Oracle Portal コンポーネント」ラジオ・ボタンを選択します。
4. 「ターゲット・コンポーネントまたは URL」フィールドに、Casebook30_Application.<YourName>_VACANCYLOOKUP と入力します。

ヒント: 5.3.1 項「特定の人材募集状況を検索するフォームの作成」で作成したフォームの名前を入力します。

5. 「完了」をクリックします。

5.3.4 現在のすべての人材募集状況を表示するレポートの作成

1. 「CASEBOOK30_APPLICATION」で、SQL 問合せからのレポートを作成します。

注意: SQL 問合せからのレポートの作成については、オンライン・ヘルプを参照してください。

2. レポートに <YourName>_VACANCIESREPORT という名前を付け、「アプリケーション」リストの「CASEBOOK30_APPLICATION」が選択されていることを確認します。
3. 「SQL 問合せ」タブの「SQL 問合せ」ボックスに、次のように入力します。

```
select vacancy_id VacID,
       vacancy_title Position,
       decode (vacancy_status, 'O', 'Open', 'C', 'Closed') status
from   <demo_schema>.hlw_vacancies
where  vacancy_status = 'O'
```

注意: DEMO_SCHEMA は、デモ・スキーマ・オブジェクトのインストール先スキーマの名前です。

4. 「レポートのレイアウト」タブで、「表」レイアウトを選択します。
5. 「列の表示書式」タブで、「VACID」の横の「列ヘッダー・テキスト」に Vacancy# と入力します。
6. 「文字位置」リストから、「右揃え」を選択します。
7. 「リンク」リストから、「<YourName>_VacancyLink」を選択します。

注意: 5.3.3 項「人材募集状況レポートを検索フォームと接続するリンクの作成」で作成したリンクを選択します。

8. リンクを編集します。
9. 「リンク・パラメータの設定」ダイアログで、「VACANCY_ID」に対して、「条件」リストから「=」を選択し、「列名」リストから「VACID」を選択します。
10. 「適用」をクリックします。
11. 「閉じる」をクリックします。
12. 「Position」の横にある「列ヘッダー・テキスト」が Position であることを確認します。
13. 「Status」の横にある「列ヘッダー・テキスト」が Status であることを確認し、「次へ」をクリックします。
14. 「表示オプション」タブの「フル・ページ・オプション」で、「Row Text」のオプションを次のように変更します。
 - 「フォント」= Tahoma
 - 「フォント・サイズ」= 10pt
 - 「境界線」= 細い罫線
 - 「フォント色」= 黒 (Black)
 - 「ヘッダーの背景色」= Green, Pale
 - 「表の行の色」= 白 (White)
15. 「ポートレット・オプション」で、「Row Text」のオプションを次のように変更します。
 - 「境界線」= 細い罫線
 - 「ヘッダーの背景色」= Green, Pale
 - 「表の行の色」= White
16. 「行順序オプション」で、「ソート基準 1。」の横にあるリストから「VACID」を選択します。
17. 「レポートとカスタマイズ・フォームのテキスト」タブで、「フッター・テキスト」フィールドに、次のように入力します。

```
<b><font face="Arial"><font color="#002299"><font size=-1> Click on a link for position details.</font></font></font></b>
```
18. レポートを終了し、レポートをポータルに公開します。

人材募集状況レポートを実行すると、次のように表示されます。

Current Open Positions		
Vacancy#	Position	Status
1	Analyst Programmer	Open
1000	Product Manager	Open
1024	Principal Analyst	Open
1100	Analyst	Open
1106	Analyst	Open
1110	Analyst	Open
1142	Chief Database Administrator	Open
1144	Course Developer	Open
1463	Lead Desktop Administrator	Open

[Click on a link for position details.](#)

5.4 休暇届および休暇承認システムの作成

この項では、社員（パブリック・ユーザー）が休暇を届け出るためのフォーム、社員の休暇残余日数を表示するレポート（管理者および人事担当者用）、および全社員の休暇を表示するカレンダーを作成します。また、カレンダーには、管理者が休暇届を承認するためのフォームへのリンクを作成します。

5.4.1 休暇届フォームの作成

この項では、社員が休暇を届け出るためのフォームを作成します。届け出た休暇期間は、休暇カレンダーに表示されます。

5.4.1.1 フォームのデータベース順序の作成

この項では、データベースにレコードを登録するときに人材募集フォームで使用する、データベース順序を作成します。このデータベース順序に基づいて、各レコードに ID 番号が付けられます。

1. デモ・スキーマに、このフォーム用のデータベース順序を作成します。

注意：データベース順序の作成については、[3.4.4 項「フォームのデータベース順序の作成」](#)を参照してください。

2. データベース順序に <YourName>_Vacation_Seq という名前を付け、デモ・スキーマがそのデータベース順序を所有していることを確認します。
3. 「開始値と増分値」タブで、「増分」フィールドに、1 と入力します。
4. 「開始」フィールドに、10 と入力します。
5. ウィザードを終了し、そのデータベース順序に対してパブリックな「変更」アクセス権限を付与します。

ヒント: ウィザードを完了すると、作成したデータベース順序がナビゲータに表示されます。データベース順序名の横にある「アクセス権限の付与」をクリックします。「ALTER」アクセス権限を持つユーザーとしてパブリックを追加します。

5.4.1.2 EMP_LIST の値リストの作成

この項では、次の項で作成する休暇届フォームでポップアップ・リストとして表示される LOV を作成します。

1. 「CASEBOOK30_APPLICATION」で、<YourName>_EMP_LIST という名前の動的値リストを作成します。
2. 「デフォルト書式」リストから、「ポップアップ」を選択します。
3. 「Null 値の表示」リストから、「%」を選択します。
4. 「SQL 問合せ」フィールドに、次のように入力します。

```
select NAME ,  
       employee_id  
from   <DEMO_SCHEMA>.hlw_staff  
order  by name
```

注意: DEMO_SCHEMA は、デモ・スキーマ・オブジェクトのインストール先スキーマの名前です。

5. 「OK」をクリックします。

5.4.1.3 休暇届フォームの作成

この項では、社員が休暇を届け出るためのフォームを作成します。

[5.4.1.1 項「フォームのデータベース順序の作成」](#)で使用したデータベース順序も使用します。

1. 「CASEBOOK30_APPLICATION」で、表またはビューをベースとするフォームを作成します。
2. フォームに <YourName>_VACATION_REQUEST という名前を付け、「アプリケーション」リストの「CASEBOOK30_APPLICATION」が選択されていることを確認します。

3. <DEMO_SCHEMA>.HLW_VACATIONS 表をベースとするフォームを作成し、「表」レイアウトを選択します。
4. 「書式および妥当性チェック・オプション」タブで、「フォーム・レベル・オプション」の設定を次のように変更します。
 - 「ボックスの背景色」= Wheat
 - 「ボックスの背景イメージ」= Dude
 - 「ボックスの境界線」= 太い罫線
 - 「順序基準」= VACA_START_DATE
5. 左のペインで、「VACA_ID」をクリックし、そのラベルを Vacation ID に変更します。
6. 「デフォルト値」フィールドに、#<DEMO_SCHEMA>.<YourName>_Vacation_Seq.nextval と入力します。
注意: DEMO_SCHEMA は、デモ・スキーマ・オブジェクトのインストール先スキーマの名前です。<YourName>_Vacation_Seq は、[5.4.1.1 項「フォームのデータベース順序の作成」](#)で作成したデータベース順序の名前です。
7. 左側のペインの「EMPLOYEE_ID」をクリックします。
8. 「アイテム・タイプ」リストから、「ポップアップ」を選択します。
9. 「ラベル」フィールドに、Employee と入力します。
10. 「値リスト」リストから、「<YourName>_EMP_LIST」を選択します。
注意: この値リストは、[5.4.1.2 項「EMP_LIST の値リストの作成」](#)で作成した LOV です。
11. 次のアイテムのラベルを変更します。
 - VACA_START_DATE = Start Date
 - VACA_END_DATE = End Date.
 - 「VACA_LENGTH」= Duration
12. すべてのフィールドのフォント、フォント色およびフォント・サイズを次のように変更します。
 - 「フォント」= Arial
 - 「フォント色」= Black
 - 「フォント・サイズ」= 10pt
13. 「BOTTOM_SECTION」で、次のボタンを除くすべてのボタンを削除します。
 - 「PREVIOUS」

■ 「NEXT」

14. 「フォーム・テキスト」タブで、「表示名」フィールドに、Vacation Request と入力します。

15. 「ヘッダー・テキスト」フィールドに、次のように入力します。

```
<b><font face="Arial"><font color="#002299"><font size=+0> Apply for a  
Vacation</font></font></font></b>
```

16. 「フッター・テキスト」フィールドに、次のように入力します。

```
<div align=center>  
<form>  
<font size=+0>  
<input type=button value="Go Back" onClick="javascript:history.go(-1);">
```

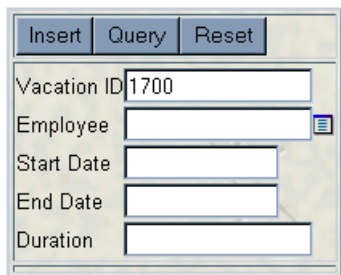
注意: このフッター・テキストは、フォームに「戻る」ボタンを追加します。フォームに情報を入力した後、ポータルに戻ることができます。

17. フォームを終了し、フォームをポータルに公開します。

休暇届フォームを実行すると、次のように表示されます。

Vacation Request

Apply for a Vacation



Go Back

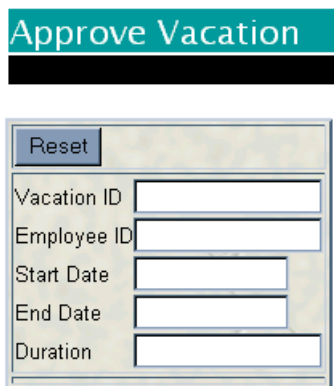
5.4.2 休暇承認フォームの作成

この項では、管理者が社員の休暇届を承認するためのフォームを作成します。

1. 「CASEBOOK30_APPLICATION」で、表またはビューをベースとするフォームを作成します。
2. フォームに <YourName>_APPROVE_VACATION という名前を付け、「アプリケーション」リストの「CASEBOOK30_APPLICATION」が選択されていることを確認します。
3. <DEMO_SCHEMA>.HLW_VACATIONS 表をベースとするフォームを作成します。
注意: DEMO_SCHEMA は、デモ・スキーマ・オブジェクトのインストール先スキーマの名前です。
4. 「書式および妥当性チェック・オプション」タブで、「フォーム・レベル・オプション」の設定を次のように変更します。
 - 「ボックスの背景色」= Wheat
 - 「ボックスの背景イメージ」= Dude
 - 「ボックスの境界線」= 太い罫線
 - 「順序基準」= VACA_START_DATE
5. 左のペインで、次のボタンを除くすべてのボタンを削除します。
 - DELETE_TOP
 - 「RESET_TOP」
 - 「PREVIOUS」
 - 「NEXT」
6. 次のアイテムのラベルを変更します。
 - 「DELETE_TOP」= Reject Request
 - 「VACA_ID」= Vacation ID
 - 「EMPLOYEE_ID」= Employee ID
 - 「VACA_START_DATE」= Start Date.
 - 「VACA_END_DATE」= End Date.
 - 「VACA_LENGTH」= Duration

7. すべてのフィールドのフォント、フォント色およびフォント・サイズを次のように変更します。
 - 「フォント」= Arial
 - 「フォント色」= Black
 - 「フォント・サイズ」= 10pt
8. 「フォーム・テキスト」タブで、「表示名」フィールドに、Approve Vacation と入力します。
9. フォームを終了し、フォームをポータルに公開します。

休暇承認フォームを実行すると、次のように表示されます。



The screenshot shows a web form titled "Approve Vacation". At the top left is a "Reset" button. Below it are five input fields, each with a label to its left: "Vacation ID", "Employee ID", "Start Date", "End Date", and "Duration". The form has a simple, functional design with a light background and a thin border.

5.4.3 届出休暇日を表示するカレンダーの作成

この項では、社員が届け出た休暇期間を表示するためのカレンダーを作成します。埋込みリンクを使用して、管理者がカレンダーのリンクをクリックすると、[5.4.2 項「休暇承認フォームの作成」](#)で作成した承認フォームが表示されるようにします。

注意：次のステップを実行する前に、[5.4.1 項「休暇届フォームの作成」](#)で作成した休暇届フォームのモジュール ID をメモしておいてください。このフォームの「コンポーネントの管理」ダイアログを表示すると、この値を確認できます。詳細は、ポータル管理者に問い合わせてください。

1. 「CASEBOOK30_APPLICATION」で、カレンダーを作成します。

注意：カレンダーの作成については、[3.4 項「イベント・カレンダーを作成し、ポートレットとして追加」](#)を参照してください。

2. カレンダーに <YourName>_VacationCalendar という名前を付け、「アプリケーション」リストの「CASEBOOK30_APPLICATION」が選択されていることを確認します。

3. 「SQL 問合せ」タブの「SQL 問合せ」フィールドに、次のように入力します。

```
select
    v.vaca_start_date the_date,
    E.name          the_name,
    null            the_date_link,
    '<PORTAL_SCHEMA>.wwa_app_module.link?p_arg_names=_moduleid&p_arg_
values=<REQUEST_FORM_MODULE_ID>&p_arg_names=_sessionid&p_arg_values=&p_arg_
names=_employee_id_cond&p_arg_values=%3D&p_arg_names=_show_header&p_arg_
values=YES'||v.employee_ID||' '          the_name_link,
    null            the_target
from <DEMO_SCHEMA>.hlw_vacations v
    ,<DEMO_SCHEMA>.hlw_staff e
where e.employee_id = v.employee_id
order by 1
```

注意：このテキストのコードを直接コピーしてペーストすることはできません。このテキストの PORTAL_SCHEMA を Oracle Portal のインストール先スキーマの名前に変更し、DEMO_SCHEMA をデモ・オブジェクトのインストール先スキーマの名前に変更する必要があります。さらに、REQUEST_FORM_MODULE_ID を、さきほどメモしておいた休暇届フォームのモジュール ID に置き換えてください。

4. 「表示オプション」タブで、「リンク・アイコン」フィールドに、wgen.gif と入力します。（<ORACLE_HOME>%portal30%image にあります。）
5. 「カレンダーとカスタマイズ・フォームのテキスト」タブで、「フッター・テキスト」フィールドに、次のように入力します。

```
<b><font face="Arial"><font color="#002299"><font size=-1> My Team's Calendar
</font></font></font></b>
```

6. カレンダーを終了し、カレンダーをポータルに公開します。

届出休暇期間を表示するカレンダーを実行すると、次のように表示されます。

HLW Vacation Calendar

January 2000

Sunday	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday	Saturday
						<u>01</u>  Jenny Wong
02	03	04	05	06	07	08
09	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

注意：データベースにデータを送信してカレンダーを表示する場合は、[5.4.1 項「休暇届フォームの作成」](#)で作成した休暇届フォームを使用する必要があります。

5.4.4 休暇残余日数レポートの作成

この項では、全社員の休暇残余日数を表示するための簡単なレポートを作成します。このレポートのデータは、管理者が承認した休暇期間によって変更されます。

1. 「CASEBOOK30_APPLICATION」で、SQL 問合せからのレポートを作成します。

注意：SQL 問合せからのレポートの作成については、[5.3.4 項「現在のすべての人材募集状況を表示するレポートの作成」](#)を参照してください。

2. レポートに <YourName>_VACATION_BALANCE という名前を付け、「アプリケーション」リストの「CASEBOOK30_APPLICATION」が選択されていることを確認します。
3. 「SQL 問合せ」タブの「SQL 問合せ」フィールドに、次のように入力します。

```
select e.name      name
      ,e.employee_id empno
      ,e.vacation_days vacdays
      ,v.vaca_length vaclen
from   hlw_staff e
      ,hlw_vacations v
where  e.employee_id = v.employee_id
```

4. 「レポートのレイアウト」タブで、「表」を選択します。
5. 「列の表示書式」タブで、次の列の「列ヘッダー・テキスト」フィールドを変更します。
 - 「NAME」= Name
 - 「EMPNO」= Employee ID
 - 「VACDAYS」= Accumulated
 - 「VACLEN」= Taken
6. 「表示オプション」タブで、「フル・ページ・オプション」および「ポートレット・オプション」の設定を次のように変更します。
 - 「フォント」= Tahoma
 - 「フォント・サイズ」= 10pt
 - 「境界線」= 細い罫線
 - 「フォント色」= 黒 (Black)
 - 「ヘッダーの背景色」= Green, Pale
 - 「表の行の色」= White
7. 「行順序オプション」の設定を次のように変更します。
 - 「順序基準」= NAME

- 8. 「レポートとカスタマイズ・フォームのテキスト」タブで、「表示名」フィールドに、
Staff Vacation Time と入力します。
- 9. 「フッター・テキスト」フィールドに、次のように入力します。

```
<b><font face="Arial"><font color="#002299"><font size=-1> Current Vacation  
Balances  
</font></font></font></b>
```

- 10. レポートを終了し、レポートをポータルに公開します。
社員の休暇残余日数を表示するレポートを実行すると、次のように表示されます。

Staff Vacation Time			
Name	Employee ID	Accumulated	Taken
Amanda Szen	1140	20	1
Douglas McCormick	1000	8	No time taken
Gregg W Choplin	480	5	1
Jenny Wong	510	21	1
John S Maulik	440	10	2
Leslie Cleveland	620	22	1

Current Vacation Balances

5.5 コンポーネントの表示を制御するセキュリティの適用

この項では、コンポーネントのセキュリティを管理し、パブリック・ユーザーのアクセスを制限する手順について説明します。セキュリティの適用は、特定のユーザー・グループが使用するオブジェクトにのみ行います。ここでは、既存の2グループ（人事管理者と人事担当者）に基づいて適用します。

参照情報：Oracle Portal オンライン・ヘルプを参照してください。「カテゴリ」リストで「アプリケーションの作業」を選択し、「実行」をクリックします。右のペインで、「コンポーネントの作成」の「コンポーネントへのアクセス権限の付与」をクリックします。

この項では、人事管理者に対して、すべてのパブリック・コンポーネントと次に示すコンポーネントを表示できる権限を付与します。

表 5-1 人事管理者用コンポーネント

コンポーネント	このコンポーネントの作成方法
休暇カレンダー	5.4.3 項「届出休暇日を表示するカレンダーの作成」 を参照
休暇承認フォーム	5.4.2 項「休暇承認フォームの作成」 を参照
休暇残余日数レポート	5.4.4 項「休暇残余日数レポートの作成」 を参照

パブリック・コンポーネント以外に、人事担当者に対して次のコンポーネントを表示できる権限を付与します。

表 5-2 人事管理者用コンポーネント

コンポーネント	このコンポーネントの作成方法
人材募集フォーム	5.3.2 項「人材の募集または募集を終了するためのフォームの作成」 を参照
休暇残余日数レポート	5.4.4 項「休暇残余日数レポートの作成」 を参照

人事担当者グループおよび人事管理者グループの詳細は、ポータル管理者に問い合せてください。

5.5.0.1 休暇カレンダーへのセキュリティの適用

1. ナビゲータで、「CASEBOOK30_APPLICATION」を開きます。
2. 「<YourName>_Vacation_Calendar」の横にある「アクセス権限の付与」をクリックします。
3. 「アプリケーションから権限を継承」チェック・ボックスのチェックを外します。
4. 「適用」をクリックします。
5. 「アクセス権限の付与」の「ユーザー / ロール」フィールドで、HR_MANAGERS を選択します。
6. 「権限」リストから「カスタマイズ」を選択します。

注意：HR_MANAGERS グループに「カスタマイズ」を選択すると、そのメンバーはポートレットに表示される「カスタマイズ」リンクを使用できるようになります。ポートレットの「カスタマイズ」リンクをクリックすると、関連するカスタマイズ・フォームが実行され、そのフォーム上でコンポーネントのパラメータを変更できます。

7. 「追加」をクリックします。
そのグループが「アクセス権限の変更」に表示されます。
8. 「適用」をクリックします。
9. 「閉じる」をクリックします。

これで、休暇カレンダーを「Inside Healthy Living」ポータルの「Manager」タブに追加できます。詳細は、[5.6 項「人事ポータルのタブの設計」](#)を参照してください。

5.5.0.2 休暇承認フォームへのセキュリティの適用

1. ナビゲータで、「CASEBOOK30_APPLICATION」を開きます。
2. 「<YourName>_Approve_Vacation」の横にある「アクセス権限の付与」をクリックします。
3. [5.5.0.1 項「休暇カレンダーへのセキュリティの適用」](#)のステップ3～9を行います。

これで、休暇承認フォームを「Inside Healthy Living」ポータルの「Manager」タブに追加できます。詳細は、[5.6 項「人事ポータルのタブの設計」](#)を参照してください。

5.5.0.3 休暇残余日数レポートへのセキュリティの適用

1. ナビゲータで、「CASEBOOK30_APPLICATION」を開きます。
2. 「<YourName>_Vacation_Balance」の横にある「アクセス権限の付与」をクリックします。
3. 「アプリケーションから権限を継承」チェック・ボックスのチェックを外します。
4. 「適用」をクリックします。

5. 「アクセス権限の付与」の「ユーザー / ロール」フィールドで、HR_MANAGERS を選択します。
6. 「権限」リストから「カスタマイズ」を選択します。
7. 「追加」をクリックします。
そのグループが「アクセス権限の変更」に表示されます。
8. 「アクセス権限の付与」の「ユーザー / ロール」フィールドで、HR_REPRESENTATIVES を選択します。
9. 「権限」リストから「カスタマイズ」を選択します。
10. 「追加」をクリックします。
11. 「適用」をクリックします。
12. 「閉じる」をクリックします。

これで、休暇残余日数レポートを「Inside Healthy Living」ポータルの「Manager」タブに追加できます。詳細は、[5.6 項「人事ポータルのタブの設計」](#)を参照してください。

5.5.0.4 人材募集フォームへのセキュリティの適用

1. ナビゲータで、「CASEBOOK30_APPLICATION」を開きます。
2. 「<YourName>_VacancyForm」の横にある「アクセス権限の付与」をクリックします。
3. 「アプリケーションから権限を継承」チェック・ボックスのチェックを外します。
4. 「適用」をクリックします。
5. 「アクセス権限の付与」の「ユーザー / ロール」フィールドで、HR_REPRESENTATIVES を選択します。
6. 「権限」リストから「カスタマイズ」を選択します。
7. 「追加」をクリックします。
そのグループが「アクセス権限の変更」に表示されます。
8. 「適用」をクリックします。
9. 「閉じる」をクリックします。

これで、人材募集フォームを「Inside Healthy Living」ポータルの「HR Representatives」タブに追加できます。詳細は、[5.6 項「人事ポータルのタブの設計」](#)を参照してください。

5.6 人事ポータルタブの設計

この項では、コンポーネントが適切なページに表示されるように、ページ上のポートレットを編成します。たとえば、休暇の承認は管理者のみが行うので、休暇カレンダーおよび休暇承認フォームは「Managers」タブのみに表示します。

既存の「Inside Healthy Living Repository」コンテンツ領域のフォルダを活用することもできます。このコンテンツ領域の作成については、[第6章「情報リポジトリの作成」](#)を参照してください。

5.6.1 「Human Resources」タブへのポートレットの追加

この項では、全社員が表示できる「Human Resources」のメインページを作成します。

1. ナビゲータで、「Inside Healthy Living」ページの横にある「編集」をクリックします。
2. 「Human Resources」タブをクリックします。
3. 列を追加し、左の領域と右の領域にそれぞれ1行ずつ追加します。

注意：列、行または領域をタブに追加する方法が不明な場合は、[第3章「イントラネット・ポータル作成と簡単なポートレットの追加」](#)を参照してください。

4. 左上の領域で、ポートレットを追加します。
5. 「ポートレットの追加」ダイアログで、「Healthy Living Repository」を探します。
6. 「Human Resources」フォルダを追加します。
7. 「OK」をクリックします。
8. 左下の領域で、「<YourName>_Vacation_Request」を追加します。
注意：このフォームは、[5.4.1 項「休暇届フォームの作成」](#)で作成したフォームです。
9. 右上の領域で、<YourName>_VACANCIESREPORT をポートレットとして追加します。
注意：このレポートは、[5.3.4 項「現在のすべての人材募集状況を表示するレポートの作成」](#)で作成したレポートです。
10. 右下の領域で、<YourName>_Employee_Search をポートレットとして追加します。
注意：このレポートは、[5.2.2 項「チーム組織図にリンクする社員検索フォームの作成」](#)で作成したレポートです。
11. 「閉じる」をクリックします。

12. ナビゲータの「ページ」タブで、「<YourName> Inside Healthy Living」をクリックし、そのポータルを表示します。「Human Resources」タブが選択されていない場合は、「Human Resources」タブをクリックします。

「Human Resources」タブは、次のように表示されます。

Vacancy#	Position	Status
1	Analyst Programmer	Open
1000	Product Manager	Open
1024	Principal Analyst	Open
1100	Analyst	Open
1106	Analyst	Open
1110	Analyst	Open
1142	Chief Database Administrator	Open
1144	Course Developer	Open
1463	Lead Desktop Administrator	Open

5.6.2 「Managers」タブの作成

この項では、「Inside Healthy Living」ポータルの「Managers」タブを設計します。

1. ナビゲータで、「<YourName> Inside Healthy Living」の横にある「編集」をクリックします。
2. 「ポートレットの追加」ページで、「Managers」タブをクリックします。
3. 列を追加し、左の領域に行を追加します。

注意：列、行または領域をタブに追加する方法が不明な場合は、[第3章「イントラネット・ポータルの作成と簡単なポートレットの追加」](#)を参照してください。

4. 左上の領域で、「Healthy Living Repository」（コンテンツ領域）から「Manager」パースペクティブを追加します。

ヒント：このポートレットは、「Inside Healthy Living Repository」プロバイダの下にあります。

5. 左下の領域で、「TUTORIAL30 APPLICATION」から「View Salary by Department」チャートを追加します。

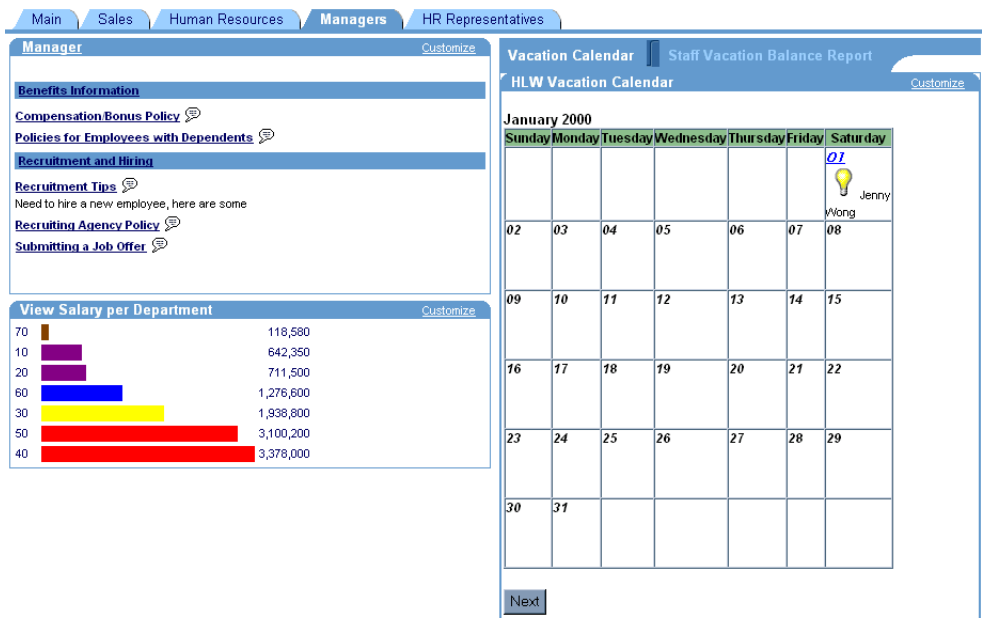
注意：このフォームが存在しない場合は、ポータル管理者に問い合わせてください。また、このフォームは、追加しなくてもかまいません。

6. 右上の領域に、2つのタブで構成されるポートレットを作成します。
7. 最初のタブには、Vacation Calendar という名前を付けます。

8. 2 番目のタブには、Staff Vacation Balance Report という名前を付けます。
9. 「<YourName>_Vacation_Calendar」を最初のタブに追加します。

注意：このコンポーネントは、5.4.3 項「届出休暇日を表示するカレンダーの作成」で作成したコンポーネントです。
10. 「<YourName>_Vacation_Balance」を 2 番目のタブに追加します。

注意：このコンポーネントは、5.4.4 項「休暇残余日数レポートの作成」で作成したコンポーネントです。
11. 「閉じる」をクリックします。
12. ナビゲータの「ページ」タブで、「<YourName> Inside Healthy Living」をクリックし、そのポータルを表示します。「Managers」タブが選択されていない場合は、「Managers」タブをクリックします。
- 「Managers」タブは、次のように表示されます。



5.6.3 「HR Representatives」タブの作成

この項では、「Inside Healthy Living」ポータルの「HR Representatives」タブを設計します。

1. ナビゲータで、「<YourName> Inside Healthy Living」の横にある「編集」をクリックします。
2. 「ポートレットの追加」ページで、「HR Representatives」タブをクリックします。
3. 列を追加し、左の領域に 2 行を追加します。

注意：列、行または領域をタブに追加する方法が不明な場合は、[第 3 章「イントラネット・ポータルの作成と簡単なポートレットの追加」](#)を参照してください。

4. 右の領域に行を追加します。
5. 左上の領域で、「Healthy Living Repository」（コンテンツ領域）から「HR Rep」パースペクティブを追加します。

ヒント：このポートレットは、「Inside Healthy Living Repository」プロバイダの下にあります。

6. 左中央の領域で、「<YourName>_Vacation_Balance」を追加します。

注意：このコンポーネントは、[5.4.4 項「休暇残日数レポートの作成」](#)で作成したコンポーネントです。

7. 左下の領域で、「TUTORIAL30 APPLICATION」から「Update Employee Details」フォームを追加します。

注意：このフォームが存在しない場合は、ポータル管理者に問い合わせてください。また、このフォームは、追加しなくてもかまいません。

8. 右上の領域で、2 つのタブで構成されるポートレットを作成します。
9. 最初のタブに Current Job Vacancies という名前を付けます。
10. 2 番目のタブに Post or Close a Job Vacancy という名前を付けます。
11. 「<YourName>_VACANCIESREPORT」を最初のタブに追加します。

注意：このコンポーネントは、[5.3.4 項「現在のすべての人材募集状況を表示するレポートの作成」](#)で作成したコンポーネントです。

12. 「<YourName>_VacancyForm」を 2 番目のタブに追加します。

注意：このコンポーネントは、[5.3.2 項「人材の募集または募集を終了するためのフォームの作成」](#)で作成したコンポーネントです。

13. 右下の領域で、CASEBOOK30 APPLICATION から HLW_COMM_REG_CHART をポートレットとして追加します。
14. 「閉じる」をクリックします。

15. ナビゲータの「ページ」タブで、「<YourName> Inside Healthy Living」をクリックし、そのポータルを表示します。「HR Reps」タブが選択されていない場合は、「HR Reps」タブをクリックします。

「HR Representatives」タブは、次のように表示されます。

MainSalesHuman ResourcesManagersHR Representatives

HR RepCustomize

Benefits Information

Benefits Providers

Recruitment and Hiring

Schools and Universities

Recruiting Agency Policy

Compensation Packages

Immigration Policy

Staff Vacation TimeCustomize

Name	Employee ID	Accumulated	Taken
Amanda Szen	1140	20	1
Douglas McCormick	1000	8	No time taken
Gregg W Choplin	480	5	1
Jenny Wong	510	21	1
John S Maulik	440	10	2
Leslie Cleveland	620	22	1

Current Vacation Balances

Update Employee DetailsCustomize

Enter the id of the employee that you want to update, then click Query. Change the employee's details as necessary, then click Update.

QueryReset

Employee ID

Full Name

Address

City

State

Zip Code

Phone No

Marital Status

QueryReset

Current Job VacanciesPost or Close a Job Vacancy

Advertise a VacancyCustomize

Position Details

CreateQueryReset

Vacancy#

1920

Position

Department

Hiring Manager

HR Contact

Responsibilities

Qualifications

Status

Open

Go Back

HLW COMM REG CHARTCustomize

Central	1,080,000
Northeast	480,000
Northwest	400,000
Southeast	500,000
Southwest	470,000

5-40 Oracle Portal ポータル構築ガイド

5.7 まとめ

おめでとうございます。様々なレベルのセキュリティを使用して、ポータルをカスタマイズする部門用イントラネット・ポータルの作成が完了しました。これで、次の方法を習得できました。

- ポータルにタブを作成し、各タブにセキュリティを適用する
- 人材募集ポートレットを作成し、様々なタイプのユーザーがそのポートレット上で人材募集状況を表示したり、人材を募集できるようにする
- 休暇ポートレットを作成し、そのポートレット上で社員が休暇届を出し、管理者が休暇残余日数のレポートに基づいて休暇届を承認できるようにする
- 階層の作成ウィザードを使用してチーム組織図を作成する
- SQL 問合せによりレポートを作成する
- コンポーネント・レベルおよびページ・レベルのセキュリティを適用する
- コンテンツ領域をポータルで活用する
- 組織内の社員のタイプごとに異なる機能で構成されるポータルを設計する

ポータルの作成およびセキュリティの使用の詳細は、Oracle Portal オンライン・ヘルプを参照してください。

情報リポジトリの作成

この章では、Oracle Portal を使用して、テキスト、ドキュメント、イメージなど、あらゆる種類の情報を格納する情報リポジトリの作成方法を説明します。

この章では、コンテンツ領域を使用して、Healthy Living Wholesalers 社の情報リポジトリを作成し、社員が会社の日常業務に必要なすべての情報にアクセスできるようにします。

この章を完了するには、作業に必要なコンテンツ領域を、ユーザー自身またはポータル管理者が作成する必要があります。この方法については、[A.6 項「Inside Healthy Living Repository の作成」](#)に説明されています。作成する場合は、このコンテンツ領域のコンテンツ領域管理者である必要があります。

また、この章の最後の項を完了するには、コンテンツ領域オブジェクトをポートレットとして公開する権限が必要です。これらの権限を取得するには、ポータル管理者に問い合わせてください。権限の取得手順は、[A.1.1 項「ユーザーの作成」](#)を参照してください。

この章の例の一部では、Oracle Technology Network (http://technet.oracle.com/docs/products/iportal/doc_index.htm) で提供されている次のファイルを使用する必要があります。

- リポジトリ・コンテンツ - hlw_repository.zip
- リポジトリ・イメージ - hlw_repository_images.zip

完成済みのコンテンツ領域（Inside Healthy Living Repository）は、デモ・スキーマを含むインストール・パッケージに収められています。詳細は、ポータル管理者に問い合わせてください。

この章は、次の項で構成されています。

内容	場所
既存のコンテンツをコンテンツ領域にアップロードする	6.1 項「コンテンツとフォルダ構造を Zip ファイルとしてアップロード」
カテゴリを作成してコンテンツを分類する	6.2 項「カテゴリの作成」
パースペクティブを作成してコンテンツを詳細に分類する	6.3 項「パースペクティブの作成」
カスタム・タイプを作成して、コンテンツ領域に追加できるコンテンツのタイプをカスタマイズする	6.4 項「カスタム・タイプの作成」
フォルダ内でのコンテンツの表示方法を編集する	6.5 項「フォルダのレイアウトの変更」
コンテンツへのアクセスを制御する	6.6 項「フォルダのアクセス権限の変更」
コンテンツ領域オブジェクトをポータルに含める	6.7 項「オブジェクトをポートレットとして公開」

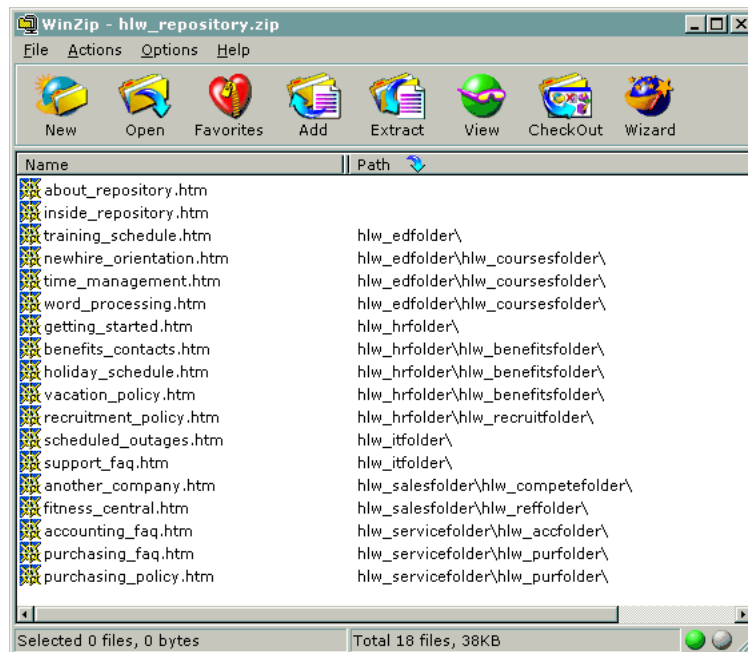
6.1 コンテンツとフォルダ構造を Zip ファイルとしてアップロード

この項では、既存のコンテンツと構造をコンテンツ領域にアップロードする方法について説明します。この方法は、ファイル・システム内に構成済のコンテンツがすでに存在し、コンテンツ領域のフォルダ構造を新規に作成しないときに利用します。

注意：この例では、コンテンツ領域に複数のファイルを追加する方法について説明します。適切な権限を持っている場合は、コンテンツ領域にファイルを個別にアップロードすることもできます。

参照情報：Oracle Portal オンライン・ヘルプを参照してください。ナビゲーション・バーの「検索」フィールドに 'adding a file item' と入力し、「実行」をクリックします。

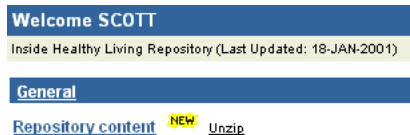
1. Oracle Technology Network (http://technet.oracle.com/docs/products/iportal/doc_index.htm) からリポジトリ・コンテンツの Zip ファイル (hlw_repository.zip) をまだダウンロードしていない場合は、ダウンロードしてください。
2. Zip ファイルを開いて、ファイルの構造を確認します。



各ファイルは、サブディレクトリ内ですでに構造化されています。

3. Oracle Portal ナビゲータで、「コンテンツ領域」タブをクリックします。

4. 必要に応じて、「パス」の「コンテンツ領域」をクリックしてルート・レベルに移動します。
5. 目的のコンテンツ領域名をクリックし、コンテンツ領域を表示します。
注意: コンテンツ領域の名前が不明な場合は、ポータル管理者に問い合わせてください。
6. ページの右上にある「フォルダの編集」をクリックします。
7. フォルダ・ダッシュボードの「アイテムを追加」をクリックします。
8. 「アイテム・タイプ」リストから、「Zip ファイル」を選択します。
9. 「次へ」をクリックします。
10. 「ファイル名」フィールドの横にある「参照」をクリックします。
11. ダウンロードしたりポジトリ・コンテンツの Zip ファイルに位置付けて選択し、「開く」をクリックします。
12. 「表示名」フィールドに、Repository content と入力します。
13. 「完了」をクリックします。



14. これで、Zip ファイルのアップロードが終了しました。この Zip ファイルをコンテンツ領域に追加するには、このファイルを解凍する必要があります。
新しく追加された Zip ファイル・アイテムの横にある「解凍」をクリックします。
15. 「ターゲット・フォルダの選択」フィールドのフォルダが、コンテンツ領域のルート・フォルダであることを確認します。Zip ファイルのルート・レベルのファイルは、すべてこのフォルダに追加されます。サブディレクトリは、すべてこのフォルダのサブフォルダとして作成されます。

ヒント: ルート・フォルダの名前は、コンテンツ領域の名前と同じです。



16. 「バックグラウンドで解凍を実行」チェック・ボックスのチェックを外します。
注意: 大きなファイルを解凍する必要がある場合は、バックグラウンドでファイルを解凍すれば、解凍しながら他の作業を続けることができます。
17. 「解凍」をクリックします。

「バックグラウンドで解凍を実行」チェック・ボックスのチェックを外したので、ファイルの解凍が完了するまでこのページがそのまま表示されます。

18. 解凍が完了したら、ログ・ファイルをチェックして作成された内容を確認し、「閉じる」をクリックします。



フォルダとアイテムがコンテンツ領域に追加されています。各フォルダは、Zip ファイル内の各ディレクトリと同じ名前で作成されます。Zip ファイルの内容は htm ファイルなので、アイテム名は <TITLE> タグにはさまれたテキストになります。各フォルダとアイテムには、解凍元の Zip ファイル・アイテムと同じカテゴリが割り当てられます。

19. フォルダの表示名は変更できます。つまり、フォルダを編集すると、「表示名」をよりわかりやすくできます。その例を次に示します。
- ページの右上にある「フォルダの編集」をクリックします。
 - 「HLW_EDFOLDER」の横にある  をクリックします。
 - 「表示名」フィールドに、Education と入力します。
 - 「OK」をクリックします。
20. リポジトリ・コンテンツを解凍した後で、そのリポジトリ・コンテンツ・アイテムの横にある  をクリックすると、Zip ファイルを削除できます。

6.2 カテゴリの作成

カテゴリを使用してコンテンツを分類すると、ユーザーが検索しているタイプの情報が含まれているかどうかを判断しやすくなります。

リポジトリに追加されるドキュメントのほとんどは、次のタイプの情報に分類されます。

- 連絡先の一覧
- よく寄せられる質問への回答
- 企業の方針を説明するドキュメント
- イベントのスケジュール

この項では、各情報タイプのカテゴリを作成する方法について説明します。

1. ナビゲータで、「コンテンツ領域」タブをクリックします。
ヒント: コンテンツ領域内に現在位置している場合は、フォルダ・ダッシュボードの「管理」をクリックし、「コンテンツ領域のナビゲート」をクリックします。
2. 必要に応じて、「パス」の「コンテンツ領域」をクリックしてルート・レベルに移動します。
3. 目的のコンテンツ領域の横にある「コンテンツ」をクリックして、コンテンツ領域の構造をドリル・ダウンします。
4. 「カテゴリ」の横にある「新規作成」をクリックします。
5. 「名前」フィールドに、HLW_CONTACTS と入力します。
6. 「表示名」フィールドに、Contacts と入力します。
7. 「新規作成」をクリックします。
8. ステップ 5～7 を繰り返して、残りのカテゴリを作成します。


名前	表示名
HLW_FAQ	FAQ
HLW_POLICY	Policy
HLW_SCHEDULE	Schedule

9. 「閉じる」をクリックします。

6.2.1 アイテムへのカテゴリの割当て

カテゴリの作成が終了したら、コンテンツ領域内の各アイテムに、1つのカテゴリを割り当てます。

注意: 1つのアイテムに対して、複数のカテゴリを割り当てることはできません。

1. 「パス」の「コンテンツ領域」をクリックしてルート・レベルに移動します。
2. 目的のコンテンツ領域の名前をクリックします。
3. ページの右上にある「フォルダの編集」をクリックします。
4. 「About the Inside Healthy Living Repository」アイテムの横にある  をクリックします。
5. このドキュメントは、「リポジトリとは何か」という質問に答えています。つまり、このアイテムは、「FAQ」カテゴリに属します。
「カテゴリ」リストから「FAQ」を選択します。
6. 「OK」をクリックします。



アイテムが、「FAQ」カテゴリのバナーの下に表示されます。

実際の企業リポジトリの場合は、この操作をアイテムごとに繰り返します。このコンテンツ領域はサンプルなので、ここで操作を中止してもかまいません。その場合、残りのアイテムは「一般」カテゴリに割り当てられたままになります。

6.3 パースペクティブの作成

パースペクティブを作成すると、コンテンツをより詳細に分類できます。カテゴリは情報のタイプを示しますが、パースペクティブは情報のテーマを示します。つまり、その情報に関心を持つユーザーを示します。

リポジトリの情報に関心を持つユーザーを特定するには、ユーザーの企業内での職位を検討するのが最も簡単です。たとえば、次の職位があります。

- HR Representative
- Manager
- Sales Representative
- New Employee

また、すべての社員が使用するドキュメントのパースペクティブも必要です。パースペクティブを使用して、文書のファイル・タイプを識別することもできます。つまり、パースペクティブから、文書の表示に適したソフトウェアまたはプラグインを簡単に判断できます。

1. ナビゲータで、「コンテンツ領域」タブをクリックします。
2. 必要に応じて、「パス」の「コンテンツ領域」をクリックしてルート・レベルに移動します。
3. 目的のコンテンツ領域の横にある「コンテンツ」をクリックします。
4. 「パースペクティブ」の横にある「新規作成」をクリックします。
5. 「名前」フィールドに、HLW_ALL と入力します。
6. 「表示名」フィールドに、All Employees と入力します。
7. 「新規作成」をクリックします。
8. ステップ 5～7 を繰り返し、残りのパースペクティブを作成します。

名前	表示名
HLW_HRREP	HR Rep
HLW_HTML	HTML Document
HLW_MANAGER	Manager
HLW_NEW	New Employee
HLW_SALESREP	Sales Rep

9. 「閉じる」をクリックします。

6.3.1 パースペクティブへのアイコンの関連付け



コンテンツ領域を特徴付けるために、パースペクティブにアイコンを関連付けることができます。アイテムの横にアイコンが表示され、アイテムが所属しているパースペクティブを簡単に判別できるようになります。

1. Oracle Technology Network (http://technet.oracle.com/docs/products/iportal/doc_index.htm) からリポジトリ・イメージの Zip ファイル (`hlw_repository_images.zip`) をまだダウンロードしていない場合は、ダウンロードしてください。
2. リポジトリ・イメージの Zip ファイルを開き、`people.gif` ファイルを解凍します。このイメージは、「All Employees」パースペクティブの識別に使用できます。
3. ナビゲータで、「パースペクティブ」をクリックします。
4. 「All Employees」の横にある「編集」をクリックします。
5. 「イメージ」タブをクリックします。
6. 「アイコン名」フィールドの横にある「参照」をクリックします。
7. 解凍された `people.gif` ファイルを選択し、「開く」をクリックします。
8. 「OK」をクリックします。

6.3.2 アイテムへのパースペクティブの割当て

パースペクティブの作成が終了したら、コンテンツ領域内の各アイテムに、1 つまたは複数のパースペクティブを割り当てることができます。

注意: 1 つのアイテムに対して、複数のパースペクティブを割り当てることができます。

1. 「パス」の「コンテンツ領域」をクリックしてルート・レベルに移動します。
2. 目的のコンテンツ領域の名前をクリックします。
3. ページの右上にある「フォルダの編集」をクリックします。
4. 「About the Inside Healthy Living Repository」アイテムの横にある  をクリックします。
5. 「セカンダリ」タブをクリックします。
6. この HTML アイテムには、Healthy Living Wholesalers 社のすべての社員がアクセスします。このため、「使用可能なパースペクティブ」リストから、「All Employees」および「HTML Document」を選択します。
7.  をクリックして、選択したパースペクティブを「表示するパースペクティブ」リストに移動します。
8. 「OK」をクリックします。



アイテムが属しているパースペクティブが、アイテムの表示名の横に表示されます。

注意：すでに説明した例で「All Employees」パースペクティブにアイコンを割り当てているため、テキストのかわりにアイコンが表示されます。

6.4 カスタム・タイプの作成

デフォルトでは、次のタイプのアイテムをコンテンツ領域に追加できます。

- アプリケーション・コンポーネント
- ファイル
- フォルダ・リンク
- イメージ
- Java アプリケーション
- PL/SQL
- テキスト
- URL
- Zip ファイル


これらの基本アイテム・タイプを使用した場合、各アイテムに関するデフォルト情報セットが格納されます。コンテンツ領域のアイテムについて詳細な情報を格納する場合は、独自のカスタム・アイテム・タイプを作成します。まず、情報を格納する属性を作成します。次に、その属性を含むアイテム・タイプを作成します。

たとえば、Healthy Living Repository には、教育部門から提供されるトレーニング・コースに関する情報が格納されます。コースの説明を追加するときに、期間や言語など、各コースに関する情報を指定できます。指定するには、「Course Description」というカスタム・アイテム・タイプを作成します。

6.4.1 属性を作成する

カスタム・アイテム・タイプを作成するには、まず、追加情報を格納する属性を作成する必要があります。「Course Description」アイテム・タイプでは、2つの属性が必要になります。一方の属性にはコースの期間を格納し、もう一方の属性にはそのコースの言語を格納します。

1. ナビゲータで、「コンテンツ領域」タブをクリックします。
2. 必要に応じて、「パス」の「コンテンツ領域」をクリックしてルート・レベルに移動します。
3. 目的のコンテンツ領域の横にある「コンテンツ」をクリックします。
4. 「カスタム・タイプ」をクリックします。
5. 「属性」の横にある「新規作成」をクリックします。
6. 「名前」フィールドに、HLW_EDDUR と入力します。
7. 「表示名」フィールドに、Duration と入力します。

8. コースの期間は、テキスト文字列として格納されます。「データ型」リスト内で、「テキスト」が選択されていることを確認してください。
9. 「新規作成」をクリックします。
10. 「名前」フィールドに、HLW_EDLANG と入力します。
11. 「表示名」フィールドに、Language と入力します。
12. 「データ型」リスト内で、「テキスト」が選択されていることを確認します。
13. 「新規作成」をクリックします。
14. カスタム属性は、その属性を含むアイテムを追加または編集するときにフィールドとして表示されます。コースの言語は、直接入力せずに、言語リストから選択することができます。言語リストを表示するには、その属性の表示オプションを変更します。
ページの上にある「Language」をクリックします。
15. 「値リスト」ラジオ・ボタンを選択します。
16. 「値リスト」フィールドの横にある  をクリックします。
17. 「CASEBOOK30_APPLICATION.HLW_LANGLOV」をクリックします。
CASEBOOK30_APPLICATION 内にこの値リスト（LOV）が表示されます。属性を LOV として表示する場合は、ユーザー自身またはアプリケーション開発者が LOV を作成します。
参照情報： Oracle Portal オンライン・ヘルプを参照してください。ナビゲーション・バーの「検索」フィールドに、'list of values' と入力し、「実行」をクリックします。
18. 「OK」をクリックします。

6.4.2 カスタム・アイテム・タイプの作成

追加情報を格納する属性の作成が終了したら、ユーザーがこの情報を入力するアイテム・タイプを作成します。

1. 「アイテム・タイプ」の横にある「新規作成」をクリックします。
2. 「名前」フィールドに、HLW_EDDESC と入力します。
3. 「表示名」フィールドに、Course Description と入力します。
4. 「基本アイテム・タイプ」リスト内で、「ファイル」が選択されていることを確認します。

コースの説明が、すべて HTML ファイルの形式で表示されます。既存の「ファイル」アイテム・タイプに基づいてカスタム・アイテム・タイプを作成すると、ファイルに必要な基本属性を活用できます。

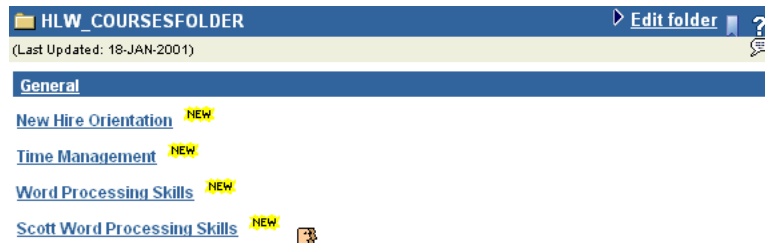
5. 「新規作成」をクリックします。
6. この時点では、新しいアイテム・タイプは「ファイル」アイテム・タイプとまったく同じです。この「Course Description」アイテム・タイプを編集して、独自の属性を追加する必要があります。
ページの上にある「Course Description」をクリックします。
7. 「属性」タブをクリックします。
8. 「使用可能な属性」リストから、「Duration」および「Language」を選択します。
9. ➤ をクリックして、選択した属性を「選択した属性」リストに移動します。
10. 「適用」をクリックします。
11. 「Duration」行で、次の操作を行います。
 - a. 「デフォルト値」フィールドに、1 day(s) と入力します。
デフォルト値を入力すると、「Duration」フィールドにこの値があらかじめ設定されます。ユーザーは、デフォルト値をそのまま使用するか、別の値を入力することができます。
 - b. 「プライマリ」チェック・ボックスをチェックします。
「プライマリ」チェック・ボックスをチェックすると、ユーザーが「Course Description」アイテムを追加するときにウィザードの2 ページ目にこの属性が表示されます（編集時は「プライマリ」タブ）。
12. 「Language」行で、「プライマリ」チェック・ボックスをチェックします。
「Language」フィールドは、言語のリストとして表示されます。
13. 「OK」をクリックします。

6.4.3 コース説明の追加

新しいアイテム・タイプを実際を使用して、コース説明をコンテンツ領域に追加します。

1. リポジトリ・コンテンツの Zip ファイルを開き、word_processing.htm ファイルを解凍します。
2. 「パス」の「コンテンツ領域」をクリックしてルート・レベルに移動します。
3. 目的のコンテンツ領域の名前をクリックします。
4. 「HLW_COURSESFOLDER」をクリックして「Course Descriptions」フォルダヘドリル・ダウンします。
5. ページの右上にある「フォルダの編集」をクリックします。
6. フォルダ・ダッシュボードの「アイテムを追加」をクリックします。

7. 「アイテム・タイプ」リストから「Course Description」を選択します。
8. 「次へ」をクリックします。
9. 「ファイル名」フィールドの横にある「参照」をクリックします。
10. 解凍された word_processing.htm ファイルを選択し、「開く」をクリックします。
11. 「表示名」フィールドに、<YourName> Word Processing Skills と入力します。
12. 「Duration」フィールドには、このアイテム・タイプを作成したときに指定した 1 day(s) が設定されています。
このコースの実際の期間は 2 日間です。「Duration」フィールドで、1 を 2 に変更します。
13. 「Language」リストが表示され、このコースで使用する言語を選択できます。
「Language」リストで、「English」を選択します。
14. 「次へ」をクリックします。
15. 「使用可能なパースペクティブ」リストから、「All Employees」を選択します。
16. ➤ をクリックして、選択したパースペクティブを「表示するパースペクティブ」リストに移動します。
17. 「完了」をクリックします。



6.4.4 プロシージャ・コールを伴うカスタム・アイテム・タイプの作成

カスタム・アイテム・タイプには、アイテムに関する情報を格納する以外に、HTTP プロシージャおよび PL/SQL プロシージャへのコールを追加できます。たとえば、人事部門には、年金用語の定義を含める要求があるとします。このとき、人事部門が提供する定義を含めるのみでなく、その定義から外部の検索エンジン（金融サービス・プロバイダの Fidelity など）を呼び出す機能を追加することができます。この場合、カスタム・アイテム・タイプを作成し、検索エンジンへのコールを追加します。

1. まず、アイテム・タイプから検索エンジンを正しくコールできるように、検索エンジンへのコールの構築方法を確認します。検索を実行し、生成された URL を確認してください。

Fidelity 検索エンジンへのコールは、次の要素で構成されます。

- **検索エンジン・プロシージャ・コール：**
http://www.northernlight.com/fidelity/nlquery.fcgi
- **固定パラメータ：**url=2:1&dx=8001&db=26&cs=0
- **検索文字列：**qr=<search term>

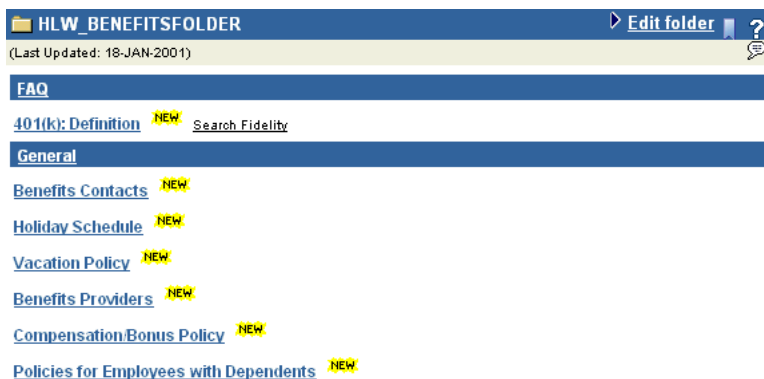
2. 次に、検索エンジンに渡す固定パラメータが格納される属性を作成する必要があります
 - a. ナビゲータで、「コンテンツ領域」タブをクリックします。
 - b. 必要に応じて、「パス」の「コンテンツ領域」をクリックしてルート・レベルに移動します。
 - c. 目的のコンテンツ領域の横にある「コンテンツ」をクリックします。
 - d. 「カスタム・タイプ」をクリックします。
 - e. 「属性」の横にある「新規作成」をクリックします。
 - f. 「名前」フィールドに、HLW_HRFIXED と入力します。
 - g. 「表示名」フィールドに、Fidelity Search Fixed と入力します。
 - h. 「データ型」リスト内で、「テキスト」が選択されていることを確認します。
 - i. 「新規作成」をクリックします。
 - j. 「閉じる」をクリックします。
3. 次に、「Benefits Definition」アイテム・タイプを作成します。
「アイテム・タイプ」の横にある「新規作成」をクリックします。
4. 「名前」フィールドに、HLW_HRDEFN と入力します。
5. 「表示名」フィールドに、Benefits Definition と入力します。
6. 「基本アイテムタイプ」リストから、「テキスト」を選択します。

7. 「新規作成」をクリックします。
8. 作成したアイテム・タイプを編集し、固定パラメータ属性および Fidelity 検索エンジンへのコールを追加します。
ページの上にある「Benefits Definition」をクリックします。
9. 「属性」タブをクリックします。
10. 「使用可能な属性」リストから、「Fidelity Search Fixed」を選択します。
11. ➤ をクリックして、選択した属性を「選択した属性」リストに移動します。
12. 「適用」をクリックします。
13. 最後の固定パラメータ (cs) に渡す値は 0 です。この属性のデフォルト値には、0 を指定します。
「デフォルト値」フィールドに、0 と入力します。
14. 「プロシージャ」タブをクリックします。
15. このプロシージャは HTTP プロシージャです。「タイプ」リストで「HTTP」が選択されていることを確認します。
16. 「プロシージャ・コール」フィールドに、
`http://www.northernlight.com/fidelity/nlquery.fcgi` と入力します。
17. 「リンク・テキスト」フィールドに、Search Fidelity と入力します。
注意：イメージをアップロードしてアイコンとして使用することもできます。アイコンを指定すると、リンク・テキストのかわりにそのアイコンが使用されます。
18. このプロシージャには、固定パラメータと検索文字列を渡す必要があります。
「属性」リストから、「Fidelity Search Fixed」を選択します。
19. 対応する「引渡し方法」フィールドに、`orl=2:1&dx=8001&cb=26&cs` と入力します。
20. 2 番目の「属性」リストから「keywords」を選択します。
21. 対応する「引渡し方法」フィールドに、qr と入力します。
このタイプのアイテムの「基本検索用キーワード」フィールドに入力したテキストは、Fidelity 検索エンジンに検索文字列として渡されます。
22. 「OK」をクリックします。

6.4.5 年金に関する定義の追加

年金に関する定義を追加して、Fidelity 検索エンジンへのコールの動作を確認します。

1. 「パス」の「コンテンツ領域」をクリックしてルート・レベルに移動します。
2. 目的のコンテンツ領域の名前をクリックします。
3. 「HLW_BENEFITSFOLDER」をクリックし、「Benefits Information」フォルダへドリル・ダウンします。
4. ページの上にある「フォルダの編集」をクリックします。
5. フォルダ・ダッシュボードの「アイテムを追加」をクリックします。
6. 「基本アイテム・タイプ」リストから、「Benefits Definition」を選択します。
7. 「次へ」をクリックします。
8. 「テキスト」フィールドに、A 401(k) is a type of retirement plan that allows employees to save and invest for their own retirement と入力します。
9. 「表示名」フィールドに、401(k) : Definition と入力します。
10. 「カテゴリ」リストから「FAQ」を選択します。
11. 「次へ」をクリックします。
12. このアイテム・タイプの「基本検索用キーワード」に指定した値は、Fidelity 検索エンジンに渡す検索文字列として使用されます。
「基本検索用キーワード」フィールドに、401(k) と入力します。
13. 「完了」をクリックします。



アイテムの横にリンクが表示されます。このリンクをクリックすると、Fidelity 検索エンジンが起動します。

14. 新しい「401(k) Definition」アイテムの横の「Search Fidelity」をクリックし、そのアイテム・タイプに追加した Fidelity 検索エンジンへのコールを実行します。

Fidelity Web サイトのうち、401(k) の文字列が含まれるコンテンツのリストがページに返されます。

15. ブラウザの「戻る」ボタンをクリックします。

6.5 フォルダのレイアウトの変更

これまでの作業で、Healthy Living Repository の構造を分類し、分類モデルを作成し、コンテンツ領域に追加するコンテンツに合わせてアイテム・タイプをカスタマイズしました。次に、コンテンツ領域のレイアウトを編集して、ページ上の情報をわかりやすく配置し、視覚効果を向上します。

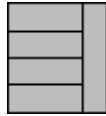
フォルダは、5つの領域に分割されます。フォルダ内での領域の表示方法は、変更することができます。デフォルトでは、各領域は縦方向に並んで表示されます。ここでは、このレイアウトをよりわかりやすく変更します。

1. ナビゲータで、「コンテンツ領域」タブをクリックします。
2. 必要に応じて、「パス」の「コンテンツ領域」をクリックしてルート・レベルに移動します。
3. 目的のコンテンツ領域の横にある「コンテンツ」をクリックします。
4. フォルダのレイアウトは、そのフォルダに関連付けたスタイルによって決まります。「スタイル」をクリックします。
5. 目的のコンテンツ領域フォルダのスタイルの横にある「編集」をクリックします。

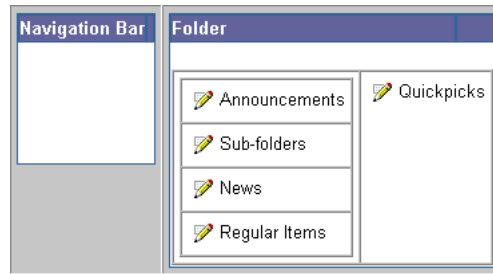
注意：コンテンツ領域のナビゲーション・バーのスタイルではなく、コンテンツ領域フォルダのスタイルを編集してください。このスタイルは、コンテンツ領域と同じ名前を持っています。

最初に表示されたタブで、フォルダで使用する色とフォントを変更します。ここでは、フォルダのレイアウトのみを変更します。Healthy Living の外観に合わせて色とフォントを変更する方法は、『Oracle Portal チュートリアル』を参照してください。変更手順についてステップごとに説明しています。

6. 「フォルダのレイアウト」タブをクリックします。
7. 「フォルダのレイアウト」ラジオ・グループで、次に示すレイアウトの左側のラジオ・ボタンをクリックします。











8. 「適用」をクリックします。

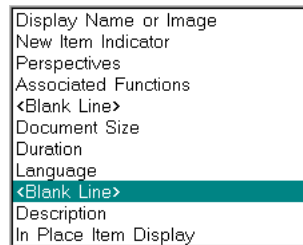


6.5.1 領域のプロパティの変更

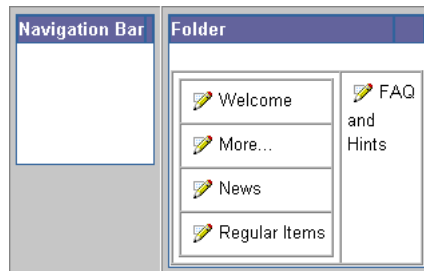
前の例では、フォルダ内でのフォルダ領域のレイアウトを変更しました。さらに、各領域内のアイテムの配置方法、表示するアイテム属性および様々な表示オプションを指定することもできます。

1. 右側の列に要求頻度の高い情報を配置し、見やすい画面にします。
「Quickpicks」の左側の  をクリックします。
2. 「表示名」フィールドに、FAQ and Hints と入力します。
3. この時点の設定では、この領域にバナーは表示されません。この領域にバナーを配置して、情報のタイプが表示されるようにします。
「領域バナーの表示」チェック・ボックスをチェックします。
4. バナー領域にアイテムの説明を配置し、アイテムに関する詳細情報を表示します。
「使用可能な属性」リストから、「Description」を選択します。
5.  をクリックして、選択した「Description」属性を「表示する属性」リストに移動します。
6. ここでは、アイテムの説明を最初に表示し、ユーザーに最初に読まれるようにします。
「表示する属性」リストから、「Description」を選択します。
7.  をクリックし、「Description」属性をリストの一番上に移動します。

8. 「アイテムの位置」リストから、「左揃え」を選択します。
9. 「列の数」フィールドに、1 と入力します。
10. 「適用」をクリックします。
11. 「閉じる」をクリックします。
12. 次に、一番上の領域を使用して、フォルダのウェルカム・メッセージを表示します。
「お知らせ」の左側の  をクリックします。
13. 「表示名」フィールドに、Welcome と入力します。
14. 「表示する属性」リストから、「Display Name or Image」を選択します。
15.  をクリックして、「Display Name or Image」属性を「使用可能な属性」リストに移動します。
16. 「適用」をクリックします。
17. 「閉じる」をクリックします。
18. さらに、サブフォルダ・バナーのテキストを、リポジトリのユーザーにわかりやすく変更します。コンテンツ領域内のフォルダやサブフォルダの構造がわかるようにします。
「サブフォルダ」の左側の  をクリックします。
19. 「表示名」フィールドに、More... と入力します。
20. 「適用」をクリックします。
21. 「閉じる」をクリックします。
22. 最後に、フォルダ内の標準アイテムの横に表示する属性を変更します。たとえば、コンテンツ領域内の各ファイルのサイズを確認できるようにすると、ダウンロードにかかるおおよその時間を知ることができます。また、コース説明のアイテムの横に、前に作成した「Course Descriptions」カスタム・アイテム・タイプの2つの属性を表示すると便利です。
「標準アイテム」の左側の  をクリックします。
23. 「使用可能な属性」リストから、「Blank Line」、「Document Size」、「Duration」および「Language」を選択します。
24.  をクリックして、選択した属性を「表示する属性」リストに移動します。
25. ▲ および ▼ を使用して、「表示する属性」リストの属性の表示順序を次のように変更します。



26. 「適用」をクリックします。
27. 「閉じる」をクリックします。



28. フォルダ内での属性の表示方法を変更することもできます。
「プロパティ」タブをクリックします。
29. 「スタイル要素」リストから、「アイテム属性」を選択します。
30. 「フォント・スタイル」リストから、「斜体」を選択します。
31. 「適用」をクリックします。
32. 「OK」をクリックします。
33. 「パス」の「コンテンツ領域」をクリックします。
34. 目的のコンテンツ領域の名前をクリックします。
サブフォルダのバナーに、「サブフォルダ」のかわりに「More...」というテキストが表示されます。また、「About the Inside Healthy Living Repository」アイテムの下に、文書サイズ属性が斜体で表示されます。
35. 「HLW_COURSESFOLDER」をクリックして「Course Descriptions」フォルダヘドリル・ダウンします。

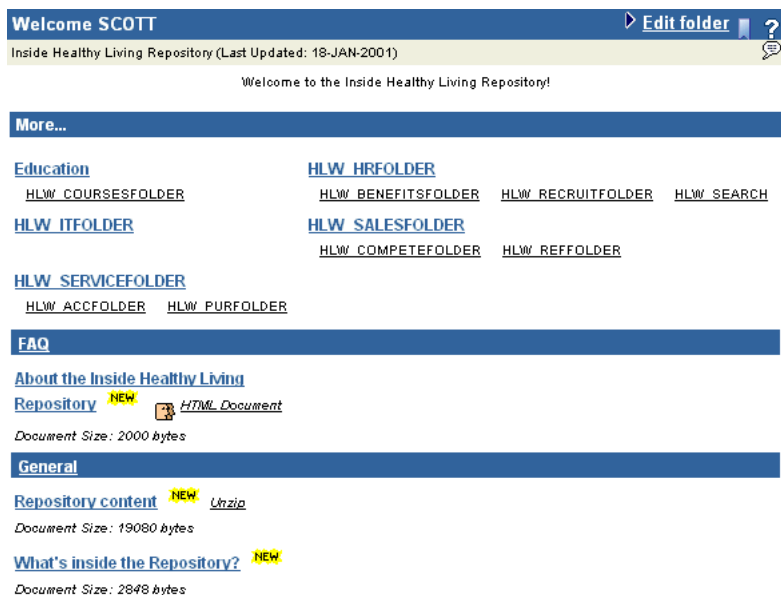
前に追加した「Word Processing Skills」アイテムの下に、「Duration」属性と「Language」属性が表示されます。

6.5.2 領域へのアイテムの追加

コンテンツ領域内のフォルダのレイアウトを変更すると、新しいアイテムを該当する領域に直接追加できます。

作成した「Welcome」領域のリポジトリのルート・フォルダに対して、ウェルカム・メッセージを追加します。


1. 「フォルダ・パス」で、コンテンツ領域名をクリックし、ルート・フォルダに戻ります。
2. ページの右上にある「フォルダの編集」をクリックします。
3. フォルダ・ダッシュボードの「アイテムを追加」をクリックします。
4. 「アイテム・タイプ」リストから、「テキスト」を選択します。
5. 「次へ」をクリックします。
6. 「フォルダ領域」セクションで、「Welcome」ラジオ・ボタンを選択します。
7. 「テキスト」フィールドに、Welcome to the Inside Healthy Living Repository! と入力します。
8. 「表示名」フィールドに、Welcome! と入力します。
9. 「次へ」をクリックします。
10. 「フォルダ領域に直接表示されるアイテム」ラジオ・ボタンを選択します。
11. 「完了」をクリックします。



フォルダの一番上の「Welcome」領域に、ウェルカム・メッセージが表示されます。

6.5.3 別の領域へのアイテムの追加

Healthy Living Repository には、すでにいくつかのドキュメントが格納されています。それらのドキュメントは、適切な領域に移動する必要があります。たとえば、すでに FAQ ドキュメントを表示する領域を作成しましたが、このフォルダには about_repository.htm という FAQ ドキュメントが格納されています。このドキュメントを適切な領域に移動します。

1. 「About the Inside Healthy Living Repository」アイテムの横にある  をクリックします。
2. 「フォルダ領域」セクションで、「FAQ and Hints」ラジオ・ボタンを選択します。
3. 「説明」フィールドに、Want to know what the Repository is all about? Take a look at と入力します。
4. 「OK」をクリックします。
5. ページの右上にある「フォルダの表示」をクリックします。



このアイテムが、「FAQ and Hints」領域に表示されます。また、アイテム名の前にアイテムの説明が表示されます。この説明は、領域のプロパティの編集時に「表示する属性」リストで指定したものです。

注意：文書サイズは、このアイテムの横に表示されません。「FAQ and Hints」領域に対して、文書サイズの属性の表示を選択しなかったためです。

6.6 フォルダのアクセス権限の変更

次に、このリポジトリの情報を表示できるユーザーを検討する必要があります。コンテンツ領域では、フォルダへのアクセス、個々のアイテムへのアクセス、および特定のユーザーまたはユーザー・グループへのアクセスを制限することができます。アクセスの制限を利用することにより、多数のユーザーが企業情報にアクセスするときに、セキュリティを確保することができます。

1. ナビゲータで、「コンテンツ領域」タブをクリックします。
2. 必要に応じて、「パス」の「コンテンツ領域」をクリックしてルート・レベルに移動します。
3. 目的のコンテンツ領域の横にある「ルート・フォルダの編集」をクリックします。
4. 「アクセス」タブをクリックします。
5. このフォルダには、リポジトリへの入口として、全般的な情報を格納しています。このため、すべてのユーザーが利用できるようにする必要があります。

「パブリックにする」チェック・ボックスがチェックされていることを確認します。

6. コンテンツ領域内のフォルダの大部分は、すべてのユーザーが利用できるようにする必要があります。しかし、フォルダを最初に作成するときに「パブリックにする」チェック・ボックスのチェックを外しても、すべてのユーザーが利用できるのはルート・フォルダのみです。すべてのフォルダをすべてのユーザーが利用できるようにする場合は、ルート・フォルダに適用されたアクセス権限を、ルート・フォルダに含まれるすべてのフォルダにコピーすると簡単です。

「すべてのサブフォルダに権限を追加」ラジオ・ボタンが選択されていることを確認します。

7. 「権限をカスケード」をクリックします。
8. 「OK」をクリックします。
9. 目的のコンテンツ領域の横にある「コンテンツ」をクリックします。
10. 「フォルダ」をクリックします。
11. 「HLW_HRFOLDER」の横にある「編集」をクリックします。
12. 「アクセス」タブをクリックします。

ルート・フォルダの権限をカスケードしたため、「パブリックにする」チェック・ボックスがチェックされています。

13. ただし、新しい情報を追加する権限はカスケードされません。この時点では、他のユーザーはリポジトリにアイテムを追加する権限を持っていません。人事部門のメンバーにアイテムを追加する権限を付与します。これらのアイテムは最初に人事部門で作成されるためです。

「名前」フィールドで、HR_REPRESENTATIVES を選択します。

14. 「アクセス・リストに追加」をクリックします。

注意：HR_REPRESENTATIVES グループが存在しない場合は、ポータル管理者に問い合わせるか、[A.5.2 項「人事管理者グループと人事担当者グループの作成」](#)の手順に従ってこのグループを作成します。

15. 「HR_REPRESENTATIVES」行で、「アイテムの管理」チェック・ボックスをチェックします。

HR_REPRESENTATIVES グループのメンバーが、このフォルダに対してアイテムの追加、編集および削除を行うことができるようになります。

16. 「OK」をクリックします。

17. 「HLW_HRFOLDER」の横にある「サブフォルダ」をクリックします。

18. HLW_RECRUITFOLDER には、人事部門のメンバーのみに適用される情報が格納されています。ここでは、この情報へのアクセスを制限します。

「HLW_RECRUITFOLDER」の横にある「編集」をクリックします。

19. 「アクセス」タブをクリックします。

20. 「パブリックにする」チェック・ボックスのチェックを外します。

「表示」権限を持つユーザーのみが、このフォルダのコンテンツを表示できるようになります。それ以外のすべてのユーザーは、このフォルダにアクセスできなくなります。

21. 「名前」フィールドで、HR_REPRESENTATIVES を選択します。

22. 「アクセス・リストに追加」をクリックします。

23. 「HR_REPRESENTATIVES」行の「コンテンツを表示」チェック・ボックスがチェックされていることを確認します。

24. 「OK」をクリックします。

6.7 オブジェクトをポートレットとして公開

特定のコンテンツ領域のオブジェクトを、ポータル内で使用できるようにすることができます。コンテンツ領域は、Oracle Portal 内に存在します。このため、コンテンツ領域のオブジェクトは、ポートレットとして簡単に公開できます。ここでは、「HR Rep」パースペクティブをポートレットとして公開します。この結果、「HR Rep」パースペクティブが Healthy Living ポータルに追加されるので、人事担当者が業務に関連するドキュメントに簡単にアクセスできるようになります。

1. ナビゲータで、「コンテンツ領域」タブをクリックします。
2. 必要に応じて、「パス」の「コンテンツ領域」をクリックしてルート・レベルに移動します。
3. 目的のコンテンツ領域の横にある「コンテンツ」をクリックします。
4. 「パースペクティブ」をクリックします。
5. 「HR Rep」の横にある「編集」をクリックします。
6. 「ポートレットとして公開」チェック・ボックスを選択します。

注意：このチェック・ボックスが表示されない場合は、ポートレットを公開する権限が付与されていません。[A.1.1 項「ユーザーの作成」](#)の手順に従って、ポータル管理者に依頼し、権限を取得します。

7. 「OK」をクリックします。

フォルダ、カテゴリおよびナビゲーション・パーも、同様にポートレットとして公開できます。

これらのオブジェクトをポータルに追加する方法は、[第 5 章「セキュリティを適用した人事ポータルの作成」](#)を参照してください。

6.8 まとめ

おめでとうございます。コンテンツ領域を使用して、情報リポジトリを作成しました。これで、次の方法を習得できました。

- Zip ファイルを使用してコンテンツをコンテンツ領域にアップロードする
- カテゴリを作成し、アイテムにカテゴリを割り当てる
- パースペクティブを作成し、パースペクティブにアイコンを関連付け、アイテムにパースペクティブを割り当てる
- カスタム・タイプを作成する
 - 属性を作成する
 - カスタム・アイテム・タイプを作成する
 - アイテム・タイプにプロシージャ・コールを追加する
- フォルダのレイアウトおよび領域のプロパティを変更する
- フォルダのアクセス権限を変更する
- コンテンツ領域のオブジェクトをポートレットとして公開する


コンテンツ領域の詳細は、Oracle Portal オンライン・ヘルプを参照してください。

Oracle Portal 管理者タスク

A.1 サンプルを作成できるユーザーの作成

この項では、このマニュアルに記載したポータルを作成できる、Oracle Portal ユーザーの作成方法について説明します。ユーザーを作成するには、「開発」権限以上のアクセス権限が必要です。このアクセス権限を取得する場合は、データベース管理者に問い合わせてください。

A.1.1 ユーザーの作成

1. Oracle Portal ホームページで、「管理」をクリックします。
注意：このページにアクセスするには、パナーのをクリックします。
2. 「ユーザー」ポートレットで、「新規ユーザーの作成」をクリックします。
3. 「ユーザー名」フィールドに、[new_user_name]を入力します。
注意：このフィールドでは、空白またはダッシュは使用できません。
4. 「パスワード」フィールドに、一時パスワードを入力します。
5. 「パスワードの確認」フィールドに、ステップ 4 で入力した一時パスワードをもう一度入力します。
6. 「電子メール・アドレス」フィールドに、新規ユーザーの電子メール・アドレスを入力します。
7. 「アカウントの発効」・「アカウントの失効」セクションで、このユーザーを有効にする日付を入力します。
8. 「Login Server の権限」セクションで、「エンド・ユーザー」が選択されていることを確認します。このマニュアルで使用するポータルでは、ユーザーは Login Server にアクセスする必要はありません。
9. 「新規作成」をクリックします。

10. 画面の一番上に、作成したユーザーのリンクが表示されます。このリンクをクリックします。
11. 「グループ・メンバー」の「PORTLET_PUBLISHERS」チェック・ボックスをチェックします。
12. 役職名や写真など、ユーザーに関するその他の情報を追加します。
13. 「適用」をクリックします。
14. 「OK」をクリックします。

これで、Oracle Portal のユーザーの作成が終了しました。

A.1.2 ケースブック・アプリケーションに対するユーザー・アクセス権限の付与

1. ナビゲータの「アプリケーション」タブをクリックします。
2. 「CASEBOOK30_APPLICATION」に移動します。
注意: CASEBOOK30_APPLICATION は、サンプル・コンポーネントがインポートされたアプリケーションです（詳細は、インストール・スクリプトに付属する Readme ファイルを参照）。
3. 「CASEBOOK30_APPLICATION」の横にある「アクセス権限の付与」をクリックします。
4. 「ユーザー / ロール」フィールドで、アクセス権限を付与するユーザーの名前を選択します。
5. リストから「管理」を選択します。
6. 「追加」をクリックします。
7. ケースブックのコンポーネントを作成する他のすべてのユーザーについて、ステップ 4～6 を繰り返します。
8. 「適用」をクリックします。
9. 「OK」をクリックします。

これで、CASEBOOK30_APPLICATION のコンポーネントの作成に必要なユーザー権限を付与しました。このマニュアルの手順では、コンポーネント名の先頭に作成者の名前を付けるように指示しています。コンポーネントに既存の名前を付けると、既存のコンポーネントが変更または削除されることがあります。各コンポーネントは、インストール・スクリプトを使用していつでも再インポートできます。


A.1.3 ユーザーがオブジェクトをポートレットとして公開できるようにする

1. Oracle Portal ホームページで、「管理」タブをクリックします。
2. 「ユーザー」ポートレットで、次の操作を行います。
 - a. 「名前」フィールドに、そのユーザーのユーザー名を入力します。
 - b. 「編集」をクリックします。
3. 「PORTLET_PUBLISHERS」チェック・ボックスをチェックします。
4. 「OK」をクリックします。

A.2 グループの作成

ユーザーのグループを作成し、一度の操作で複数のユーザーに同時に権限を付与することもできます。グループを作成するには、「管理者」権限以上のアクセス権限が必要です。

1. Oracle Portal ホームページで、「管理」をクリックします。

注意：このページにアクセスするには、バナーのをクリックします。
2. 「グループ」ポートレットで、「新規グループの作成」をクリックします。
3. 「名前」フィールドに、グループ名を入力します。たとえば、Casebook_Group と入力します。
4. このグループに「製品の全オブジェクト」が適用されていることを確認します。
5. 「説明」フィールドに、This group of users is for creating the portals in the Building Advanced Portals manual と入力します。
6. 「次へ」をクリックします。
7. 「名前」フィールドに、このグループに追加するユーザーのユーザー名を入力します。
8. 「メンバー・リストに追加」をクリックします。追加したユーザー名が、ユーザー・タイプとともに「グループ・メンバー・リスト」に表示されます。

注意：リストの所有者のユーザー名は、すでに「グループ・メンバー・リスト」に表示されています。
9. ステップ7～8の操作を繰り返して、他のユーザーをグループに追加します。
10. 「完了」をクリックします。


これで、Oracle Portal のユーザー・グループを作成が終了しました。ユーザー・グループがこのアプリケーションのコンポーネントを作成できるようにする場合は、[付録 A.1.2 「ケースブック・アプリケーションに対するユーザー・アクセス権限の付与」](#)の手順を参照してください。その場合、ステップ4のユーザー名のかわりに、グループ名を入力します。

A.3 デモ用のポータル、スキーマおよびコンテンツ領域のインストール

デモ用のポータル、スキーマおよびコンテンツ領域のインストール・スクリプトは、http://technet.oracle.com/docs/products/iportal/doc_index.htm から入手できます。これらのサンプルをインストールするには、<http://technet.oracle.com> のインストール・スクリプトと同じディレクトリにある Readme ファイルの手順に従ってください。

A.4 スキーマに対するアクセス権限の付与

表を更新するフォームを作成するには、<DEMO_SCHEMA> へのアクセス権限が必要になることがあります。ユーザーがこの表へのアクセス権を付与する権限を持っていない場合、データベース管理者（そのスキーマへのアクセス権を持つ）はこの項の手順に従う必要があります。

1. Oracle Portal ホームページの一番上にあるバナーで、 をクリックします。
2. 「データベース・オブジェクト」をクリックします。
3. 「<DEMO_SCHEMA>」スキーマを探します。
4. 「<DEMO_SCHEMA>」の横にある「アクセス権限の付与」をクリックします。
5. 「ユーザー / ロール」フィールドで、ユーザー名を選択します。
6. 権限リストから「管理」を選択します。
7. 「追加」をクリックします。このユーザーの ID および権限が「権限の取消」の下に表示されます。
8. 「閉じる」をクリックします。

これで、ユーザーはデモ・スキーマの表を操作できるようになりました。このユーザーは、このスキーマの任意のデータを変更できます。スキーマのすべての表に対する管理アクセス権限をユーザーに対して付与しない場合は、スキーマの個々の表に移動し、表ごとに個別にアクセス権を付与することができます。

A.5 人事ポータルに対して3つのグループを作成

この項のステップでは、[第5章「セキュリティを適用した人事ポータルの作成」](#)に必要な、3つのユーザーおよび2つのユーザー・グループを作成します。

A.5.1 3つのユーザーの作成

1. 次の特性を持つユーザーを作成します。

注意：ユーザーの作成方法が不明な場合は、[A.1 項「サンプルを作成できるユーザーの作成」](#)のステップ1～9に従ってください。

- 「ユーザー名」= Joe_Public
- 「パスワード」= 12345
- 「パスワードの確認」= 12345

2. 次の特性を持つ2つ目のユーザーを作成します。

- 「ユーザー名」= Joe_Manager
- 「パスワード」= 12345
- 「パスワードの確認」= 12345

3. 次の特性を持つ3つ目のユーザーを作成します。

- 「ユーザー名」= Joe_HRRep
- 「パスワード」= 12345
- 「パスワードの確認」= 12345

A.5.2 人事管理者グループと人事担当者グループの作成

この項では、2つのグループを作成します。管理者グループ（HR_MANAGER）は、「Inside Healthy Living Human Resources」ポータルの「Managers」ページに表示されます。人事担当者グループ（HR_REPRESENTATIVE）は、「HR Representatives」ページに表示されます。

注意：ポータルの「パブリック」ページを表示する場合は、グループを作成する必要はありません。Oracle Portal にログインするすべてのユーザーは、デフォルトでこのページを表示できます。

1. Oracle Portal ホームページで、「管理」タブをクリックします。
2. 「グループ」ポートレットで、「新規グループの作成」をクリックします。
3. 「名前」フィールドに、HR_MANAGERS と入力します。
4. 「製品の全オブジェクト」ラジオ・ボタンが選択されていることを確認します。

5. 「説明」フィールドに、This group contains the company managers for the Human Resources portal と入力します。
6. 「デフォルト・スタイル」の「表示」リストから「Healthy Living Page Style」を選択します。
7. 「次へ」をクリックします。
8. 「名前」フィールドで、Joe_Manager を選択します。
注意: これは、[付録 A.5.1 「3つのユーザーの作成」](#) で作成したユーザーです。
9. 「メンバー・リストに追加」をクリックします。
入力した名前が「グループ・メンバー・リスト」に表示されます。
10. このグループにユーザーを追加する場合は、ステップ8～9の操作を繰り返します。
11. 「適用」をクリックします。
12. 「OK」をクリックします。
13. ステップ2～6を繰り返して、次の設定内容でグループを作成します。
 - 「名前」= HR_REPRESENTATIVES
 - 「説明」= This group contains the Human Resources representatives for the Human Resources portal
14. 「次へ」をクリックします。
15. ステップ8～12に従って、このグループにユーザーを追加します。

注意: このグループにはユーザー Joe_HRRRep を追加します。

これで、[第5章「セキュリティを適用した人事ポータルの作成」](#)の手順を完了するために必要なグループの作成が終了しました。

A.6 Inside Healthy Living Repository の作成


1. ナビゲータで、「コンテンツ領域」タブをクリックします。
2. 必要に応じて、「パス」の「コンテンツ領域」をクリックしてルート・レベルに移動します。
3. 「新規作成」の「コンテンツ領域」をクリックします。
4. 「名前」フィールドに、コンテンツ領域の一意の名前を入力します。

ヒント: 名前を一意にするために、コンテンツ領域の作成対象ユーザーのユーザー名を含めることをお勧めします。たとえば、SCOTT_REPOSITORY という名前にします。

5. 「表示名」フィールドに、コンテンツ領域の記述名を入力します。

ヒント: 名前をわかりやすくするために、コンテンツ領域の作成対象ユーザーのユーザー名を含めることをお勧めします。たとえば、Inside Healthy Living Repository for Scott という名前にします。

6. 「新規作成」をクリックします。
7. ページの一番上で、新しく作成したコンテンツ領域の名前をクリックします。
8. 「アイテム」タブをクリックします。
9. 「削除アイテムの保持」チェック・ボックスおよび「削除アイテムの表示」チェック・ボックスのチェックを外します。
10. 「アクセス」タブをクリックします。
11. 「ユーザー / ロール」フィールドで、コンテンツ領域の作成対象ユーザーのユーザー名を選択します。

ヒント: ユーザー名が不明な場合は、 をクリックし、ポップアップ・ウィンドウからユーザー名を選択します。

12. 権限のリストで、「管理」が選択されていることを確認します。
13. 「追加」をクリックします。
14. 「OK」をクリックします。

用語集

API

Application Program Interface。オペレーティング・システムとアプリケーションとの間、またはホストのアプリケーション・プログラムとクライアントのアプリケーションとの間で機能するソフトウェア・プログラム。

API、オーバーロード型 (API, overloaded)

同じ名前を共有しているが、パラメータの数やタイプが異なる複数の関数またはプロシージャで構成されている。

Cookie

Login Server で使用される。Oracle Portal または関連する外部アプリケーションやパートナー・アプリケーションにログインしようとするユーザーの ID に関する情報が格納される。

Database Access Descriptor (DAD)

HTTP 要求を満たすために、Oracle Portal を Apache リスナーに接続する方法を指定した一連の値。DAD の情報は、ユーザー名（スキーマと権限も指定する）、パスワード、および接続文字列のパラメータで構成される。

HTML

Hypertext Markup Language の略。タグをベースにした ASCII 言語。コンテンツ、書式、およびインターネット上の Web サーバーにある他のページへのリンクを指定するために使用する。Oracle Portal は、実行時に HTML を生成する PL/SQL プロシージャの集合で構成されている。

HTTP ファンクション (HTTP function)

[ファンクション \(function\)](#) を参照。

interMedia Text

Oracle8i で提供される要旨、テーマおよびテキスト取出しの拡張サービス。コンテンツ領域内のすべてのアイテムのすべてのワードが、検索基準と照合される。*interMedia* が使用できないか、使用可能な状態になっていない場合、検索基準は各タイトル、説明およびキーワードのみと照合される。

JavaScript

従来は静的だった HTML で動的なコンポーネント生成を実現するために、Netscape 社が開発したスクリプト言語。Oracle Portal では、JavaScript を使って、フォームやカスタマイズ・フォームの入力フィールドの妥当性チェックを行うルーチンを作成できる。また、フォーム上の入力フィールドやボタンに対して、JavaScript イベント・ハンドラを作成することもできる。

Login Server

Login Server を Oracle Portal で使用するように設定すると、シングル・サインオン (SSO) メカニズムが提供される。Oracle Portal ユーザーは、単一のユーザー名とパスワードを使用して、Oracle Portal のみでなく、パートナ・アプリケーションや外部アプリケーションにも安全にログインできる。

mod_plsql ゲートウェイ (mod_plsql gateway)

Web 上での PL/SQL ベースのアプリケーション (Oracle Portal など) の構築および配置をサポートする。データベースに格納されている PL/SQL プロシージャを利用すると、データベース表からデータを取り出し、書式化されたデータや HTML コードを含む HTTP 応答を生成して Web ブラウザに表示できる。

Oracle 接続文字列 (Oracle Connect String)

Windows NT にインストールされているリモート・データベースの TNS 名の設定に使用するゲートウェイの設定項目。

Oracle ホーム (Oracle home)

Oracle 製品のルート・ディレクトリを示す環境変数。

PL/SQL アイテム (PL/SQL item)

フォルダに追加できるアイテム・タイプの 1 つ。PL/SQL アイテムには、PL/SQL コードのブロックが入る。アイテムの表示名リンクをクリックすると、ブロックが実行される。実行結果が返され、ユーザーのブラウザに表示される。

PL/SQL ファンクション (PL/SQL function)

[ファンクション \(function\)](#) を参照。

PL/SQL フォルダ (PL/SQL folder)

Oracle Portal がサポートしている 4 つのフォルダ・タイプの 1 つ。PL/SQL フォルダには、フォルダが描画されるときに HTML を生成する PL/SQL コードが格納される。「コンテナ・フォルダ (container folder)」、「検索フォルダ (search folder)」および「URL フォルダ (URL folder)」を参照。

URL アイテム (URL item)

フォルダに追加できるアイテム・タイプの 1 つ。このコンテンツ領域の内部または外部にある Web ページへのルートを提供するアイテム。ユーザーがアイテムの表示名リンクをクリックすると、そのリンクが参照する Web ページが表示される。

URL フォルダ (URL folder)

このコンテンツ領域の内部または外部にある Web ページへのルートを提供するフォルダ。ユーザーがフォルダ・リンクをクリックすると、そのリンクが参照する Web ページが表示される。「コンテナ・フォルダ (container folder)」、「PL/SQL フォルダ (PL/SQL folder)」および「検索フォルダ (search folder)」を参照。

Web サーバー (Web server)

Web ページを配信するプログラム。

Zip ファイル・アイテム (Zip file item)

1 回の操作で複数のファイルをアップロードする方法。ファイル・システムや Web サイトを複製するときには使用する。フォルダはディレクトリごとに作成し、アイテムはファイルごとに作成する。これらのアイテムは、選択したコンテンツ領域のターゲット・フォルダに格納される。

アイテム

コンテンツ領域のフォルダに入っているコンテンツ（テキスト、ファイル、フォルダ・リンクなど）の基本単位。アイテムは、コンテンツ領域のホスト・データベースに格納される。アイテムの表示名とそのコンテンツ（リンクやファンクション・コールの場合は実行結果）は、Oracle Portal によって自動作成された Web ページに表示される。各アイテムは、基本アイテム・タイプ（カスタム・アイテム・タイプを作成した場合は、カスタム・アイテム・タイプ）として定義しなければならない。Oracle Portal では、アイテム・タイプに基づいて、アイテムの表示および実行方法を識別する。

アイテム ID (item ID)

ローカル・データベース内でアイテムに付けられている ID。アイテム ID の値は、アイテムを PL/SQL プロシージャに渡すために、カスタム・アイテム・タイプ内で使用する。ファンクションは、アイテム ID を使用して、そのアイテムのコンテンツにアクセスする。

アイテム・タイプ (item type)

アイテムのコンテンツや、格納するアイテム情報を定義する。Oracle Portal の基本アイテム・タイプは、ファイル、フォルダ・リンク、イメージ、Java アプリケーション、PL/SQL、テキスト、URL、アプリケーション・コンポーネント、Zip ファイルである。カスタム・アイテム・タイプは、コンテンツ領域管理者が作成するアイテム・タイプで、基本アイテム・タイプの機能を拡張したり、アイテムに関する追加情報を格納するときに使用する。

アイテムのバージョン制御 (item version control)

[バージョン制御 \(version control\)](#) を参照。

アイテム・レベルのセキュリティ (item level security : ILS)

所定のフォルダに入っている特定のアイテムに対するアクセスを、詳細に管理するためのメカニズム。アイテム所有者には、許可されていないユーザーやグループに対して、アイテムへのアクセス権を明示的に付与する権限が割り当てられる。

値リスト (List of Values : LOV)

開発者がコンポーネントやカスタマイズ・フォームの入力フィールドに選択可能な値を追加できるようにするコンポーネント。エンド・ユーザーは、このリストから入力フィールドの値を1つ以上選択する。1つの値リストを、コンボ・ボックス、ラジオ・ボタンまたはチェック・ボックスなど、いろいろな形式で表示できる。

アプリケーション

Oracle Portal では、リンクによって相互に接続されたコンポーネントのグループのこと。特定の業務ニーズを満たすために設計されている。たとえば、フォームにチャートをリンクすることにより、エンド・ユーザーはチャートに表示されているアイテムに関する詳細レポートにドリルダウンできる。

アプリケーション・コンポーネント・アイテム (application component item)

フォルダに追加できるアイテム・タイプの1つ。Oracle Portal アプリケーション・コンポーネント・アイテムには、チャート、フォーム、レポートなどがある。これらのアイテムは、Oracle Portal のコンポーネント作成ウィザードによって作成され、ホスト・データベースに格納される。ユーザーがアイテムをクリックすると、アプリケーション・コンポーネントが実行され、その結果がユーザーのブラウザに送信される。

一時表領域 (temporary tablespace)

表の行ソートなどの操作の一時表セグメントを作成するために使用するデータベースの領域を割り当てること。

イメージ (image)

ビットマップ・オブジェクトの1つ。コンポーネントまたはコンテンツ領域に保管およびロードし、Web ブラウザを使用して表示できる。Oracle Portal では、JPEG、GIF または PNG タイプのイメージをサポートしている。

イメージ/イメージマップ・アイテム (image/imagemap item)

フォルダに追加できるアイテム・タイプの1つ。ビットマップ・イメージまたはイメージマップ・アイテムを追加できる。ビットマップ・イメージまたはイメージマップ・アイテムは、小さいイメージの集合で、それぞれ別の URL にリンクしている。

ウィザード

処理をステップごとにガイドするグラフィカル・インタフェース。Oracle Portal には、アプリケーション、コンポーネント、データベース・オブジェクト、ページ、コンテンツ領域、フォルダ、およびフォルダ内のアイテムを作成するためのウィザードが用意されている。

エクスポート (export)

Oracle Portal スキーマのソース・データをターゲット・スキーマに移動し、後で取り出せるようにする。たとえば、本番データベースのデータをエクスポートし、エクスポート・ファイル内のすべてまたは一部のデータを開発用データベースにインポートすることができる。

お気に入り (favorite)

「お気に入り」ポートレットのアイテム。頻繁に参照する URL に対して、Oracle Portal の内部または外部からすばやくアクセスすることができる。「お気に入り」ポートレットは、Oracle Portal にログインするユーザーごとに作成される。

お気に入り (interest list)

フォルダ・リンクの一種。許可されたユーザーが選択して「お気に入り」ポートレットに表示する。アクセスがすばやく簡単にできるようになる。

オブジェクト (object)

1) データベースにデータを格納するために使用する Oracle Portal 構造。開発者は、Oracle Portal が提供するウィザードを使用して、フォルダ、コンポーネント、ページ、スタイルなどのオブジェクトを作成できる。

2) 表などのデータベース・オブジェクト、プロシージャ、Java オブジェクトなど。これらのオブジェクトも、Oracle Portal のウィザードや Oracle データベースのコマンドを使用して作成できる。

親子関係 (parent-child relationship)

[再帰的關係 \(recursive relationship\)](#) を参照。

階層

自己参照している表またはビュー（少なくとも表の2つの列が再帰的關係を共有している必要がある）からデータを表示するコンポーネント。階層にはレベルを3つまで含めることができ、組織図内の社員や、Web サイトのメニュー間の階層関係などのデータを表示できる。

外部アプリケーション (external application)

Oracle Portal の外部にあるアプリケーションで、「外部アプリケーション」ポートレットから起動される。このポートレットを使用してアプリケーションのユーザー名とパスワードを登録しておくと、Login Server を起動したときにそのアプリケーションに自動的にログインできる。

拡張検索 (advanced search)

コンテンツ領域のユーザーが次の操作を行えるようにする機能。

- 検索文字列のいずれかまたはすべての用語が含まれているコンテンツの検索。
- 現在のコンテンツ領域の外部にある別のコンテンツ領域の検索、またはすべてコンテンツ領域にまたがる検索。
- 検索範囲を特定のフォルダ、カテゴリ、パースペクティブ、アイテム・タイプまたは属性に制限した検索。

interMedia がインストールされ、有効になっている場合は、拡張検索を使用して近似、Soundex、ファジー検索を実行できる。

カスタマイズ・フォーム (customization form)

Oracle Portal コンポーネントに渡す値をエンド・ユーザーが入力するためのページ。エンド・ユーザーは、「カスタマイズ」リンクをクリックすると、コンポーネントのカスタマイズ・フォームを表示できる（作成済みの場合）。

カスタム・アイテム・タイプ

[アイテム・タイプ \(item type\)](#) を参照。

カスタム・フォルダ・タイプ (custom folder type)

[フォルダ・タイプ \(folder type\)](#) を参照。

カテゴリ

コンテンツ領域内のアイテムのグループ。カテゴリを利用すると、アイテムの内容をわかりやすく示すことができる。たとえば、旅行関連のコンテンツ領域には、「地図」、「周遊」、「ホテル案内」というカテゴリを作成する。コンテンツ領域にアイテムを追加するときは、特定のカテゴリに割り当てなければならない。

カラー・パレット (color palette)

背景、リンク、バナー、およびフォルダ・ページに表示される他のアイテムなど、フォルダ・スタイルの要素に色を設定するために使用する。各色の 16 進値がパレットに表示される。

カレンダー

SQL 問合せの結果をカレンダーの書式で表示する Oracle Portal のコンポーネント。問合せ内には、最低 1 つの日付データ型の表の列が必要である。

基本アイテム・タイプ (base item type)

[アイテム・タイプ \(item type\)](#) を参照。

基本検索 (basic search)

コンテンツ領域のユーザーが、現行のコンテンツ領域のアイテム、フォルダ、カテゴリおよびパースペクティブから、文字列を検索する機能。

基本フォルダ・タイプ (base folder type)

[フォルダ・タイプ \(folder type\)](#) を参照。

キャッシュ (caching)

ページ、フォルダまたはコンポーネントの一時記憶域。オブジェクトが要求されるたびに、取り出しに関連するパフォーマンス・コストを減らすことを目的としている。ページやフォルダの構造、または構造とコンテンツをキャッシュに格納できる。何も格納しなくてもかまわない。

行 (row)

表に含まれる一連の値。たとえば、SCOTT.EMP 表の 1 人の社員を表す値。

共有オブジェクト (shared objects)

Oracle Portal によって作成されるコンテンツ領域。個人用フォルダ、共有パースペクティブ、共有カテゴリおよび共有カスタム・タイプ（共有属性、共有アイテム・タイプおよび共有フォルダ・タイプ）などのオブジェクトが含まれる。これらのオブジェクトは、すべてのコンテンツ領域で共有できる。

共有コンポーネント (shared components)

Oracle Portal 開発者がコンポーネントを作成するときに使用する構築単位。共有コンポーネントには、JavaScript、色、フォントおよびイメージ定義がある。各共有コンポーネントを使用して、複数の開発者が Oracle Portal のコンポーネントを作成することができる。

許可されたユーザー (authorized user)

Oracle Portal にログインするユーザー。許可されたユーザーは、フォルダやページなどの特定の Oracle Portal オブジェクトを、デフォルトで作成できる。「パブリック・ユーザー (public users)」を参照。パブリック・ユーザーの場合は、ログインはできない。

クラスタ (cluster)

相互に関連し、ディスク上の同じ領域で頻繁に相互結合される表の格納に使用するデータベース・オブジェクト。

グループ (group)

通常は、共通したニーズや関心を共有している Oracle Portal ユーザーの集合。たとえば、人事部門や会計部門など。グループを使用すると、オブジェクト（ページやコンポーネントなど）へのアクセス権を一度に複数のユーザーに簡単に付与できる。

グループの所有者 (group owner)

メンバーをグループに追加または削除したり、グループ自体を削除する権限を持ったユーザー。各グループには、複数の所有者を割り当てることができる。

権限 (privilege)

Oracle Portal 内で操作を実行するための権利。グローバル権限（「ユーザー」または「グループ」ポートレットから設定する）と、特定のオブジェクトに固有の権限（通常はオブジェクトの「アクセス」タブから設定する）がある。アプリケーションを構築するときに、データベース・オブジェクト、共有コンポーネント、コンポーネントおよびアプリケーションへのアクセス権を付与できる。

検索フォルダ (search folder)

Oracle Portal のコンテンツ領域を検索するときに作成されるフォルダ。コンテンツのビューは、対象者ごとに作成される。たとえば、同一カテゴリに属しているすべてのアイテムを検索するための検索フォルダを作成できる。検索フォルダは動的フォルダで、フォルダを描画するたびに更新される。「コンテナ・フォルダ (container folder)」、「PL/SQL フォルダ (PL/SQL folder)」および「URL フォルダ (URL folder)」を参照。

コール・インタフェース (call interface)

コンポーネントが最初に作成されたとき、または最後に編集されたときに選択された引数を表示する。

構成済み UI テンプレート (structured UI template)

Oracle Portal コンポーネントの外観を制御する共有コンポーネント。構成済み UI テンプレートは、そのテンプレートを使用するすべてのコンポーネントで、同じ場所に同じイメージとテキストを表示する。

個人用フォルダ (personal folder)

Oracle Portal 内の領域。許可されたユーザーが、個人用アイテムを格納および共有できる。ポータル管理者は、シングル・サインオン・ユーザー・アカウントの作成時に、ユーザーの個人用フォルダを作成できる。

コンテナ・フォルダ (container folder)

ファイル、テキスト、文書、イメージ、アプリケーション・コンポーネントなどの関連アイテムを格納するためのリポジトリ。「PL/SQL フォルダ (PL/SQL folder)」、「URL フォルダ (URL folder)」および「検索 フォルダ (search folder)」を参照。

コンテンツ協力者 (content contributor)

コンテンツ領域のフォルダにアイテムを追加できるユーザー。つまり、「アイテムの所有」、「アイテムの管理」、「アイテムの表示」または「承認付きで作成」の権限を持っているユーザー。アイテムとフォルダの所有者は、特定のフォルダにアイテムを追加できるユーザーを制御する。

コンテンツ領域 (content area)

Oracle Portal にコンテンツを格納するときに使用される関連情報の集合。コンテンツ領域には、そのコンテンツの管理に必要なツールがすべて含まれている。WebDB 2.x および Oracle Portal 3.0 ベータ版では、「サイト」と呼ばれていた。コンテンツ領域では、コンテンツを編成するフォルダが階層化されている。

コンテンツ領域管理者 (content area administrator)

コンテンツ領域全体に対してすべての権限を持つユーザー。コンテンツ領域管理者は、フォルダ所有者やスタイル管理者の指定、パースペクティブやカテゴリの作成、ユーザーの管理など、コンテンツ領域の設定および管理を行う。また、ユーザーの個人用フォルダも含め、コンテンツ領域上のフォルダをすべて表示できる。

コンテンツ領域ページ (content area page)

コンテンツ領域内のすべてのフォルダに対して、共通の外観を設定するためのページ。標準のナビゲーション・バー、会社のロゴなどのアイテムで構成する。コンテンツ領域管理者が管理する。

コンテンツ領域マップ (Content Area Map)

Oracle Portal のコンテンツ領域内の全フォルダの階層構造を表示する。ユーザーは、このマップを使用してフォルダにアクセスできる。コンテンツ領域マップは、許可されたユーザーごとに調整される。つまり、表示または編集（あるいはその両方）の権限を付与されたフォルダのみが表示される。

コンテンツ領域ログ (content area log)

ユーザーがコンテンツ領域と対話処理を行っている間に収集される、すべてのイベントと関連情報の表。レポートやグラフの形式で統計を生成するときに使用する。

コンポーネント (component)

Oracle Portal のコンポーネント作成ウィザードを使用して作成された PL/SQL のストアード・プロシージャ。たとえば、チャート、レポートまたはフォームなどがある。ストアード・プロシージャを実行すると、そのコンポーネントの表示に使用する HTML コードが作成される。

再帰的關係 (recursive relationship)

ある表の列の値を、同じ表または別の表にある他の列の値に関連付けることができる場合に発生する関係。たとえば、主キーと外部キーの関係。

最近使用したオブジェクト (recent object)

最近表示または編集した Oracle ポートレットのオブジェクト。「最近使用したオブジェクト」ポートレットは、ユーザーごとに作成される。最後にアクセスした n 個のオブジェクトへのリンクが管理される。

サイト (site)

[コンテンツ領域 \(content area\)](#) を参照。

作業環境パス (reference path)

ページ上でポートレットのインスタンスを一意に識別するパス。作業環境パスを使用すると、所定のページ上で個々のポートレットまたはポートレット・グループにパラメータを渡すことができる。

索引 (index)

表に関連付けられるオプションの構造。表の行をすばやく探し出したり、各行が一意であることを保証するために使用する。

サブフォルダ (subfolder)

ネストされたフォルダ。コンテンツ領域のフォルダはすべて、コンテンツ領域のホーム・ページ (ルート・フォルダとも呼ばれる) のサブフォルダになる。

参照済みリンク (visited link)

ブラウザ・セッション中に、ユーザーが少なくとも一度クリックしたことがあることを示すために、未参照リンクとは別の色で表示されるリンク。

システム・パージ (消去) (system purge)

コンテンツ領域内の削除対象または期限切れとなっているアイテムを、すべてデータベースから削除すること。システム・パージは、コンテンツ領域管理者またはポータル管理者が行う。

シノニム (synonym)

表またはビューに割り当てられる名前。以後はその名前を使用して、その表またはビューを参照できる。

主キー (primary key)

表の行を指定するために使用できる一意の値からなるデータベース表の列。

順序 (sequence)

表の行番号を自動生成するときに使用されるデータベース・オブジェクト。

状態コード (status code)

[バージョン \(version\)](#) を参照。

シングル・サインオン (Single Sign-On)

[Login Server](#) を参照。

スキーマ (schema)

コンポーネントとデータベース・オブジェクトの集合。特定のデータベース・ユーザーが管理する。

スタイル (style)

Oracle Portal のフォルダやページの外観を制御する一連の値とパラメータ。スタイルを複数のフォルダに適用すると、コンテンツ領域内でそれらのフォルダの外観を制御できる。また、スタイルを1つのフォルダのみに適用することもできる。ページ・スタイルは、常にページごとに適用される。スタイル・マネージャを使用してコンテンツ領域に作成したスタイルは、フォルダ、バナーおよびナビゲーション・バーには適用される。ただし、ページ・スタイルは、ページにのみ適用される。

スタイル管理者 (style administrator)

特定のページ・スタイルやフォルダ・スタイルの表示設定を管理したり、強制する特別な権限を持っているユーザー。

ストアド・プロシージャ (stored procedure)

[プロシージャ \(procedure\)](#) を参照。

スナップショット (snapshot)

リモート・データベース内の1つ以上の表（マスター表と呼ばれる）への問合せ結果が含まれる表。

スナップショット・ログ (snapshot log)

スナップショットのマスター表に対応付けられている表。マスター表に加えられた変更を追跡する。

生成 (generate)

ランタイムやパッチ・モードで実行できるように、Oracle Portal コンポーネントを含むプロシージャをバイナリ形式でファイルまたはデータベースに保存すること。

セッション (session)

ブラウザと Oracle Portal 間の接続。最初にアクセスしてからログオフまたは切断するまで継続する。最初にアクセスしたときに **パブリック・セッション** として確立されたセッションは、ログインするときに **認証されたセッション** になる。

属性

「作成日」、「有効期限日」、「作成者」など、アイテムまたはフォルダに関する情報が格納される。コンテンツ領域管理者は、独自の属性を作成して、アイテム・タイプやフォルダ・タイプの機能を拡張することができる。

代替タグ (substitution tag)

非構成済み UI テンプレートの作成に使用するタグ。テンプレートを作成する HTML コードの実行時に、代替タグにより、コンポーネント、タイトル、ヘッダーなどの要素が動的にテンプレートに埋め込まれる。

タイトル (title)

[表示名 \(display name\)](#) を参照。

ダイレクト・アクセス URL (direct access URLs)

Oracle Portal の標準のナビゲーション機能を使用せずに、URL を使ってページ、フォルダ、カテゴリ、パースペクティブおよび文書に直接アクセスできるようにする機能。

ダッシュボード (dashboard)

編集モードで表示されるときに、カテゴリ・ページ、パースペクティブ・ページおよびフォルダ・ページの一番上に表示される一連のボタン。カテゴリ、パースペクティブまたはフォルダの作成と管理に使用するすべての編集ツールに、すばやくアクセスできる。

チャート

SQL 問合せの結果を棒グラフとして表示するコンポーネント。チャートは、2 つ以上の表またはビューの列で構成される。一方の列ではチャートの棒グラフが識別され、他方の列ではその棒グラフのサイズが計算される。

データベース・オブジェクト

[オブジェクト \(object\)](#) を参照。

データベース管理者 (database administrator : DBA)

DBA グループに属している Oracle Portal ユーザー。デフォルトでは、DBA グループのメンバーは、Oracle Portal 製品のすべてのページにアクセスでき、ページ、コンテンツ領域、アプリケーションおよび管理に対する「管理」権限を持っている。

データベース・ユーザー・アカウント (database user account)

[スキーマ \(schema\)](#) を参照。

テーマ (theme)

interMedia Text のテーマは、その文書の内容を説明するスナップショットになる。文書を検索するときに、特定の語句を検索するかわりに、特定の主題を検索することもできる。この

とき、文書中にその主題が明示的に記述されている必要はない。テーマを問い合わせると、要求した主題に関連する文書のリストと、その主題の参照度の文書別スコアが返される。

ディレクトリ (directory)

[ポータル・ディレクトリ \(portal directory\)](#) を参照。

テキスト・アイテム (text item)

フォルダに追加できるアイテム・タイプの 1 つ。テキスト・アイテムを作成するときは、アイテム・ウィザードでテキスト (最大 32KB) を入力する。このテキスト・ブロックは、コンテンツ領域のホスト・データベースに格納される。ユーザーが表示名リンクをクリックすると、そのテキストがユーザーの Web ブラウザに表示される。

問合せ (query)

SQL の SELECT 文。データベースの 1 つ以上の表またはビューから取り出すデータを指定する。

動作ログ (activity log)

Oracle Portal コンポーネントに対するエンド・ユーザーからの要求が記録されるデータベース表。ログには、要求の時刻、要求を発行したユーザー名、および要求元のマシンとブラウザのタイプに関する情報が記録される。

トリガー (trigger)

表に対応付けられているデータベース・オブジェクト。指定された 1 つ以上のイベントの前または後に実行される。

ナビゲーション・バー (navigation bar)

コンテンツ領域内で、頻繁にアクセスする領域や重要な領域に移動するための領域。フレーム付きのブラウザの場合、ナビゲーション・バーは各フォルダ・ページの左側に表示される。非フレームのブラウザの場合、ナビゲーション・バーはページの一番上に表示される。フォルダのナビゲーション・バーに表示するテキスト・リンクやイメージは、そのフォルダの所有者が決定する。ただし、ナビゲーション・バーの要素の中には、サイト・ロゴに使用するイメージやリンク自体のテキストなど、コンテンツ領域管理者が管理するものもある。

ナビゲータ (Navigator)

Oracle Portal オブジェクトの検索や対話処理のためのメカニズム。各ユーザーの認可レベルに合わせて自動的にカスタマイズされる。オブジェクトをすばやく検索するために、「検索」フィールドが用意されている。

ページ (消去) (purge)

[システム・ページ \(消去\) \(system purge\)](#) を参照。

バージョン (version)

Oracle Portal コンポーネントを含むストアド・プロシージャの状態を示す。たとえば、「アーカイブ」は、データベースに保存済みの旧バージョンのコンポーネントを示す。「PRODUCTION with VALID Package (本稼動)」は、エラーなしで実行される最新バージョンのコンポーネントを示す。「PRODUCTION with INVALID Package」は、エラーが含まれている最新バージョンのコンポーネントを示す。同一のコンポーネントの複数バージョンを保管できる。

バージョン制御 (version control)

アイテムの複数バージョンを Oracle Portal データベースに同時に保管できるようにする機能。この機能は、複数のバージョン間の文書の変更を追跡するときや、必要に応じて以前のバージョンに戻るときに使用する。

パースペクティブ

カテゴリをまたがってアイテムをグループ化したもの。パースペクティブにより、「このアイテムに関心があるのは誰か」が明確になる。たとえば、世界中の様々な行楽地へのリンクを追加して、「Vacations for Nordic Enthusiasts」、「Archeology Expeditions」および「Extreme Vacations for Adventurers」などのパースペクティブに割り当てることができる。パースペクティブはオプションで指定する。1つのアイテムに複数のパースペクティブを割り当てることができる。

パートナ・アプリケーション (partner application)

Login Server に認証を委任しているアプリケーション。Login Server に登録されているユーザーは、シングル・サインオン・メカニズムを使用してパートナ・アプリケーションにログインできる。

バインド変数

文が正しく実行されるように有効な値または値のアドレスに置換される SQL 文中の変数。通常、Oracle Portal コンポーネントの開発者は、バインド変数を使用してコンポーネントのカスタマイズ・フォームにパラメータ入力フィールドを表示する。入力フィールドを使用すると、そのコンポーネントによって表示されるデータをエンド・ユーザーが選択できる。

パッケージ (package)

仕様部と本体で構成されるデータベース・オブジェクト。仕様部には、他のプログラム・ユニットから参照できるデータ型とサブプログラムが含まれている。本体には、パッケージの実際のインプリメンテーションが含まれている。

バッチ・ジョブ (batch job)

Oracle Portal のバッチ・ジョブ機能を使用して、コンポーネントをバックグラウンドで実行すること。エンド・ユーザーは、コンポーネントのカスタマイズ・フォームでオプションを選択することにより、コンポーネントをバッチ・モードで実行できる。コンポーネントが大量のデータをベースにしている場合、またはコンポーネントが多数の行のデータを表示する場合に、バッチ処理を利用する。

ブックマーク

[お気に入り \(favorite\)](#) を参照。

バナー (banner)

タイトルとオプションのグラフィック要素が含まれる色付きの水平バーで、Oracle Portal のページやフォルダに表示される。バナーは、ページの視覚的な流れを分割し、その下に表示される関連項目を分類するときに使用する。

1 つのフォルダに、「メイン」、「サブ」、「領域」、「グループ基準」という 4 種類のパナーを指定できる。

パブリック・フォルダ (public folder)

ログインしていないパブリック・ユーザーが表示できるコンテンツ領域内のフォルダ。フォルダ所有者またはコンテンツ領域管理者は、フォルダをパブリックとして明示的に指定する必要がある。

パブリック・ユーザー (public user)

Oracle Portal にログインしていないユーザー。ただし、Oracle Portal にアクセスすることはできる。最初に Oracle Portal にアクセスするときは、ログイン権限に関係なく、パブリック・ユーザーとしてアクセスすることになる。パブリック・ユーザーは、パブリックと指定されたコンテンツ領域のフォルダを表示することはできるが、コンテンツを編集することはできない。

パラメータ入力フィールド (parameter entry field)

カスタマイズ・フォーム上のフィールド。エンド・ユーザーは、このフィールドを使用して Oracle Portal コンポーネントに渡す値を入力できる。

バルク・ロード (bulk load)

「Zip ファイル・アイテム (Zip file item)」を参照。

反転イメージ (rollover image)

Oracle Portal のコンテンツ領域のナビゲーション・バーまたは Oracle Portal のページのタブ上で、カーソルがイメージ上を通過したときに表示される別のイメージ。

非構成済み UI テンプレート (unstructured UI template)

Oracle Portal コンポーネントの外観を制御する共有コンポーネント。非構成済み UI テンプレートは、HTML コードをベースにしている。その HTML コードを実行するとき、コンポーネント、タイトル、ヘッダーなどの要素が動的に埋め込まれる。

ビュー (view)

データベースに実際には存在しない行を持つ仮想の表。ただし、この仮想の表は、データベースに物理的に格納されている表をベースにしている。

表 (table)

リレーショナル・データベースの基本的な記憶構造。

表示名 (display name)

Oracle Portal 全体で使われる、オブジェクトの外部名。ナビゲータ内だけでなく、ページ、フォルダまたはコンポーネントのバナーでも使われる（変更されていない場合）。オブジェクトがポートレットとして公開されると、「使用可能なポートレット」リストやポートレット・リポジトリでは、表示名がそのポートレットのタイトルとして使われる。

表示モード (View mode)

Oracle Portal のコンテンツ領域の表示や対話処理を行うときの通常モード。「編集モード (Edit mode)」を参照。編集モードは、フォルダやアイテムを管理するときに使用する。

表領域 (tablespace)

オブジェクトを格納できるデータベースの領域を割り当てること。

ファイル・アイテム (file item)

フォルダに追加できるアイテム・タイプの1つ。ファイル・アイテムを追加すると、そのファイルがコンテンツ領域にアップロードされ、ホスト・データベースに格納される。ユーザーが表示名リンクをクリックすると、そのファイルがユーザーのコンピュータにダウンロードされ、ユーザーの Web ブラウザに表示される。

ファンクション (function)

指定された一連の操作を実行した後で値を返す PL/SQL のサブプログラム。通常、ファンクションは、大きめのアプリケーションの範囲内で特定のタスクを実行するために作成された、小規模で非常に特殊なコード・ブロックである。

エンド・ユーザーは、PL/SQL アイテムまたはカスタム・アイテムのタイトルをクリックすることにより、コンテンツ領域でプロシージャやファンクションを実行できる。

フォーム

1 つ以上のデータベース表、ビューまたはプロシージャのインタフェースを提供するコンポーネント。

フォルダ

コンテンツ領域内のコンテンツを格納するためのリポジトリ。Oracle Portal では、コンテンツ、PL/SQL、URL、検索という4つのフォルダ・タイプがサポートされる。コンテンツ領域のフォルダは、デスクトップ・コンピュータのフォルダに似ており、階層構造で管理される。フォルダには、ナビゲータとコンテンツ領域マップを介してアクセスできる。

フォルダ所有者 (folder owner)

フォルダのコンテンツ（アイテム）の管理を担当するユーザー。フォルダ内のアイテムを追加、編集または削除できる。

フォルダ・タイプ (folder type)

フォルダのコンテンツや、格納するフォルダ情報を定義する。Oracle Portal の基本フォルダ・タイプには、コンテナ、PL/SQL、検索、URL がある。カスタム・フォルダ・タイプは、コンテンツ領域管理者が作成する。基本フォルダ・タイプの機能を拡張したり、フォルダに関する追加情報を格納するときに使用する。

フォルダ・パス (folder path)

コロンで区切られた一連のフォルダ参照名で、ルート・フォルダで始まり、オブジェクト・フォルダで終わる。フォルダ・パスは、フォルダ・ページに表示される。フォルダ・パスにより、フォルダの完全なディレクトリ・パスが示され、フォルダ・リンク用の URL が作成される。

フォルダ領域 (folder area)

コンテンツ・アイテムが表示されるフォルダ・ページ上の領域。

フォルダ・リンク・アイテム (folder link item)

フォルダに追加できるアイテム・タイプの 1 つ。フォルダ・リンクは、コンテンツ領域内の他のフォルダへのルートを提供する。ユーザーがその表示名リンクをクリックすると、そのアイテムから参照しているフォルダがユーザーのブラウザに表示される。

フレーム・ドライバ (frame driver)

2 つのフレームに分割された Web ページで構成されるコンポーネント。一方のフレーム（ドライビング・フレーム）には、もう一方の（ターゲット）フレームの内容を取り出すための SQL 問合せが含まれる。

プロキシ・サーバー (proxy server)

他のサーバーのファイルへのアクセスを提供するサーバー。ローカル・キャッシュまたはリモート・サーバーのファイルを取り出す。

プロシージャ (procedure)

指定された一連の操作を実行する PL/SQL サブプログラム。

プロバイダ (provider)

[ポートレット・プロバイダ \(portlet provider\)](#) を参照。

プロバイダ・レコード (provider record)

ポートレット・プロバイダから返されるレコード。指定したポートレット情報が含まれている。

プロパティ・シート (property sheet)

アイテム属性やフォルダのプロパティが表示される。アイテム・マネージャやフォルダ・マネージャにアクセスする必要はない。

プロフィール (profile)

ユーザーが使用できるシステムおよび Oracle データベースのリソース。

ページ

Oracle Portal で作成するオブジェクト。いくつかのポートレットで構成される。ページを表示するたびに、そのページ用に選択したポートレットとレイアウトに基づいて、ページが自動的に組み立てられ、書式設定される。

ページ・スタイル

[スタイル \(style\)](#) を参照。

ページ・レイアウト (page layout)

ページに表示される領域の数やそれらの編成方法を定義する。

編集モード (Edit mode)

コンテンツ領域にログインしている許可されたユーザーが、フォルダやフォルダに含まれるアイテムを管理できるようにするモード。編集モードに切り替えるには、フォルダ・ページの右上にある「編集」ボタンをクリックする。「編集」ボタンが表示されない場合は、フォルダにアイテムを追加したり、フォルダのプロパティを変更する権限が、そのユーザーに付与されていないことになる。

ポータル

コンテンツ領域、ページ、アプリケーション、外部ソースのデータなどの情報セット。1つの場所にまとめられ、「ページ」と呼ばれる共通インタフェースを介してアクセスされる。

ポータル管理者 (portal administrator)

データベース管理者を除き、Oracle Portal で最上位レベルの権限を持つユーザー。ポータル管理者は、Oracle Portal 内のすべての要素を表示および変更できる。たとえば、個人用のフォルダ、ページおよびアプリケーションも表示することができる。ただし、グループに対しては制限されることがある。ポータル管理者は、PORTAL_ADMINISTRATORS グループと PORTAL_PUBLISHERS グループは変更できるが、それ以外のグループについては、グループ所有者に任命されていない限り、変更することはできない。

ポータル・ディレクトリ (portal directory)

Oracle Portal ユーザーに関する情報の一覧を表示する。この情報には、他のユーザーもアクセスできる。ユーザーをこのディレクトリに含めるかどうかは、ポータル管理者が判断する。各ユーザーは、自宅の連絡先情報などの個人情報をこのディレクトリに入れるかどうかを指定できる。

ポートレット

再利用可能な情報コンポーネント。情報ソースを要約したり、情報ソースにアクセスする機能を持つ。ポートレットは、Oracle Portal ページの基本構成要素である。

ポートレット・パブリッシャ (portlet publisher)

オブジェクト（フォルダ、ページ、コンポーネントなど）をポートレットとして公開できるユーザー。このとき、これらのオブジェクトをページに組み込むことができる。

ポートレット・プロバイダ (portlet provider)

ポートレットを管理し、株価、ローカル・ニュース、気象情報などの特別なサービスを提供する製品（iSyndicate や Oracle Portal 自体など）。ポートレット・プロバイダは、登録されているパートナーにコードを提供する。このコードを実行すると、パートナーのポータル・ページにコンテンツがダウンロードされる。パートナーは、このコードを独自の HTML に埋め込んで、Oracle Portal ポートレット用のコンテンツを作成できる。

ポートレット・リポジトリ (portlet repository)

Oracle Portal によって作成されるコンテンツ領域。ローカル・ノードと登録済みのすべてのリモート・ノードで利用できるポートレットが、すべて格納される。ローカル・ノードに新しいプロバイダを登録したとき、またはリモート・ノードを登録して更新を行ったときに、プロバイダとそのポートレットはポートレット・レジストリに自動的に追加される。また、コンテンツ領域のオブジェクトがポータルに公開されると、そのコンテンツ領域（およびそのオブジェクト）はリポジトリにすぐに表示される。

ホーム・ページ (home page)

Oracle Portal にログインしたときに表示されるページ。ポータル管理者は、パブリック・ユーザーに対してこのページを選択する。許可されたユーザーは、独自のページを選択できる。

翻訳 (translation)

別の言語で作成されたコンテンツ領域。コンテンツ領域管理者が翻訳を作成すると、コンテンツ協力者はその言語でコンテンツを追加できる。また、コンテンツ領域のユーザーは、ブラウザの言語を正しく設定すると、そのコンテンツを表示できる。

マスター・ディテール・フォーム (master-detail form)

単一の HTML ページに、マスター表の行と複数のディテール行を表示するコンポーネント。マスター行の値により、問合せ、更新、挿入および削除のために表示されるディテール行が決まる。

メニュー

Web ページを表示するコンポーネントの 1 つ。エンド・ユーザーがクリックすることによって、他のメニュー、Oracle Portal コンポーネントまたは URL に移動できるオプションが含まれている。

ユーザー・インタフェース (UI) テンプレート (user interface (UI) template)

Oracle Portal コンポーネントの外観を制御する共有コンポーネント。コンポーネントの作成時に UI テンプレートを選択すると、そのコンポーネントが表示されるページのタイトル、タイトルの背景、他の Web ページへのリンク、背景色および背景イメージが自動的に選択される。

ユーザー / ロール (grantee)

オブジェクトに対する権限を別のユーザーから付与されたユーザー。

有効期限 (expiration period)

アイテムが期限切れになるまでの日数、または期限切れになる日付。アイテムが期限切れになると、そのアイテムの所有者およびコンテンツ領域管理者しかそのアイテムを表示できなくなる。期限切れのアイテムは、期限切れのすべてのアイテムがシステムからパージ（消去）されるときにデータベースから削除される。

要旨 (gist)

interMedia Text の一般要旨とは要約のことで、内容全体を最もよく表すいくつかの文書段落から構成される。一般要旨を使用して、テキストの主な内容の概要を把握したり、テキストの関心のある内容にのみアクセスすることができる。

ライブラリ (library)

データベースにまとめて格納される 1 つ以上の PL/SQL プログラム・ユニットの集合。複数のアプリケーションから同時に参照できる。

リモート・データベース (remote database)

個別のマシンで実行されるデータベース。接続文字列やデータベース・リンクを使用して、ネットワーク経由でアクセスできる。

リモート・ノード

現在ログインしているノード（ローカル・ノード (local node)）以外の Oracle Portal のインスタンス。

領域

ページ内の特定の場所。各領域には、独自の仕様を定義する。たとえば、領域内のポートレットの表示方法（行または列）や、行内の他の領域に対する相対的な幅などについて指定する。

リンク

開発者がコンポーネント間のハイパーテキスト・ジャンプを追加できるようにするコンポーネント。

リンク・テキスト (link text)

ホット・テキスト（通常は色付きで表示される）またはハイパー・テキスト。エンド・ユーザーがそのテキストをクリックすると、HTML コードで指定された Web ページが表示される。たとえば、HTML コードでは、 世界旅行 のように指定される。「世界旅行」は、色付きで表示されるリンク・テキストである。エンド・ユーザーがこのリンク・テキストをクリックすると、www.traveltheworld.com の Web サイトにジャンプできる。

ルート・フォルダ (root folder)

コンテンツ領域のフォルダ階層の最上位レベル。コンテンツ領域内の他のすべてのフォルダが含まれる。コンテンツ領域のホーム・ページとも呼ばれる。

例による問合せ (QBE) レポート (Query by Example (QBE) report)

エンド・ユーザーがデータベースの表またはビューに問合せを行ったり、値を挿入するインタフェースを提供するコンポーネント。「例による問合せ (QBE) レポート」の入力フィールドは、フォーム作成のベースになっているデータベースの表やビューの列に対応している。

レポート

SQL 問合せの結果を表形式で表示する Oracle Portal のコンポーネント。

ローカル・ノード (local node)

ユーザーがログインする Oracle Portal のインスタンス。各ノードには専用のポートレット・レジストリがあり、このレジストリから Oracle Portal の他のインスタンスにポートレットを提供できる。「リモート・ノード (remote node)」を参照。

ロール (role)

Oracle データベース・ユーザーのグループの 1 つ。データベース・オブジェクトの権限は、この単位で付与したり、取り消すことができる。データベース管理者は、データベース・ユーザーにロールを割り当てて、そのロールに対応付けられている Oracle データベース・オブジェクトの権限を付与する。

ロック (lock)

コンポーネントの編集に自動的に適用される設定。この設定により、他のユーザーはそのコンポーネントを編集できなくなる。

ワイルドカード (wildcard)

Oracle Portal では、パーセント (%) 文字。語句中の単一文字または連続する一連の文字を表すために使用する。

索引

A

Access Control List

定義, 1-7

ACL

Access Control List を参照, 1-7

E

Entertainment コンテンツ領域

フォルダ構造, 2-7

H

HTML

ポートレットへの追加, 3-4

HTML ポートレット, 2-4

追加, 3-4

L

LOV

値リストを参照, 4-21

O

Oracle Portal

概要, 1-1

Z

Zip ファイル・アイテム

コンテンツ領域への追加, 6-3

あ

アイテム

Zip ファイル, 6-3

オプション属性, 2-22

カテゴリの割当て, 6-7

コンテンツ領域への追加, 6-13, 6-17

属性, 1-5

特性の識別, 1-5

パースペクティブの割当て, 6-9

必須属性, 2-21

別の領域への移動, 6-23

領域への追加, 6-22

アイテム・タイプ

作成, 6-11, 6-12

属性の作成, 6-11

プロシージャ・コールの追加, 6-15

アイテム・ワークシート, 2-8

アクセス

コンポーネントへのアクセスの制御, 5-33

データベース・オブジェクト権限の付与, 3-15

フォルダ権限の付与, 6-25

値リスト

作成, 4-21, 5-16

社員の値リストの作成, 5-24

静的値リストの作成, 4-21

相互に依存する LOV の作成, 4-22

動的値リストの作成, 5-10

バインド変数を使用した動的値リストの作成, 4-22

ポップアップ・リストの作成, 5-24

アプリケーション

定義, 1-7

い

イベント・フォーム
作成, 3-10

う

ウィザード
「SQL 問合せからのチャートを作成」ウィザード, 4-17
SQL 問合せからのレポートの作成, 5-21, 5-31
階層の作成, 5-7
カレンダーの作成, 3-8, 5-28
静的値リストの作成, 5-16
データベース順序の作成, 3-14, 4-27, 5-15, 5-23
「問合せからのチャートを作成」ウィザード, 4-11
「問合せからのレポートを作成」ウィザード, 4-6, 4-19
動的値リストの作成, 5-16, 5-24
表またはビューを基にしたフォームの作成, 3-10, 4-23, 5-13, 5-15, 5-17, 5-24
ページの作成, 3-2, 4-3
リンクの作成, 3-16, 4-10, 5-21

お

お気に入り
リンクの削除, 3-7
リンクの追加, 3-6
「お気に入り」ポートレット
追加, 3-5
リンクの削除, 3-7
リンクの追加, 3-6

か

階層
作成, 5-7
外部アプリケーション, 2-4
カスタム・アイテム・タイプ
作成, 6-11, 6-12
属性の作成, 6-11
プロシージャ・コールの追加, 6-15
カテゴリ
アイテムへの割当て, 6-7
カテゴリ構造の候補ワークシート, 2-16
コンテンツ領域, 2-14

作成, 6-6
定義, 1-6
カテゴリ構造の候補ワークシート, 2-16
カレンダー
イベントを表示するカレンダーの作成, 3-8
更新用フォームの使用, 3-10
作成, 3-8
届出休暇日の表示用に作成, 5-28
フォームにアクセスするボタンの作成, 3-17
ポートレットとして追加, 3-18

く

グループ (group)
作成, A-3

け

権限
デモ・ポータル作成, 3-1, 4-1, 5-2
フォルダのアクセス権限の付与, 6-25

こ

コンテンツ領域
アイテム・ワークシート, 2-8
概要, 1-5
計画, 2-6
セキュリティの実装, 2-13
デモのインストール, A-4
トラブルシューティング, 2-24
フォルダ構造, 2-12
ページとの相違点, 1-6
ユーザー・コミュニティ・ワークシート, 2-10
コンテンツ領域スタイル
定義, 1-5
コンポーネント
1つのポートレットに複数のコンポーネントを表示, 4-14, 4-17
値リストの作成, 4-21
単一ポートレットに様々なコンポーネントを追加, 4-26
単一ポートレットに複数のコンポーネントを追加, 4-15
チャートの作成, 4-11, 4-17
別のコンポーネントにアクセスするボタンの作成, 3-17

ポートレットとして追加, 3-18, 4-13
ポートレットへの追加, 4-37
リンク, 3-16, 4-10
レポートの作成, 4-19

す

スキーマ
デモのインストール, A-4
スタイル, 3-2

せ

セキュリティ, 1-7
コンテンツ領域, 2-13
コンポーネントへのアクセス権限を特定のグループ
に付与する, 5-33
コンポーネントへの適用, 5-33
ページ, 2-5

そ

属性
アイテム・タイプ (オプション), 2-22
アイテム・タイプ (必須), 2-21
作成, 6-11
組織図
作成, 5-7
フォームからのリンク, 5-10

た

タブ
外観の設計, 5-36
グループへの表示, 5-5
セキュリティによる表示または非表示, 5-4
タブ・ページの作成, 4-3, 5-4
ポートレット内に作成, 4-14, 4-17, 4-26
ポートレットの追加, 5-36, 5-37, 5-39

ち

チャート
作成, 4-11, 4-17
単一ポートレットに複数のコンポーネントを追加,
4-15
テスト, 4-12

ポートレットとして追加, 4-13

て

データベース・オブジェクト
データベース順序の作成, 3-14, 4-27
データベース順序
作成, 3-14, 4-27, 5-15
フォーム用に作成, 5-23
デモ
ポータル、スキーマおよびコンテンツ領域のインス
トール, A-4

の

ノード
定義, 1-5

は

パースペクティブ
アイコン, 6-9
アイテムへの割当て, 6-9
コンテンツ領域, 2-15
作成, 6-8
定義, 1-6
バインド変数
動的値リストの作成, 4-22
はじめに
表記規則のサンプル, x

ひ

表示
ポータルでのコンポーネント表示の制御, 5-33

ふ

フォーム
LOV で使用, 4-23
外観の変更, 3-12
階層へのリンク, 5-10
カレンダー内にイベントを更新するためのフォームを
作成, 3-10
休暇届用に作成, 5-23, 5-24
作成, 3-10, 4-23, 4-27
人材募集状況の検索用に作成, 5-13

- 人材募集または募集終了用に作成, 5-15, 5-17
- データベース順序を作成してレコードを更新する, 3-14
- フォームのデータベース順序の作成, 5-15
- フォルダ
 - ポートレットとして追加, 4-5
 - 領域のプロパティの変更, 6-19
 - レイアウトの変更, 6-18
- フォルダ・ツリー・ワークシート, 2-19
- 複数ファイル
 - コンテンツ領域への追加, 6-3
- ブックマーク
 - ポートレットからの削除, 3-7
 - ポートレットとして追加, 3-5
 - ポートレットへの追加, 3-6

へ

- ページ
 - 計画, 2-2
 - コンテンツ領域との相違点, 1-6
 - 作成, 3-2
 - タブの作成, 4-3
 - 定義, 1-3
 - ポートレットとして追加できるようにする, 4-3
 - ポートレットとして追加, 4-3
- ページ・スタイル
 - 作成, 2-4
 - 定義, 1-3
- ページ領域
 - 定義, 1-3

ほ

- ポータル
 - イントラネット用に作成, 3-1, 4-1, 5-1
 - 簡単なイントラネット・ポータルの作成, 3-1
 - コンポーネント表示の制御, 5-33
 - 作成, 3-1, 4-1, 5-1
 - 情報, 3-1
 - 人事部門用に作成, 5-1
 - 人事ポータルのタブの設計, 5-36
 - セキュリティの使用, 5-1
 - 定義, 1-3
 - デモのインストール, A-4
 - パブリックへの表示, 3-19
 - ビジネス・ライン用に作成, 4-1

- ポートレットの追加, 3-18
- メニューの追加, 4-37
- ポータル管理者 (portal administrator)
 - グループの作成, A-3
 - デモ用のポータル、スキーマおよびコンテンツ領域のインストール, A-4
 - ユーザーの作成, A-1
- ポートレット
 - 1つのポートレットに様々なコンポーネントを表示, 4-17
 - コンテンツ領域オブジェクト, 6-27
 - チャートの追加, 4-13
 - 追加, 3-18
 - 定義, 1-3
 - フォルダの追加, 4-5
 - 複数のコンポーネントの追加, 4-26
 - 複数のタブの作成, 4-14, 4-15, 4-17, 4-26
 - ページ上での配置, 5-36
 - ページへの追加, 5-36, 5-37, 5-39
 - ページをポートレットとして追加, 4-3
 - メニューの追加, 4-37
- ポートレットとして追加, 4-37
- ポートレット・プロバイダ
 - 定義, 1-4
- ボタン
 - PL/SQL を使用して作成, 3-17

め

- メニュー, 4-37

ゆ

- ユーザー
 - 作成, A-1
- ユーザー・コミュニティ・ワークシート, 2-10
- サンプル, 2-12

り

- リモート・ノード
 - 定義, 1-5
- 領域
 - アイテムの移動, 6-23
 - アイテムの追加, 6-22
 - プロパティの変更, 6-19
 - レイアウトの変更, 6-18

リンク

- コンポーネント間で作成, 3-16, 4-10, 5-21
- チャートのリンク・テスト, 4-12
- チャートをレポートにリンク, 4-6
- フォームと階層の間に作成, 5-10
- レポートとフォームの間に作成, 5-21
- レポートをチャートにリンク, 4-6

れ

レイアウト, 3-2

- 作成, 4-3
- フォルダのレイアウトの変更, 6-18
- 領域のプロパティの変更, 6-19

レポート

- SQL 問合せからの作成, 5-21, 5-31
- 休暇残日数表示用に作成, 5-31
- 現在の人材募集状況の表示用に作成, 5-21
- 作成, 4-6, 4-19
- 人材募集状況の表示用に作成, 5-21
- テスト, 4-9

ろ

ローカル・ノード、定義, 1-5

